

看護学分野

発達過程に共通する看護実践

授業科目	基礎薬理学	責任者	土屋 裕義	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者	平尾 温司	時間数	15	受講セメスター	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	薬物療法と看護を理解するために必要な基礎的な薬理学について理解する。						
	到達目標	1. 薬物動態について理解する。 2. 薬力学について理解する。 3. 医薬品の開発について理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	薬理学序論	[講義] 薬物治療の目的について学習する。 薬物療法に重要な看護師の役割について学習する。					土屋	
2	薬理学総論 (1)	[講義] 薬理作用のメカニズムについて学習する。 薬物の吸収・分布について学習する。					土屋	
3	薬理学総論 (2)	[講義] 薬物の代謝・排泄について学習する。					土屋	
4	薬理学各論 (1)	[講義] 抗生物質・抗ウイルス薬について学習する。					土屋	
5	薬理学各論 (2)	[講義] 神経系に作用する薬について学習する。					土屋	
6	薬理学各論 (3)	[講義] 循環器系に作用する薬について学習する。					土屋	
7	薬理学各論 (4)	[講義] 上記2カテゴリー以外の薬について学習する。					土屋	
8	評価						土屋	
教科書	「薬がみえる」(vol. 1) 医療情報科学研究所編集、メディックメディア 2014年 ※初回授業時に購入指針を説明する。			参考書等	「NEW 薬理学」(改訂第7版) 田中千賀子ら編、南江堂、2017年 「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 第14版」吉岡充弘他著、医学書院、2018年 「薬がみえる」(vol. 2、3) 医療情報科学研究所編集、メディックメディア 2015年、2016年			
履修条件	なし			評価方法	1. 課題レポートあるいは筆記試験 (100%) 2. 学習態度 (減点法)			
備考	薬物療法時の看護を考える上で基礎となる科目である。授業時に口頭による解答を求める。 教科書の関連する部分に目を通して授業に参加するとともに、事後学習を行うことが望ましい。 初回参加時には、身の回りの医薬品にどのようなものがあるか、ニュースでは医薬品に関してどのようなことが報じられているか、調べておくと良い。							

授業科目	臨床薬理学	責任者	相澤 健一	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者	倉科 智行	時間数	15	受講 Semester	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	薬物療法と看護を理解するために必要な臨床的な薬理学について理解する。						
	到達目標	1. 医薬品の安全な使用（効果的な活用と薬害の防止）について理解する。 2. 処方箋の意味を理解する。 3. 臨床で働く医師や薬剤師の役割について理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	薬物療法の意義	[講義] 薬物療法の理論、意義、評価法について学習する。					今井 (靖)	
2	薬の吸収・分布・代謝・排泄	[講義] 薬物の体内動態、治療薬物モニタリング (TDM) の必要性、方法について学習する。					桂田	
3	薬物相互作用	[講義] 薬物相互作用について学習する。					澤城	
4	病態に応じた薬物治療①	[講義] 小児、高齢者、妊産婦における薬物投与方法について学習する。					相澤	
5	病態に応じた薬物治療②	[講義] 腎障害患者、肝障害患者における薬物投与方法について学習する。					今井 (利)	
6	処方箋と薬剤師業務	[講義] 処方箋の見方や薬剤師の業務について学習する。					須藤	
7	薬物療法と倫理性	[講義] 臨床研究・薬害の歴史、臨床試験の意義と倫理性について学習するとともに全講義の総括を行う。					今井 (靖)	
8	試験						相澤	
教科書	「症例で理解するベッドサイドの臨床薬理学」 藤村昭夫編集、診断と治療社、2011年			参考書等	「臨床薬理学 第4版」日本臨床薬理学会編、医学書院、2017年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (80%) 2. 学習態度 (20%)			
備考	現代の医療には薬物療法が不可欠である。看護を行う上で、最低限知っておきたい薬物療法の理論・倫理性を学習し、実際の臨床の場で薬物療法がどのように実施されているのか、何が問題でどんな点に気をつければよいのかを知るための講義である。受講にあたっては、講義前に教科書等により予習し、講義終了後、教科書や配布資料等を用いて復習を行うこと。予習・復習を十分行い、定期試験にそなえること。							

授業科目	臨床検査学		科目責任者	倉科 智行	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	15	受講セメスター	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	診療場面で一般的に行われる検査の役割および診断・治療との関係性を理解し、対象者の看護援助の原理原則を学習する。							
	到達目標	1. 疾病診断に用いられる基本的な検査法を理解する。 2. 疾病診断に用いられる基本的な検査機器・用具を理解する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1	臨床検査の役割と意義 検体の取り扱いと感染	[講義] 臨床検査の役割と意義を学習する。 検体の取り扱い方と医療者の感染予防を学習する。						倉科	
2	検体検査	[講義] 一般、生化学、血液、微生物の検査と結果の評価法を学習する。						倉科	
3	心電図検査	[講義] 心電図検査の評価法を学習する。						倉科	
4	超音波検査(1)	[講義] 超音波の結果の評価法を学習する。腹部超音波の所見を中心に学習する。						紺野	
5	超音波検査(2)	[講義] 超音波の結果の評価法を学習する。腹部超音波以外の超音波の所見を中心に学習する。						紺野	
6	放射線検査(1)	[講義] X-P、MRI、CT、血管造影の結果の評価法を学習する。						木島	
7	放射線検査(2)	[講義] X-P、MRI、CT、血管造影の結果の評価法を学習する。						篠原	
8	評価							倉科	
教科書	「看護のための臨床検査」 浅野嘉延著、南山堂、2015年				参考書等	なし			
履修条件	なし				評価方法	1. レポート(70%) 2. 小テスト(30%)			
備考	予習として前学期に学ぶ「病態学各論」における検査についての項目を確認し講義に臨み、課題を念頭に置いて復習を行うこと。								

授業科目	病態学概論		科目責任者	倉科 智行	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	30	受講 Semester	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	病変の生じるプロセス、病気の定義・病因などの基本を学習する。							
	到達目標	1. 生体のシステムと病気、生命現象を理解する。 2. 細胞の変性と壊死について理解する。 3. 損傷修復と再生について理解する。 4. 循環障害について理解する。 5. 炎症について理解する。 6. 腫瘍について理解する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1	病気と病理学	[講義] 病気とは何か、病理学とは何かについて学習する。						倉科	
2・3	細胞の異常	[講義] 細胞の変性と壊死、組織の修復と再生について学習する。						倉科	
4	先天異常	[講義] 先天異常について学習する。						倉科	
5・6	循環障害	[講義] 循環障害について学習する。						倉科	
7・8	代謝障害	[講義] 代謝障害について学習する。						倉科	
9	老化	[講義] 老化について学習する。						倉科	
10	感染	[講義] 感染と感染症について学習する。						倉科	
11	免疫	[講義] 免疫と免疫異常について学習する。						倉科	
12	炎症	[講義] 炎症について学習する。						倉科	
13	腫瘍	[講義] 腫瘍について学習する。						倉科	
14	症候学	[講義] 症状・徴候と疾病・病態との関連について学習する。						倉科	
15	試験							倉科	
教科書	「なるほどなっとく病理学 (改訂2版)」 小林正伸著、南山堂、2019年			参考書等	なし				
履修条件	なし			評価方法	1. 試験 (80%) 2. 小テスト (20%)				
備考	基礎から臨床への橋渡しとなる科目である。病気の定義を知り、病むことと癒えることを動的に理解することで2年次の「病態学各論」をより深く学べるようになる。受講にあたっては教科書を用いた予習・受講後の復習を十分行うこと。「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」の復習は必須である。								

授業科目	病態学各論		科目責任者 倉科 智行	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	機能障害を引き起こす疾患と治療、ならびにその発生要因について理解する。						
	到達目標	1. 各機能障害を引き起こす疾患を理解する。 2. 疾患に伴う治療の特徴を理解する。 3. 疾患・治療、検査と機能障害の発生との関連を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	循環器疾患 1	[講義] 循環器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
2	循環器疾患 2	[講義] 循環器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
3	呼吸器疾患	[講義] 呼吸器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
4	腎疾患	[講義] 腎疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
5	血液疾患	[講義] 血液の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
6	消化器疾患 1	[講義] 消化器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
7	消化器疾患 2	[講義] 消化器疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
8	神経疾患 1	[講義] 神経疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
9	神経疾患 2	[講義] 神経疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
10	内分泌疾患	[講義] 内分泌疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
11	代謝疾患 1	[講義] 代謝疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
12	代謝疾患 2	[講義] 代謝疾患の主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
13	がん	[講義] がんの主要病態・症状の発現のしくみを学習する。					倉科	
14	心電図	[講義] 心電図を学習する。					倉科	
15	試験						倉科	
教科書	「病態生理学 第2版」田中越郎著、医学書院、2016年 「看護のための臨床検査」浅野嘉延著、南山堂、2015年			参考書等	「なるほどなっとく！内科学」浅野嘉延編著、南山堂、2016年 「看護のための臨床病態学」浅野嘉延著、南山堂、2017年			
履修条件	なし			評価方法	1. 試験 (80%) 2. 小テスト (20%)			
備考	主要疾患の病態生理を理解していることが、よりよい看護実践の根幹となる。受講にあたっては、教科書での予習・各回の講義の復習を十分行うこと。「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「病態学概論」の復習をして講義に臨み、理解を揺るぎないものにして欲しい。							

授業科目	生化学	責任者	坂下 英司	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者	倉科 智行	時間数	15	受講セメスター	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	物質の代謝から人体(生物体)について学習する。						
	到達目標	1. 生化学の意味と人体の科学的組成を理解する。 2. 生体の酸化還元と代謝の調節を理解する。 3. 糖質、脂質、タンパク質の化学と代謝を理解する。 4. 核酸の化学と代謝を理解する。 5. ミネラルとビタミンの代謝を理解する。 6. ホルモンについて理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	代謝総論、酵素	[講義] 異化と同化、生体の酸化還元、酵素について学ぶ。					遠藤	
2	糖代謝	[講義] 解糖系、TCA 回路、グリコーゲン代謝、糖新生、ペントースリン酸回路について学ぶ。					遠藤	
3	脂質	[講義] 脂質の合成と分解について学ぶ。					富永	
4	タンパク質代謝	[講義] アミノ酸代謝について学ぶ。					富永	
5	ヌクレオチド代謝	[講義] 核酸の合成と分解について学ぶ。					坂下	
6	遺伝情報、先天代謝異常	[講義] 遺伝のしくみ、タンパク質の合成について学ぶ。遺伝子病について学ぶ。					坂下	
7	ホメオスターシス	[講義] 恒常性の維持、体液のバランス、ホルモンの役割を学ぶ。					坂下	
8	試験						坂下	
教科書	「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 第5版」宮澤恵二編、 株式会社メディカ出版、2018年			参考書等	「わかりやすい生化学 第5版」石黒伊三雄ら編、 ヌーヴェルヒロカワ、2017年			
履修条件	なし			評価方法	1. 多肢選択問題および/または記述問題による試験 (90%) 2. 参加態度 (10%)			
備考	医学、看護学を学ぶために基礎となる科目である。 予習・復習を十分行って臨むこと。予習は、講義内容に相当する教科書の項目を1時間程度予習する。復習は、配布プリントを含めた講義内容を1時間程度復習する。							

授業科目	栄養学	責任者	茂木 さつき	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者 学内	湯山 美杉	時間数	15	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	食物の成分としての栄養について理解し、健康を保つために必要な栄養について学習する。						
	到達目標	1. 栄養学の三本柱(食品・人体・人文・社会)を理解する。 2. 炭水化物・脂肪・たんぱく質の栄養について理解する。 3. ミネラルとビタミンについて理解する。 4. 食品群の考え方を理解する。 5. 調理と栄養について理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	栄養学の三本柱を理解する	[講義] ・栄養学の三本柱(食品、人体、社会)について学び、栄養との関わりについて学習する。					茂木	
2・3	炭水化物・脂肪・たんぱく質の栄養について理解する	[講義] ・炭水化物・脂肪・たんぱく質について、必要量、栄養価、消化・吸収の過程を学習する。					茂木	
4	ミネラル、ビタミンについて理解する	[講義] ・ミネラル、ビタミンについて、働きと必要量を学習する。					茂木	
5・6	食品群の考え方を理解する	[講義・演習] ・食品成分表の使用方法を理解し、食品別の栄養素の特徴を学ぶ。 ・各食品別の特徴をとらえた食品群の考え方をふまえ、栄養素を過不足なく取り込むための工夫について学習する。 ・食事記録表に食事摂取状況を記録し、食品成分表にてエネルギー・栄養素の算出する方法を学ぶ。					茂木	
7	調理と栄養について理解する	[講義] ・調理法による栄養成分の変化、消化のしやすさなどを学習する。					茂木	
8	試験						茂木	
教科書	「看護栄養学第4版」尾岸恵三子他著、医歯薬出版、2018年 「食品成分表2021」女子栄養大学出版、2021年			参考書等	「日本人の食事摂取基準(2020年版)」伊藤貞嘉、佐々木敏監修、第一出版、2020年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験(90%) 2. 課題(献立)レポート(10%)			
備考	5、6回目は食品成分表を用いて各自献立の栄養価計算を行いますので、電卓持参のこと。 食生活を支援するのは、看護の中でも重要です。教科書にて予習・復習を行って講義に臨んで下さい。							

授業科目	人体の構造と機能 I	科目責任者	平尾 温司	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	1年次 前学期	
学習目的と目標	目的	健康な人体の構造について、体系的に学習する。						
	目標	ICFの示す身体の解剖学的構造について、身体の生理学を含めた心身機能と関連させながら、系統的に理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	細胞から人体へ	[講義] 人体の構成要素、体腔、器官系、人体の相対的位置を示す用語およびホメオスタシスについて学習する。					平尾	
2	細胞	[講義] 細胞の構造、細胞膜および細胞内小器官について学習する。					平尾	
3	組織と膜	[講義] 器官系を構成する主要な4つの組織について学習する。					平尾	
4	外皮と体温調節	[講義] 皮膚の構造と体温調節について学習する。					平尾	
5～7	骨格系	[講義] 骨の一般的な構造と働き、各部を構成する骨格および関節の作用について学習する。					平尾	
8・9	筋系	[講義] 骨格筋の形状と名称、体の動作、各部の骨格筋とその作用等について学習する。					平尾	
10	血液と免疫系	[講義] 血液の一般的な性質、血液凝固、血液型および免疫系について学習する。					平尾	
11	リンパ系と水、電解質、酸-塩基平衡	[講義] リンパ液および体液の区分、組成と酸塩基平衡について学習する。					平尾	
12・13	呼吸器系	[講義] 呼吸に関わる臓器の構造と機能、呼吸のしくみ等について学習する。					平尾	
14・15	循環器系	[講義] 心臓および血管系の構造と機能について学習する。					平尾	
16	試験						平尾	
教科書	「ヒューマンボディ 原著第5版」 Barbara Herlihy 著、 エルゼビア・ジャパン、2018年			参考書等	「ぜんぶわかる人体解剖図」坂井建雄・橋本尚詞著、 成美堂出版、2018年			
履修条件	なし	評価方法	1. 筆記試験 (80%) 2. 小テスト (20%) 3. 学習態度 (減点法)					
備考	該当箇所の予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行うこと。復習の程度を確認するために、毎回、講義の始めに5分程度の小テストを実施する。							

授業科目	人体の構造と機能Ⅱ	科目責任者	平尾 温司	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と目標	目的	健康な人体の機能について、体系的に学習する。						
	到達目標	ICFの示す身体の生理学を含めた心身機能について、身体の解剖学的構造と関連させながら、系統的に理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1～3	消化器系	[講義] 消化管および消化腺の構造と機能について学習し、食物の消化・吸収のしくみについて理解する。					平尾	
4・5	泌尿器系	[講義] 泌尿器の構造と機能および尿の生成等について学習する。					平尾	
6	内分泌系	[講義] ホルモンを分泌する内分泌腺の構造およびホルモンの作用について学習する。					平尾	
7・8	生殖器系	[講義] 男性生殖器と女性生殖器の構造と機能、配偶子形成、排卵、受精、着床、妊娠までの機構について学習する。					平尾	
9～13	神経系	[講義] 中枢神経系（脳と脊髄）および末梢神経系（体性神経と自律神経）の構造と機能について学習する。					平尾	
14・15	感覚系	[講義] 感覚器（視覚器、聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚等）の構造と機能について学習する。					平尾	
16	試験						平尾	
17	解剖見学実習	[講義] 解剖体の見学を通じて、人体の構造について立体的に学習する。					平尾・野田・ 加藤・三木	
教科書	「ヒューマンボディ 原著第5版」 Barbara Herlihy 著、 エルゼビア・ジャパン、2018年			参考書等	「ぜんぶわかる人体解剖図」坂井建雄・橋本尚詞著、 成美堂出版、2018年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験（80%） 2. 小テスト（20%） 3. 学習態度（減点法）			
備考	該当箇所の予習を行った上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行うこと。復習の程度を確認するために、毎回講義の始めに5分程度の小テストを実施する。							

授業科目	免疫学	科目責任者	平尾 温司	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	1年次 前学期	
学習目的と目標	目的	免疫応答の仕組みと感染の仕組みについて学習する。						
	到達目標	1. 免疫応答の仕組みについて学習する。 2. 感染と生体防御の巧妙な仕組みについて理解する。 3. 免疫バランスの乱れにより惹起されるアレルギー、アナフィラキシーについて学習する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	免疫学の歴史と免疫の基本	[講義] 免疫学の歴史、免疫とは何か、2種類の免疫、白血球の働きについて学習する。					平尾	
2	免疫システムの仕組み～1～	[講義] 体液性免疫と細胞性免疫、抗原と抗体、免疫に関与するリンパ組織について学習する。					平尾	
3	免疫システムの仕組み～2～	[講義] B細胞と体液性免疫、抗体の種類と働き、自己の識別とMHCについて学習する。					平尾	
4	免疫システムの仕組み～3～	[講義] T細胞と細胞性免疫について学習する。					平尾	
5	免疫システムの仕組み～4～	[講義] NK細胞の働き、NKT細胞の働き、マクロファージの働きについて学習する。					平尾	
6	免疫システムの仕組み～5～	[講義] 補体の働きと作用、腸管免疫と気道免疫、免疫細胞の多様性の仕組み、HLAとCDについて学習する。					平尾	
7	免疫システムの補助因子	[講義] サイトカインの働き、細胞接着分子について学習する。					平尾	
8	感染症とアレルギー～1～	[講義] 感染症とは何か、各種微生物感染症の免疫について学習する。					平尾	
9	感染症とアレルギー～2～	[講義] アレルギーと免疫、アレルギーの種類と特徴について学習する。					平尾	
10・11	アレルギー疾患	[講義] アレルギー疾患とその治療について学習する。					平尾	
12	自己免疫性疾患	[講義] 自己免疫性疾患の仕組み、主な自己免疫性疾患について学習する。					平尾	
13	移植免疫	[講義] 臓器移植と免疫、移植免疫のメカニズム、臓器移植の適合性、各種臓器移植について学習する。					平尾	
14	がん免疫	[講義] がん免疫の関係、がん治療について学習する。					平尾	
15	試験						平尾	
教科書	指定しない			参考書等	「新しい免疫入門」 審良静男・黒崎智弘著、講談社、2014年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (100%)			
備考	教科書の該当箇所の予習を行った上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行うこと。							

授業科目	微生物学	責任者	加藤 大智	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
		調整者	倉科 智行	時間数	15	受講セメスター	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	微生物の特徴とヒトに重要な影響を与える微生物について学習する。						
	到達目標	1. 微生物の特徴と分類を理解する。 2. ヒトに重要な影響を与える微生物の特徴を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	微生物学 総論	[講義] 微生物および感染症全体の概念を学習する。また、感染経路および感染時の免疫反応(ワクチンを含む)について学習する。					村田	
2	細菌学 総論	[講義] 細菌(バクテリア)の構造・生理について学習する。					崔	
3	細菌学 各論	[講義] 重要な病原細菌の個々について概要を学習する。					崔	
4	ウイルス学 総論	[講義] ウイルスの概念と構造・増殖について学習する。					村田	
5	ウイルス学 各論	[講義] 重要な病原ウイルスの個々について概要を学習する。					村田	
6	寄生虫学	[講義] 寄生虫の概念・分類および重要な寄生虫について概要を学習する。					加藤	
7	滅菌・消毒と院内感染	[講義] 滅菌・消毒の方法について学習する。さらに、院内感染対策を手指消毒・マスク着用を中心に学習する。					崔	
8	試験						崔・村田・加藤	
教科書	「コンパクト微生物学改訂第4版」、小熊恵二・堀田博 編集、南江堂、2015年			参考書等	「わかる!身につく!病原体・感染・免疫」改訂3版、藤本秀士 編集、南山堂、2017年 「イラストでわかる微生物学超入門」齊藤光正 編集、南山堂、2018年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験(100%) 2. 学習態度(減点法)			
備考	微生物それぞれの特徴を理解し、微生物が引き起こす感染症の全体像を把握する。また、感染に対する防御策を学習する。治療、看護を考えるための基礎となる科目である。教科書を用いて予習・復習を十分に行い、講義に臨むこと。							

授業科目	グループ・アプローチ	科目責任者	永井 優子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講semester	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	グループの特徴とグループ内で生じるプロセスやダイナミクスを理解し、看護実践の基盤となるグループ・アプローチの基本を学習する。						
	到達目標	1. グループの特徴について説明することができる。 2. 小グループにおけるプロセスおよびダイナミクスの基本を説明することができる。 3. 社会的場面(対人的場面)における個人の心理や行動の基本を説明することができる。 4. 保健医療福祉に関連のあるグループ・アプローチの概略を説明することができる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	グループとは	〔講義〕グループの定義、集団の機能と構造について学習する。					永井	
2	集団らしさの過程	〔講義〕グループの形成と発達について学習する。					永井	
3	グループ内の影響過程	〔講義〕同調と逸脱、モデリング、社会的促進、グループの分極化、マスコミの影響について学習する。					永井	
4	グループの生産性	〔講義〕小グループのパフォーマンスに影響する要因と社会的手抜きについて学習する。					永井	
5	リーダーシップとメンバーシップ	〔講義〕リーダーシップ理論、リーダーシップの4要因、リーダーシップの原理、メンバーシップの特徴について学習する。					永井	
6	グループの意思決定あるいは合意形成	〔講義〕グループの意思決定と個人の意思決定との相違、グループ討議、グループ思考、交渉、連合形成、社会的ジレンマ、共通情報バイアス、グループ極化、グループで生じる浅慮について学習する。					永井	
7	グループ・アプローチと看護	〔講義〕看護におけるグループ・アプローチの概略について学習する。					永井	
8	試験						永井	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (80%) 2. ムードルの課題レポート (20%)			
備考	本科目は、日常生活におけるあらゆるグループに生じる現象に関する理論、およびそれらに基づく有効なアプローチの基本的な考え方に関するものであり、実習科目を含む多くの科目に関連している。各回で提示される予習と復習を十分に行う必要がある。							

授業科目	社会福祉論	責任者	中津原 聖	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし	
		調整者	関山 友子	時間数	15	受講セメスター	1年次 前学期		
学習目的と 到達目標	目的	社会福祉とは何か、現代社会における社会福祉の意義と位置および歴史的概観、法的・行政組織の体系、社会保障、ならびに社会福祉と社会政策との関連を理解する。							
	到達目標	1. 社会福祉に関する知識を習得する。 2. 福祉事業が発祥する、時代的社会的背景および福祉成立過程、過去から現在に至るまでの社会福祉の変遷を理解する。 3. 福祉の心を理解し、福祉のあり方を考える。 4. 福祉国家に向かって福祉文化の創造を考え、人間の尊厳の高揚、インフォーマルな人間性の支援体制のあり方、人権を探索する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員		
1	社会福祉総論	[講義] 社会福祉と社会保障の全体像を学ぶ。					中津原		
2	現代社会と社会福祉	[講義] 不安定化する日本の現代社会の問題を考える。					中津原		
3	社会福祉の目的	[講義] 社会福祉や社会保障の意味や役割を考える。					中津原		
4	貧困と社会福祉	[講義] 貧困と生活保護について考える。					中津原		
5	子どもと女性の社会福祉	[講義] 子どもと女性の社会福祉について考える。					中津原		
6	高齢者と社会福祉	[講義] 高齢者の社会福祉について考える。					中津原		
7	これからの社会福祉・社会保障	[講義] 社会福祉・社会保障の課題を考え、これからの社会福祉や社会保障は、どのようにあるべきかを考える。					中津原		
8	試験						中津原		
教科書	指定しない			参考書等	なし				
履修条件	なし			評価方法	筆記試験(100%)				
備考	「社会福祉論」は、看護の専門科目を学ぶときの基礎として重要な科目である。社会福祉の基本的概念や知識をよく習得すること。予習、復習として参考となる書物等は講義内で随時紹介するので、各自興味のある範囲のものに目を通しておくことを推奨する。								

授業科目	保健医療福祉システム論	科目責任者	関山 友子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件なし
				時間数	30	受講 Semester	1年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	わが国の社会保障制度とそれに基づくヘルスケアの提供システムについて、法的・経済的背景を含めた成り立ちを理解する。また、行政サービス組織の枠組みとその組織の特性を理解する。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉に関する法体系の概要を理解する。 2. 保健医療福祉行政の理念と制度を理解する。 3. 保健医療福祉行政の組織・機構、運営計画、財政的基盤を理解する。また、保健医療福祉計画の策定過程と評価方法の基本を理解する。 4. 保健医療福祉システム、公衆衛生行政の現状と課題を理解する。また、保健医療福祉従事者の機能・役割を理解する。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	社会保障制度	[講義] わが国の社会保障制度について学習する。保健医療福祉に関する法体系・制度・システムについて学習する。					春山	
2	保健医療福祉行政の理念と原則	[講義] 保健医療福祉行政の理念と原則について学習する。					春山	
3・4	保健医療福祉行政の発展過程	[講義] 公衆衛生の考え方と公衆衛生の発展過程を学習する。保健医療福祉行政の変遷と統合化、保健医療福祉行政における課題を理解する。					島田	
5	医療提供体制	[講義] 医療法と医療制度の変遷について学習する。					春山	
6・7	保健医療福祉行政の仕組み	[講義] 国、都道府県、市町村の行政の仕組みを学習する。保健医療福祉にかかわる自治体行政の仕事と職員の責務、保健医療福祉の行財政と仕組みを学習する。					関山・塚本	
8	公衆衛生行政1	[講義] 地域保健法に基づく体制と動向を学習する。一般衛生行政の現状と課題を学習する。					青木	
9	公衆衛生行政2	[講義] 労働衛生行政の現状と課題を学習する。					江角	
10	公衆衛生行政3	[講義] 学校保健行政の現状と課題を学習する。環境保健行政の現状と課題を学習する。					青木	
11	社会福祉の制度	[講義] 生活保護制度について学習する。社会福祉制度(児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉)について学習する。					関山	
12	社会保険の制度1	[講義] 介護保険制度について学習する。					上野(ま)	
13	社会保険の制度2	[講義] 年金制度、その他の社会保険制度(労災保険、雇用保険など)について学習する。					島田	
14	保健医療福祉計画	[講義] 保健医療福祉計画の策定過程と評価方法の基本を学習する。					塚本	
15	試験						関山	
教科書	「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論 第4版」藤内修二、医学書院、2017年 「看護法令要覧平成31年版」日本看護協会出版会、2019年 「国民衛生の動向 2019/2020」厚生労働統計協会、2018年			参考書等	「国民の福祉と介護の動向2019/2020」厚生労働統計協会、2018年 「医療福祉総合ガイドブック 2019年度版」医学書院、2019年			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験(80%) 2. 課題提出物(20%)			
備考	本科目は、保健医療福祉システム下における看護活動を展開するうえで、必要な知識と態度を獲得するための基盤となる科目である。学生は、教科書等を用いて予習・復習と期末試験に加えて、授業中に課される課題遂行を通して、学習目的の達成度を高めることが期待されている。							

授業科目	疫学	科目責任者	関山 友子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし	
				時間数	30	受講セメスター	4年次 前学期		
学習目的と 到達目標	目的	疫学とは何か、保健問題解決のためになぜ必要なのかを理解し、その方法論を習得する。また、健康指標、保健統計関連指標について理解する。							
	到達目標	1. 疫学の定義、公衆衛生との関連を理解する。 2. 記述疫学、疫学研究方法、疫学指標を理解する。 3. 感染症、食中毒に関わる問題の解決や疾病対策と疫学との関連について理解する。 4. 看護・保健活動に必要な保健・看護情報を理解する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	疫学とは何か	[講義] 疫学の定義、疫学の歴史、疫学史上のエピソードなどを学習する。					関山		
2～4	健康と疾病異常の測定	[講義] 健康と疾病の概念、代表的な疫学指標（罹患率、有病率、死亡率、致命率、生存率など）を学習する。					関山		
5・6	疫学研究のデザイン	[講義] 症例対照研究、コホート研究、介入研究などの疫学研究のデザインを学習する。					江角		
7	疫学研究における偏りとその制御	[講義] 疫学研究において生ずる誤差や偏りにはどのようなものがあるか、なぜ起こるのか、それらを取り除くにはどうすればよいのかを学習する。					関山		
8	因果関係の判定と疫学要因	[講義] 因果関係を判定するための基本的な考え方と条件、疫学要因を学習する。					関山		
9～11	保健統計	[講義] 人口静態統計、人口動態統計、疾病統計、保健行政統計などのとり方とその内容を学習する。					関山		
12	サーベイランスと疾病登録	[講義] サーベイランスと疾病登録の定義、目的、内容などを学習する。					関山		
13	スクリーニング	[講義] スクリーニングの定義、目的、意義、実施上の原則、評価方法などを学習する。					関山		
14	疫学研究と倫理	[講義] 疫学研究における倫理的な問題、対象者選択の問題、介入研究における介入の妥当性などについて学習する。					関山		
15	試験						関山		
教科書	指定しない			参考書等	「看護学生のための疫学・保健統計」浅野嘉延、南山堂、2018年 「基本からわかる疫学入門（第3版）」大木秀一、医歯薬出版、2017年				
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験（85%） 2. 学習態度（15%）				
備考	疫学は、保健問題を解決するための基本的な概念や方法論を提供する学問である。講義前に教科書を読んで予習をしておくことが望ましい。また、講義中は、「統計学」や「統計学演習」において学習した内容と結びつけながら理解する必要がある。教科書や配布資料等で十分復習して定期試験に臨むこと。								

授業科目	看護学概論	科目責任者 小原 泉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
			時間数	15	受講semester	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	看護学の基盤となる主な概念を学び、看護の対象となる人とその生活を理解するとともに、看護活動を提供するための場と仕組みおよび看護専門職の役割・機能を学習する。					
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人間とその生活を通して看護の主要概念および看護理論を学ぶ。 2. 看護活動を展開するために必要な法律と倫理の基礎知識を学ぶ。 3. 看護の歴史的変遷を踏まえ、看護活動を提供するための場と仕組みに関する基礎知識を学ぶ。 					
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法				担当教員	
1	看護の目的と役割	[講義] 看護の目的と役割について概要を学習する。				小原	
2～3	看護の主要概念	[講義] 看護および看護学とはなにか、また看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」について学習する。 ・看護の対象としての人間とは ・環境とは ・健康とは ・看護とは				小原	
4～5	看護理論と看護実践への活用	[講義] 主要な看護理論の概要と看護実践での活用について学習する。 ・ナイチンゲール ・オレムの「セルフケア理論」				小原	
6	看護に関連する法律と倫理	[講義] 看護活動を展開するための法的根拠および看護における倫理と価値について学習する。				小原	
7	看護の歴史的変遷および今日の看護活動を提供する場と仕組み	[講義] 看護の歴史的変遷を概観し、今日の看護学の基盤となる看護の歴史を、ナイチンゲールの業績を中心に学習する。また現代看護の位置付け・看護学教育の変遷や展望について学習する。看護活動を提供する場とその仕組みやそこで求められている役割、看護をめぐる制度と政策、多職種との協働について学習する。				小原	
8	評価					小原	
教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年 「看護覚え書」F. ナイチンゲール著、小林彰夫ほか訳、うぶすな書院、2013年 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ますほか訳、日本看護協会出版会、2016年		参考書等	なし			
履修条件	なし		評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート (90%) 2. 学習態度 (10%) 			
備考	本科目は、これから看護学を学ぶ上で、最も大事な科目である。第1回目ガイダンス時に、全体の事前・事後学習について説明をする。学習計画を立て事前・事後学習を行い、主体的に授業に臨むこと。看護専門職を目指す者の基本的姿勢として学習態度を重視する。						

授業科目	実践基礎看護学概論Ⅰ		科目責任者	小原 泉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
	時間数	15			受講セメスター	1年次前学期			
学習目的と到達目標	目的	看護実践の基盤となる諸理論から、人間の健康と生活にかかわる看護を実践科学的側面から考察するとともに、その展開方法の概要を学習し、看護を取り巻く諸事象に関する課題を見据えて将来を展望する基礎的能力を養う。							
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践の基盤となる看護理論から、人間の健康と生活にかかわる看護の実践科学的諸側面を学ぶ。 2. 実践科学的諸側面から、看護を展開する方法の概要を学ぶ。 3. 看護者としての科学的思考と主体的な自己課題を解決する姿勢を身につける。 							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1	実践科学としての看護の展開方法	<p>[講義] 対象者の様々な健康課題及びレベルに応じた看護を実践科学として展開する方法の概要を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の健康課題とレベルに応じた看護を展開する方法 ・看護と技術及び思考過程との関係性 ・看護実践の基盤となる諸側面の分類とその方法の概要 						小原	
2	看護実践の基盤となる看護理論	<p>[講義] 主要な看護理論の概要と看護実践での活用について、ヘンダーソンによる看護ケアの構成要素としての14の基本的ニーズを中心に学習する。</p>						小原	
3	科学的・論理的に看護を展開する方法(1)	<p>[講義] 科学的・論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要を学習する—看護記録の方法、報告・連絡・相談—</p>						小原	
4	科学的・論理的に看護を展開する方法(2)	<p>[講義・演習] 科学的・論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要を学習する—主観的情報—</p>						小原	
5	科学的・論理的に看護を展開する方法(3)	<p>[講義・演習] 科学的・論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要を学習する—客観的情報—</p>						小原	
6	科学的・論理的に看護を展開する方法(4)	<p>[講義・演習] 科学的・論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要を学習する—アセスメント・全体像—</p>						小原	
7	科学的・論理的に看護を展開する方法(5)まとめ	<p>[講義] 科学的・論理的に看護を展開する方法としての思考過程の概要と、看護実践における今後の課題について学習する—看護計画・評価—</p>						小原	
8	評価							小原	
教科書	<p>「ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年 「看護覚え書」F. ナイチンゲール著、小林彰夫ほか訳、うぶすな書院、2013年 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ますほか訳、日本看護協会出版会、2016年</p>				参考書等	なし			
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・単位取得見込みが必要な科目「看護学概論」 				評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート(90%) 2. 学習態度(10%) 			
備考	<p>本科目は、看護を展開するための基本となる考え方およびその展開方法を学習する重要な科目である。科学的・論理的思考を、主体的に学ぶ習慣をつけていくため、事前・事後学習は教科書、資料をよく読みしっかり行い授業に臨むこと。学習者としての基本的姿勢は重視する。</p>								

授業科目	実践基礎看護学概論Ⅱ	科目責任者	永井 優子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし	
				時間数	15	受講semester	2年次前学期		
学習目的と到達目標	目的	精神の健康について身体・精神・社会的に理解し、精神の健康を促進する看護活動の概要を学習する。							
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康のとらえ方について理解する。 2. 精神の健康に影響する要因について理解する。 3. 精神看護の役割と機能を理解する。 4. 精神看護学で用いる理論について概略を理解する。 5. 精神の健康に関する資源・法制度の概要について理解する。 6. 精神の健康の現状と精神の健康の維持増進について理解する。 							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	精神の健康とは	[講義] 精神の健康の身体・精神・社会的とらえ方について学習する。					永井		
2	精神の健康の歴史	[講義] 精神の健康に関するとらえ方の歴史と精神障害者の精神障害者のケアに関する歴史について学習する。					永井		
3	精神の健康と影響要因	[講義] 精神の健康に影響する要因について学習する。					永井		
4・5	精神の健康を守るためのシステム	[講義] 精神の健康の関連する法律、制度、社会資源について概略を学習する。					永井		
6	精神の健康の現状	[講義] わが国および世界における精神の健康の現状の概要を学習する。					永井		
7	精神看護とは	[講義] 精神看護の役割と機能について学習する。					永井		
8	精神の健康の維持・増進	[講義] 精神の健康を維持・増進に活用する理論の概略を学習する。					永井		
9	試験						永井		
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「国民衛生の動向2020/2021」編集・発行：厚生統計協会、2020年 2. 精神看護に関する教科書(特に指定しない)初回授業で配付する書籍リストの中から、自分が使いやすいものを1冊選んで購入する。 3. 「障害者総合支援法とは 改訂第3版」丸山晃監修、東京都社会福祉協議会、2020年 				参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の精神保健福祉(精神保健福祉ハンドブック)日本公衆衛生協会、最新版 2. 参考書は講義内容に応じて紹介する。 			
履修条件	なし	評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験(70%) 2. 課題・レポート(20%) 3. e-learningの学習状況(10%) 4. 授業の参加状況と学習態度(減点法) 						
備考	<p>この科目は、「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」の履修条件となっている。また、「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「生涯発達看護論」「社会福祉論」「実践基礎看護学概論Ⅰ」などの既習科目との関連が深く、これらを復習しておく必要がある。精神保健医療福祉の法律や体制は移行期にあり、常に最新の資料であることを確認し、各回の関連する教科書を事前に読んで授業に臨むことを勧める。予習および復習はe-learningの課題に取り組み、授業で紹介するwebsiteを参考にするとよい。精神看護学を学ぶために大切なことは、さまざまな文化や社会で生きる人について関心を寄せることである。古今東西の映画や演劇、小説などはもちろん、音楽や絵画、彫刻などの芸術に親しんで、感性を磨くとともに、現在の社会情勢、医療状況等に関する報道についても、関心を持つことを勧める。</p>								

授業科目	実践基礎看護学概論Ⅲ		科目責任者 春山 早苗	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護の知識やあり方を習得する。						
	到達目標	1. 公衆衛生の理念・目標を追求する看護の役割・機能を理解する。 2. 公衆衛生の理念・目標を追求する看護の対象、方法論を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	公衆衛生看護とは 公衆衛生看護に関わる 概念	[講義] 公衆衛生看護とは何か、対象や場を学習するとともに、健康と基本的権利、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションなど公衆衛生看護に関わる概念について学習する。					春山	
2	公衆衛生看護の目的と 原則	[講義] 公衆衛生看護の目的、公衆衛生看護活動の原則、地域保健法下における保健師の役割を学習する。					春山	
3	地区活動のプロセス(1)	[講義] 地域における生活集団を対象とした看護のあり方と方法について学習する。 ・対象集団のとらえ方					春山	
4	地区活動のプロセス(2) 家族を単位とした援助 方法	[講義] 対象の家庭や生活の場において生活の質を高めることを目指して行われる看護のあり方について学習する。 ・地域診断、家庭訪問					春山	
5	行政サービスにおける 看護活動の展開方法	[講義] 地区活動と保健事業、保健事業計画づくりについて学習する。					春山	
6	予防的意義の高い看護 活動	[講義] 健康生活に関わる問題の予防と健康管理に関わる看護活動の意義と展開方法について学習する。					春山	
7・8	公衆衛生看護の歴史	[講義] 公衆衛生看護活動の始まりと歴史的な発展を学習する。					島田	
9	公衆衛生看護活動の展 開方法	[演習] 事例を用いて公衆衛生看護活動の目的や活動方法の学習を深める。数グループに分かれてセミナー形式で行う。					青木・春山・塚本・ 島田・江角・舟橋	
10	地域資源利用に関わる 援助方法	[講義] 地域資源利用に関わる援助方法について学習する。地域におけるヘルスケアチームづくり、地域資源の組織化について学習する。					春山	
11	ヘルスケアシステムづ くり1	[講義] 在宅療養者支援体制づくりにおける看護職の役割と活動方法について学習する。					江角	
12	ヘルスケアシステムづ くり2	[講義] 住民との協働による地区活動の展開と地域づくり、ヘルスケアシステムづくりについて学習する。					春山	
13	公衆衛生の目標を追求 する看護職の活動の場 と役割1	[講義] 学校生活集団を理解し、学校保健システムにおける看護職の役割について学習する。					青木	
14	公衆衛生の目標を追求 する看護職の活動の場 と役割2	[講義] 職場生活集団を理解し、産業保健システムにおける看護職の役割を学習する。					塚本	
15	試験						春山	
教科書	「最新公衆衛生看護学 第3版 2021年版 総論」宮崎美砂子、北山三津子他編、日本看護協会出版会、2021年			参考書等	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第3版」中村裕美子他著、医学書院、2016年 「最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論 第4版」金川克子編、「2 公衆衛生看護支援技術 第4版」村嶋幸代編、メヂカルフレンド社、2015年			
履修条件	なし			評価方法	1. 試験(80%) 2. 記録物の提出(20%)			
備考	公衆衛生看護学の概論について、主に行政に所属する保健師の活動を素材に教授する。わが国のヘルスケアシステムについて学習した「保健医療福祉システム論」や「社会福祉論」について、よく復習して臨むこと。教科書により予習し、配付資料やノートで復習して学習を進めていくこと。							

授業科目	ヘルスアセスメント	科目責任者	石井 容子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	1学年後学期	
学習目的と到達目標	目的	ヘルスアセスメントのための基礎的技術を習得する						
	到達目標	1. ヘルスアセスメントの目的と成り立ちを説明できる 2. ヘルスアセスメントに必要なコミュニケーション技術を説明できる 3. 系統的なフィジカルアセスメントの実施方法を説明できる						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	ヘルスアセスメントの目的・成り立ちと必要な看護技術	[講義、演習] ヘルスアセスメントの目的・成り立ち、心理・社会的状態のアセスメントの目的と方法、必要な看護技術（視診、触診、聴診および打診）について学習する。					石井 基礎看護学 全教員	
2	ヘルスアセスメントに必要なコミュニケーション技術	[講義、演習] 必要な情報を得るための態度と対象者との関係形成、ヘルスアセスメントに必要な問診・インタビュー内容とその方法、コミュニケーションの実際および情報を整理する枠組みと記録方法について学習する。					内堀 基礎看護学 全教員	
3・4	系統的フィジカルアセスメント（1）	[演習] 呼吸器系のフィジカルアセスメントの方法を学習する。					井上 基礎看護学 全教員	
5・6	系統的フィジカルアセスメント（2）	[演習] 循環器系および乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの方法を学習する。					甲賀 基礎看護学 全教員	
7・8	系統的フィジカルアセスメント（3）	[演習] 消化器系・生殖器・肛門のフィジカルアセスメントの方法を学習する。					石井 基礎看護学 全教員	
9・10	系統的フィジカルアセスメント（4）	[演習] 筋骨格系および神経系のフィジカルアセスメントの方法を学習する。					湯山 基礎看護学 全教員	
11・12	系統的フィジカルアセスメント（5）	[演習] 頭頸部および感覚器（耳・鼻・眼）、皮膚・爪のフィジカルアセスメントの方法を学習する。					里光 基礎看護学 全教員	
13・14	ヘルスアセスメントのための基本的技術のまとめ	[演習] ヘルスアセスメントのための基本的技術のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を習得する。					石井 基礎看護学 全教員	
15	試験						石井 基礎看護学 全教員	
教科書	「はじめてのフィジカルアセスメント 第2版」 横山美樹、メヂカルフレンド社、2019年		参考書等	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編、メディカ出版、2018年 「看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 第3版」角濱春美他編、メヂカルフレンド社、2020年				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」		評価方法	1. 技術試験（50%） 2. 事前・事後課題および演習参加態度（50%）				
備考	人の健康の査定（ヘルスアセスメント）を行う技術を学習する。中でもフィジカルアセスメント（身体的なデータの収集・査定）は、「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を活用することが不可欠である。身体的および心理社会的データの収集では、看護実践者としての相応しい態度も求められる。身だしなみを整え、コミュニケーションスキルも磨きながら、学習を進めること。毎回提示される事前・事後課題をしっかりと行うこと。							

授業科目	看護技術論 I		科目責任者 里光 やよい	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	15	受講セメスター	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	日常の生活行動に関連する援助としての看護実践に必要な基本的知識と科学的根拠に基づいた原理・原則について学習する。本科目では、安全・安楽な生活環境および生活行動（活動・休息・睡眠）を調整する基本的技術に焦点をあて学習する。						
	到達目標	1. 理論的背景に基づいた看護実践を学ぶ。 2. 看護実践の共通認識としての安全・安楽・自立を看護の観点から学ぶ。 3. 人の生活を総合的にとらえたうえで実践する看護技術を系統的に学ぶ。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	技術論概説 感染予防の方法	[講義] 看護における安全・安楽・自立の基本的考え方及びスタンダードプリコーションの考え方に基づいた感染予防の看護技術を学習する。					里光	
2	生活環境の援助方法①	[講義] 安全・安楽かつ効率的な看護技術を提供するためのボディメカニクスの基本と、対象者の生活環境の意義および看護技術を学習する。					湯山	
3	生活環境の援助方法②	[講義] 対象者の生活環境を理解し、アセスメントする方法及び看護技術を学習する。					湯山	
4	全身状態のアセスメント及び援助方法①	[講義] バイタルサインの意義を理解し、全身状態をアセスメントする方法および看護技術を学習する①。					里光	
5	全身状態のアセスメント及び援助方法②	[講義] バイタルサインの意義を理解し、全身状態をアセスメントする方法および看護技術を学習する②。					里光	
6	活動・休息のアセスメント及び援助方法①	[講義] 活動・運動の意義を理解し、アセスメントする方法及び看護技術を学習する。					湯山	
7	活動・休息のアセスメント及び援助方法②	[講義] 休息・睡眠の意義を理解し、アセスメントする方法及び看護技術を学習する。					湯山	
8	試験						里光	
教科書	・「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年 ・「はじめてのフィジカルアセスメント 第2版」横山美樹、メヂカルフレンド社、2019年			参考書等	「基礎看護技術 第8版」阿曾洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、2019年			
履修条件	・単位取得見込みが必要な科目「実践基礎看護学概論 I」			評価方法	1. 筆記試験 (90%) 2. 学習態度 (10%)			
備考	看護技術論 I は、看護技術演習 I と連動する科目構成となっている。身体の部位の名称、姿勢や体位などの専門用語についての理解が必要となる。教科書を活用し事前学習・事後学習をしっかりと行い、学びを整理していくこと。看護専門職を目指す者の基本的姿勢として学習態度を重要視する。							

授業科目	看護技術論Ⅱ		科目責任者 内堀 真弓	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	15	受講semester	1年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	日常の生活行動に関連する援助としての看護実践に必要な基本的知識と科学的根拠に基づいた原理原則について学習する。本科目では、対象者のニーズに応じた衣・清潔・食事・排泄を援助する技術に焦点をあて学習する。						
	到達目標	1. 人の生活を総合的にとらえうえて、対象者の日常の生活行動に伴うニーズを理解する。 2. 衣・清潔・食事・排泄を援助する看護技術を系統的に理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	食生活の意義と食事および栄養に関する基礎知識	〔講義〕 食生活の意義と食事および栄養に関する基本的な知識（食行動・栄養摂取のメカニズム等）を理解する。					内堀	
2	食事に関するニーズのアセスメント方法とアセスメントに基づいた食事に関する看護技術	〔講義〕 食事に関するニーズのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術（食事介助、口腔ケア）について学習する。					内堀	
3	身体の清潔・衣生活の意義と清潔に関する基礎知識	〔講義〕 身体の清潔・衣生活の意義および清潔に関する基本的な知識（身体の清潔を保持する行動と皮膚粘膜の状態等）を理解する。					湯山	
4	身体の清潔のニーズのアセスメント方法とアセスメントに基づいた清潔に関する看護技術	〔講義〕 身体の清潔のニーズのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術について学習する。					湯山	
5	衣生活に関するニーズのアセスメント方法とアセスメントに基づいた衣生活に関する看護技術	〔講義〕 衣生活に関するニーズのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術（寝衣の選択、寝衣交換）について学習する。					里光	
6	排泄の意義と排泄に関する基礎知識	〔講義〕 排泄の意義および排泄に関する基本的な知識（排泄行動・排泄のメカニズム等）を理解する。					内堀	
7	排泄のニーズのアセスメント方法とアセスメントに基づいた排泄に関する看護技術	〔講義〕 排泄に関するニーズのアセスメント方法を理解し、アセスメントに基づいた具体的な看護技術について学習する。					内堀	
8	試験						内堀	
教科書	・「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年			参考書等	「基礎看護技術第8版」阿曾洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、2019年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「実践基礎看護学概論Ⅰ」			評価方法	1. 筆記試験（90%） 2. 学習態度（10%）			
備考	看護技術論Ⅱは、看護技術演習Ⅱと連動する科目構成となっている。生理的なメカニズムの理解が重要となるため教科書を用いて事前学習・事後学習はしっかり行うこと。看護専門職を目指す者の基本的姿勢として学習態度を重要視する。							

授業科目	看護技術論Ⅲ		科目責任者 内堀 真弓	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	15	受講セメスター	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	診断・検査・治療に関連した生活援助としての看護実践に必要な基本的知識と科学的根拠に基づいた原理原則について学習する。						
	到達目標	1. 診断・検査・治療における看護の役割と責務を理解する。 2. 診断・検査・治療に伴う看護技術および影響を受ける生活行動の看護技術を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	・診察・検査における看護の役割と責務 ・感染予防と滅菌物の取り扱いでの基本技術(1)	[講義] 診断・検査の意義・目的および安全・安楽かつ確実な診断・検査の実施に求められる看護の役割・責務について学ぶ。 ・感染成立のメカニズム、感染予防のプロセスおよび滅菌物の取扱いの基本を学ぶ。					内堀	
2	感染予防と滅菌物の取り扱いでの基本技術(2)	[講義] 導尿(膀胱留置カテーテル)に必要な看護技術を学ぶ。					内堀	
3	感染予防と滅菌物の取り扱いでの基本技術(3)	[講義] 静脈血採血に必要な看護技術を学ぶ。					里光	
4	健康障害のある人の診断・治療のための看護技術(1)	[講義] 薬物療法の種類と目的および安全・安楽かつ確実な薬物療法(経口・口腔内与薬、直腸内与薬等)の実施に求められる看護技術を学ぶ。					小原	
5	健康障害のある人の診断・治療のための看護技術(2)	[講義] 安全・安楽かつ確実な薬物療法(点滴静注内注射)の実施に求められる看護技術を学ぶ。					小原	
6	健康障害のある人の診断・治療のための看護技術(3)	[講義] 安全・安楽かつ確実な薬物療法(筋肉内注射、皮下注射および皮内注射)と輸血の実施に求められる看護技術を学ぶ。					小原	
7	呼吸機能障害のある人への看護技術	[講義] 呼吸機能障害のある人を理解し、酸素療法、吸引および吸入の目的および安全・安楽かつ確実な実施に求められる看護技術を学ぶ。					湯山	
8	試験						内堀	
教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年			参考書等	必要時提示する			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「実践基礎看護学概論Ⅰ」			評価方法	1. 筆記試験(90%) 2. 学習態度(10%)			
備考	看護技術論Ⅲは、看護技術演習Ⅲと連動する科目構成となっている。教科書及び配付資料を活用し事前学習・事後学習はしっかり行うこと。看護専門職を目指す者の基本的姿勢として学習態度を重要視する。							

授業科目	看護技術演習 I		科目責任者 里光 やよい	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	30	受講 Semester	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	看護技術論 I で学んだ知識を基盤として、対象者のニーズに応じた基本的援助方法について演習を通して習得する。						
	到達目標	1. 安全・安楽かつ効率的に看護技術を行う方法を習得する。 2. 人の生活環境を理解するとともに、その調整方法を習得する。 3. 人の活動・運動・休息・睡眠を援助する方法を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	安全な技術の提供	[演習]	スタンダードプリコーションの考え方に基づいた感染予防方法を学習し、手指衛生および感染防護用具の使用方法について学習する。				里光 基礎看護学 全教員	
3・4	生活環境の援助技術①	[演習]	安全・安楽な技術提供をするためのボディメカニクスの基本を通して、対象者の生活環境の整備について学習する。				湯山 基礎看護学 全教員	
5・6	全身状態のアセスメント技術①	[演習]	バイタルサインの原理と方法を通して全身状態のアセスメントについて学習する①。				里光 基礎看護学 全教員	
7・8	全身状態のアセスメント技術②	[演習]	バイタルサインの原理と方法を通して全身状態のアセスメントについて学習する②。				里光 基礎看護学 全教員	
9・10	活動・休息の援助技術①	[演習]	対象者の安全・安楽な活動・運動を援助するための体位変換の方法についてボディメカニクスを活用し学習する。				湯山 基礎看護学 全教員	
11・12	活動・休息の援助技術②	[演習]	対象者の安全・安楽な移動・移送（車椅子・ストレッチャー）・歩行介助の方法についてボディメカニクスを活用し学習する				湯山 基礎看護学 全教員	
13・14	対象者のニーズに応じた基本的援助方法のまとめ	[演習]	対象者のニーズに応じた基本的援助方法のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を習得する。				里光 基礎看護学 全教員	
15	試験						里光 基礎看護学 全教員	
教科書	・「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年 ・「はじめてのフィジカルアセスメント 第2版」横山美樹、メヂカルフレンド社、2019年			参考書等	「基礎看護技術 第8版」阿曾洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、2019年			
履修条件	・単位取得見込みが必要な科目 「実践基礎看護学概論 I」			評価方法	1. 技術試験（50%） 2. 事前・事後課題および演習参加態度（50%）			
備考	看護技術演習 I は看護技術論 I と連動する科目構成となっている。手順や留意点、及び自分の身体の動かし方のイメージを持ち主体的に演習に臨むことが重要となる。看護技術論 I の講義内容をよく復習し、かつ WEB 教材や書籍を活用して毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進めること。スキルズラボ入室時は、ユニフォーム・名札・ナースシューズを着用し、常に身だしなみを整えること。							

授業科目	看護技術演習Ⅱ	科目責任者	湯山 美杉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講 Semester	1年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	看護技術論Ⅱで学んだ知識を基盤として、対象者のニーズに応じた基本的援助方法について演習を通して習得する。						
	到達目標	1. 健康状態に応じた食事行動の援助方法を習得する。 2. 健康状態に応じた衣服の選択と清潔を保持するための援助方法を習得する。 3. 排泄の調節方法および排泄行動を取れない人への援助方法を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	食事の看護技術	[演習] 食事行動に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニーズに応じた看護技術を学習する。 (食事介助、口腔ケア等の技術)					内堀 基礎看護学 全教員	
3・4	清潔の看護技術(1)	[演習] 身体の清潔行為に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニーズに応じた看護技術を学習する。 (足浴・手浴・爪切りの技術)					湯山 基礎看護学 全教員	
5・6	清潔の看護技術(2)	[演習] 身体の清潔行為に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニーズに応じた看護技術を学習する。 (整容技術および臥床している対象の寝衣・シーツ交換の技術)					里光 基礎看護学 全教員	
7・8	清潔の看護技術(3)	[演習] 身体の清潔行為に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニーズに応じた看護技術を学習する。 (全身・部分清拭の技術)					湯山 基礎看護学 全教員	
9・10	清潔の看護技術(4)	[演習] 身体の清潔行為に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニーズに応じた看護技術を学習する。 (洗髪台・洗髪車を用いた洗髪)					湯山 基礎看護学 全教員	
11・12	排泄の看護技術	[演習] 排泄行動に関して対象の状態をアセスメントし、対象のニーズに応じた看護技術を学習する。 (便器・尿器を用いた床上排泄・陰部洗浄の技術)					内堀 基礎看護学 全教員	
13・14	対象者のニーズに応じた基本的援助方法のまとめ	[演習] 対象者のニーズに応じた基本的援助方法のうち、設定された学習課題に関する確実な技術を習得する。					湯山 基礎看護学 全教員	
15	試験						湯山 基礎看護学 全教員	
教科書	・「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年			参考書等	・「基礎看護技術第8版」阿曾洋子、井上智子、伊部亜希、医学書院、2019年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「実践基礎看護学概論Ⅰ」			評価方法	1. 技術試験(50%) 2. 事前・事後課題および演習参加態度(50%)			
備考	看護技術演習Ⅱは看護技術論Ⅱと連動する科目構成となっている。手順や留意点、及び自分の身体の動かし方のイメージを持ち主体的に演習に臨むことが重要となる。看護技術論Ⅱの講義内容をよく復習し、かつWEB教材や書籍を活用して毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進めること。スキルズラボ入室時はユニフォーム・名札・ナースシューズを着用し、常に身だしなみを整えること。							

授業科目	看護技術演習Ⅲ	科目責任者	湯山 美杉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講 Semester	2学年前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護技術論Ⅲで学んだ知識を基盤として、診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術の基本を演習を通して習得する。						
	到達目標	1. 診断・検査・治療時の安全、確実で安楽な看護技術を習得する。 2. 診断・検査・治療に伴い影響を受ける生活行動の看護技術を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	滅菌物の取り扱い(1)	[演習] 診断・治療過程での感染予防の看護技術の中から、無菌操作の基本的な技術を学ぶ。 ①鑷子・滅菌パック・滅菌包の取扱い、②滅菌ガウン・滅菌手袋の装着					内堀 基礎看護学 全教員	
3・4	滅菌物の取り扱い(2)	[演習] 診断・治療過程での感染予防の看護技術の中から、無菌操作を基にした閉鎖式膀胱留置カテーテルセットの取扱いの方法を学ぶ。 ①膀胱留置カテーテル挿入時の対象者の体位、②無菌操作による留置カテーテルの挿入と固定、③蓄尿バックの取り付け、④留置カテーテルの抜去					内堀 基礎看護学 全教員	
5・6	検体検査時の看護技術	[演習] 検体検査時の看護技術の中から、静脈血採血の方法を学ぶ。 ①真空管採血を含む採血部位の確認、②無菌操作による採血方法					里光 基礎看護学 全教員	
7・8	薬物療法時の看護技術(1)	[演習] 薬物療法時の看護技術の中から、点滴静脈内注射の方法を学ぶ。 ①無菌操作による注射器・注射針の取扱い、②注射部位の確認					小原 基礎看護学 全教員	
9・10	薬物療法時の看護技術(2)	[演習] 薬物療法時の看護技術の中から、皮下・筋肉内注射の方法を学ぶ。 ①無菌操作による注射器・注射針の取扱い、②注射部位の確認					小原 基礎看護学 全教員	
11・12	呼吸機能障害時の看護技術	[演習] 呼吸機能障害時の看護技術の中から、酸素吸入・口腔・鼻腔の一時的吸引の方法を学ぶ。 ①口腔内・鼻腔内の吸引方法、②酸素療法の種類と酸素ボンベの取扱い					湯山 基礎看護学 全教員	
13・14	診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術のまとめ	[演習] 診療場面で一般的に行われる治療や検査に伴う看護技術のうち、設定された学習課題に関する技術の習得状況を確認し、確実な技術を習得する。					内堀/湯山 基礎看護学 全教員	
15	試験						湯山 基礎看護学 全教員	
教科書	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」志自岐康子ほか編、メディカ出版、2017年			参考書等	適宜紹介する。			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「実践基礎看護学概論Ⅰ」			評価方法	1. 技術試験 (50%) 2. 事前・事後課題および演習参加態度 (50%)			
備考	看護技術演習Ⅲは看護技術論Ⅲと連動する科目構成となっている。手順や留意点、及び自分の身体の動かし方のイメージを持ち主体的に演習に臨むことが重要となる。看護技術論Ⅲの講義内容をよく復習し、かつWEB教材や書籍を活用して毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進めること。スキルズラボ入室時は、ユニフォーム・名札・ナースシューズを着用し、常に身だしなみを整えること。							

授業科目	看護過程演習	科目責任者	小原 泉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護過程を用いた看護展開の実際を学習する。						
	到達目標	1. 看護過程の意義と方法を説明できる。 2. 事例に対する看護過程の各段階を説明できる。 3. 事例に対する看護展開の実際を説明できる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	看護過程の意義と方法	[講義] 看護過程とは何か、看護過程の展開の基盤となる考え方、問題解決過程およびクリティカルシンキングについて学習する。					小原	
2・3	看護過程の各段階(1)	[講義、演習] 看護過程の各段階① アセスメント(情報の収集と分析)の方法を学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
4	看護過程の各段階(2)	[講義、演習] 看護過程の各段階② アセスメント(関連図と全体像)の方法を学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
5・6	看護過程の各段階(3)	[講義、演習] 看護過程の各段階③ 看護問題の明確化の方法を学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
7・8	看護過程の各段階(4)	[講義、演習] 看護過程の各段階④および⑤ 看護計画実施および評価の方法を学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
9・10	看護過程の実際(1)	[演習] 看護過程を用いた看護展開の実際についてシミュレーション演習により学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
11・12	看護過程の実際(2)	[演習] 看護過程を用いた看護展開の実際についてシミュレーション演習により学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
13～14	看護過程の実際(3)	[演習] 看護過程を用いた看護展開の実際についてシミュレーション演習により学習する。					小原 基礎看護学 全教員	
15	評価						小原	
教科書	なし			参考書等	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」茂野香おるほか著、医学書院、2015年 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際第4版」秋葉公子ほか著、ヌーヴェルヒロカワ、2013年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」			評価方法	1. 事前・事後課題を含むレポート(80%) 2. 授業参加態度(20%)			
備考	看護過程は、看護を实践する上で不可欠な方法論である。人体の構造・機能や病態学など既習科目を復習しながら事前・事後の課題に緻密に取り組み、看護過程を用いた看護展開について日常生活援助実習の前に十分に理解できるよう学習を進めていくこと。							

授業科目	生涯発達看護論		科目責任者 永井 優子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	個体としての人間の生涯にわたる発達の概略を理解する。						
	到達目標	1. 成長・発達・成熟の概念を理解する。 2. 人間の生涯にわたる発達の概要を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	人間の生涯発達と看護	[講義] 生涯発達という見方と人間の成長・発達・成熟の概念 看護実践との関連について学ぶ。					永井	
2	生涯発達の影響要因	[講義] 生涯発達の影響要因：生物学的要因、歴史・文化的要因 について学ぶ。					永井	
3	生涯発達をとらえるモデル	[講義] 成長、発達、成熟、両行、過程、円環のモデルについて 学ぶ。					永井	
4	主要な発達理論	[講義] フロイト、ピアジェ、マラー、エリクソンの発達理論 について学ぶ。					永井	
5	生涯発達と発達課題 (1)	[講義] 発達課題とは、乳幼児期の発達課題について学ぶ。					大塚	
6	生涯発達と発達課題 (2)	[講義] 児童期・思春期、青年期・成人期の発達課題について学 ぶ。					大塚	
7	生涯発達と発達課題 (3)	[講義] 中高年期・老年期の発達課題について学ぶ。					大塚	
8	身体の生涯発達	[講義] 身体の形態および機能の生涯発達の概要について学ぶ。					永井	
9	自己の生涯発達	[講義] 自己感 (D. スターン) の生涯発達の概要について学ぶ。					永井	
10	認知・思考の生涯発達	[講義] 認知・思考の生涯発達の概要について学ぶ。					永井	
11	情動と言語の生涯発達	[講義] コミュニケーションの基盤としての言語の生涯発達の概 要と情動の生涯発達の概要について学ぶ。					永井	
12	パーソナリティの生涯 発達	[講義] 代表的なパーソナリティ概念とその発達史について学 ぶ。					永井	
13	社会性の生涯発達	[講義] 社会性、道徳性、向社会性の生涯発達の概要について学 ぶ。					大塚	
14	対人関係の生涯発達	[講義] 親子および仲間における対人関係の生涯発達の概要につ いて学ぶ。					永井	
15	試験						永井・大塚	
教科書	初回の授業で紹介するものなかから、必ず1冊 を購入する。			参考書等	授業のなかで紹介する。			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験(65%) 2. 課題レポート(25%) 3. e-learning の学習状況(10%) 4. 授業の参加状況と学習態度(減点法)			
備考	本科目は、すべての発達段階に関する「実践基礎看護学概論Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ」の基礎となる科目である。また、生涯発達看護学の総論にあたる科目で、各論にあたる発達段階に焦点を当てた看護実践に含まれる「生涯発達看護学概論Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ／Ⅳ／Ⅴ」の基礎ともなる。予習として教科書の各回の関連部分を事前に読んで授業に臨むことを勧める。予習・復習はe-learningの課題および紹介するwebsiteを参考に学習するとよい。乳児から高齢者まで様々な年齢の人の生活や特徴に注目して観察し、交流する体験について振り返ることは、学習課題を理解する助けとなる。古今東西の映画や演劇、小説などの登場人物の成長や発達を検討することも役に立つ。自分の母子健康手帳、成長記録、アルバムなどを課題レポートで用いるので準備する必要がある。							

授業科目	精神看護方法	科目責任者	半澤 節子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護の具体的な方法について学習する。						
	到達目標	1. 精神疾患・障害の回復段階に応じた看護活動について理解できる。 2. 主な精神疾患・障害、問題行動の特徴と看護過程について理解できる。 3. 精神科領域の治療と看護活動について理解できる。 4. 精神科における医療安全と治療的環境と看護活動について理解できる。 5. 精神障害者の人権を理解できる。 6. 入院治療の可能性における看護活動を理解できる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～3	精神疾患・障害の回復段階に応じた看護活動	[講義] 当事者の希望に基づいた看護過程の展開について、急性期、回復期、慢性期という回復過程の特徴、リハビリテーションの特徴、就労支援の現状と課題を学習する。					半澤	
4・5	精神科領域の治療と看護活動	[講義] 薬物療法の特徴と薬物療法を受けている人の看護について、心理社会的療法、集団療法（認知行動療法など）の特徴と看護職の役割を学習する。					永井	
6	精神疾患・障害の受容過程	[講義] 精神疾患・障害の受容過程における病識、薬物療法の必要性の理解、長期予後などを学習する。					石井（慎）	
7・8	精神科における医療安全と治療的環境と看護活動	[講義] 精神科における医療安全と治療的環境リスクとして、攻撃的な行動・暴力および自殺・自傷行為などの問題行動のアセスメントと危機介入の看護について学習する。					永井	
9～11	主な精神疾患・障害、問題行動の特徴と看護過程	[講義] 主な精神疾患（不安障害・ストレス関連障害・身体表現性障害、統合失調症、気分障害、物質関連障害、器質障害）の経過、治療と看護について学習する。					永井	
12	集団を対象とした看護および感情、認知および自我に焦点を当てた看護	[講義] 集団力動の基礎および集団を対象とした看護方法、感情を表出し、コントロールするための援助、認知への働きかけと自我を強化するための援助方法について学習する。					永井	
13	入院治療の可能性における看護活動	[講義] 精神疾患・障害を持つ人に対して入院治療の必要性、入院患者の特徴、入院形態、病棟環境の特徴、行動制限とリスクマネジメント、患者の人権擁護、チーム医療について学習する。					石井（慎）	
14	精神障害者の人権擁護と保護者の義務	[講義] 患者の権利を擁護しつつも、適正な精神科医療サービス及び福祉サービスを提供するための必要な法制度、精神保健福祉法における保護者の義務の今日的課題、精神科医療が必要な精神障害者が係る課題を学習する。					半澤	
15	試験						半澤	
教科書	指定しない			参考書等	授業の中で紹介する。			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「実践基礎看護学概論Ⅱ」			評価方法	1. 筆記試験 最終回（90%） 2. e-learning の学習状況（10%）			
備考	本科目は「地域精神看護方法」の内容と相互に関連して進行し、「精神保健看護実習」につながる基礎的な知識を整理するための重要な科目となる。事前準備（予習）では「実践基礎看護学概論Ⅱ」で学修した関連の知識の確認、事後の展開（復習）では授業のレジメや関連の資料を見直し、理解が不十分な箇所は教科書の関連の事項を読む、授業で紹介する website を参考にするなどし、必要とされる知識を整理しておくこと。また、予習および復習にあたり、e-learning の課題に取り組み、理解の程度を確認することを勧める。							

授業科目	地域精神看護方法	科目責任者	石井 慎一郎	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり	
				時間数	30	受講 Semester	3年次後学期		
学習目的と到達目標	目的	精神の健康を増進し、精神の健康障害から回復を促進する場と看護の具体的な方法について学習する。							
	到達目標	1. 精神の健康の増進および回復を促進する場について理解できる。 2. 精神障害者の家族に対する看護活動について理解できる。 3. 地域(在宅・学校・職場を含む)における看護活動について理解できる。 4. 外来における看護活動について理解できる。 5. 精神障害者の権利擁護に関する看護活動について理解できる。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	地域精神看護とは	[講義] コースオリエンテーション 精神の健康の増進および回復を促進する場としての地域の考え方について理解する。					石井 (慎)		
2	精神障害者のケアマネジメント	[講義] 精神障害者の包括的ケアマネジメントおよび地域資源の活用と看護職の役割について理解する。					石井 (慎)		
3	精神障害者の地域生活を支える看護活動	[講義] 訪問看護活動と精神科医療の外来(精神科デイケアを含む)における看護活動について理解する。					半澤		
4	精神障害者の家族に対する看護	[講義] 精神障害者の家族の特徴および家族に対する看護について理解する。					半澤		
5	学校における精神保健看護活動	[講義] 思春期・青年期を中心とした学校におけるメンタルヘルス看護活動について理解する。					永井		
6	職域における精神保健看護活動	[講義] 職場における精神的問題をもつ人の早期介入と回復支援に関する看護活動について理解する。					永井		
7	精神障害者の権利擁護活動	[演習] 設定した場面や状況における精神障害をもつ教育支援者との対話により権利擁護活動と看護活動について具体的に理解する。					永井		
8	地域を基盤とした看護	[演習] 地域のさまざまな資源を活用して生活する精神障害者(教育支援者)の話聞き、精神的健康の維持・回復のための地域看護活動について理解する。					石井 (慎)・ 精神看護学 全教員		
9	当事者組織の活動支援	[演習] 精神障害者または家族等の当事者である教育支援者と組織支援者である非常勤講師の話聞き、当事者活動を理解し、看護職としての組織支援について理解する。					土屋		
10～14	事例を用いた看護計画の立案	[演習] 地域で生活する精神障害者のグループ別に提示された事例についてアセスメントを行い、看護計画を作成する過程を通して、援助の優先性と具体的な援助方法を考える。					石井 (慎)・ 精神看護学 全教員		
15	試験						石井 (慎)		
教科書	「障害者総合支援法とは… [改訂第3版]」丸山晃監修、東京都社会福祉協議会、2020年授業のなかで紹介するリストから、必ず1冊を購入する(「実践基礎看護学概論Ⅱ」で購入した教科書を含む)。			参考書等	適宜、授業のなかで紹介する。				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「実践基礎看護学概論Ⅱ」			評価方法	1. e-learning およびレポート課題 (40%) 2. 学習状況・授業の参加状況・学習態度 (30%) 3. 筆記試験 (最終回) (30%)				
備考	「精神看護方法」の内容と相互に関連して進行する。看護計画の立案は実習記録用紙等を使用し、事例を用いて行うものであり、当該年度の「精神保健看護実習」と連動している。学習課題ごとに、指示した内容についてe-learning等により予習・復習を行うことが求められる。								

授業科目	公衆衛生看護活動論	科目責任者	塚本 友栄	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護、ヘルスケアシステムを整備したり機能させたりするための看護の展開方法を理解する。						
	到達目標	1. 公衆衛生の理念と目標を追求する看護の展開方法について理解する。 2. ヘルスケアシステム別の看護の展開方法を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～3	母子保健福祉システムと看護の展開方法 学校保健システムと看護の展開方法	[講義] 1) 母子保健福祉における個別支援方法について理解する。 2) 母子保健福祉におけるグループ・地区組織支援、システムづくり、地域づくりの展開方法と保健師の役割を理解する。 3) 学校看護活動における保健師と養護教諭の連携と保健師活動の展開方法について学ぶ。					青木	
4～6	成人・高齢者保健システムと看護の展開方法 産業保健システムと看護の展開方法	[講義] 1) 成人・高齢者の健康づくり、生活習慣病対策、介護に関わるシステムと保健師活動の展開方法を理解する。 2) 地域の特性に応じた成人・高齢者への看護の展開方法を学ぶ。 3) 産業保健活動における産業保健師と行政保健師の連携した活動と活動の展開方法を理解する。					塚本	
7	在宅ケアシステム、介護支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 在宅療養者と家族の支援ニーズを理解する。 2) 在宅ケアシステム、介護支援システムと看護の展開方法を理解する。					江角	
8・9	障害者支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 障害者とその家族の支援ニーズ、障害者支援システムと看護の展開方法を理解する。 2) 地域の特性に応じた障害者への看護の展開方法と支援体制づくりについて学ぶ。					島田 島田	
10・11	難病患者支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 難病患者と家族の支援ニーズを理解する。 2) 難病患者支援システムと看護を理解する。					春山	
12	へき地医療保健福祉システムと看護の展開方法	[講義] 1) 地域の特性に応じた在宅療養者と家族への看護の展開方法と支援体制づくりについて学ぶ。					青木	
13～15	感染症対策システムと看護の展開方法	[講義] 1) 感染症対策システムと看護を理解する。 2) 感染症発症時、並びに平常時の保健師の役割と活動方法を学ぶ。 3) 結核対策、並びにエイズ対策における保健師の役割と活動方法を学ぶ。					春山	
16	試験						塚本	
教科書	「最新公衆衛生看護学 第3版 各論1」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2020年版 「最新公衆衛生看護学 第3版 各論2」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2020年版 「国民衛生の動向2020/2021」厚生労働統計協会、2020年			参考書等	「標準保健師講座3対象別公衆衛生看護活動第4版」松田正己他、医学書院、2018年 「新版保健師業務要覧 第4版2021年版」日本看護協会出版会、2021年 「国民の福祉と介護の動向2020/2021」厚生労働統計協会、2020年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」			評価方法	1. 筆記試験(85%) 2. 課題提出物(15%)			
備考	「保健医療福祉システム論」等で得たヘルスケア提供システムに関する知識と、「実践基礎看護概論Ⅲ」等で得た公衆衛生看護のあり方に関する知識を基盤に、各ヘルスケアシステム別の看護の展開方法を実践的に学ぶ。効果的に学ぶために、夏季休業中に事前学習課題を課す。「公衆衛生看護実習」と連動しており、実習に関連する課題も随時提示する。本科目の単位修得は、実習履修の前提条件となっている。授業後は復習して実習に臨むこと。							

授業科目	公衆衛生看護方法論	科目責任者	青木 さぎ里	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講 Semester	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護、ヘルスケアシステムを整備したり機能させるための看護の展開方法と技術を習得する。						
	到達目標	ヘルスケアシステムを整備したり機能させるための看護の展開方法を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	地区活動の展開方法の実際	[講義] 地区活動計画づくり、地区活動計画のあり方や考え方について学ぶ。					青木	
2	地区活動・地域診断に活用される理論	[講義] コミュニティ・アズ・パートナー・モデルやプリシード・プロセス・モデルなど、地区活動・地域診断に用いられる理論や地域把握の手法等について学ぶ。					青木	
3・4	演習オリエンテーション 地域診断と地域のヘルスニーズの明確化(1)	[演習] 栃木県内市町をフィールドとして、1つの市町を例にして、地域のヘルスニーズを明らかにする方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
5・6	地域診断と地域のヘルスニーズの明確化(2)	[演習] 地域診断に必要な情報の種類と、情報を収集する方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
7・8・9	地域診断と地域のヘルスニーズの明確化(3)	[演習] 地域診断に必要な情報を整理し統合する方法を学ぶ。図表を用いた情報の整理や解釈の方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
10・11・12	地域診断と地域のヘルスニーズの明確化(4)	[演習] 収集した情報から地域診断を行い、演習フィールド市町のヘルスニーズを明らかにする方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
13・14	地域診断と地域のヘルスニーズの明確化(5)	[演習] 演習により明確にした演習フィールドのヘルスニーズについて、地区探査を通して得られた情報を追加し、演習フィールド市町の保健師から得た助言をもとに深める方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
15	保健福祉事業の展開方法の実際(計画立案、評価)	[講義] 地区活動方法と保健事業の成り立ち・展開方法について学ぶ。					春山	
教科書	「最新公衆衛生看護学第3版 総論 2020年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2019年 「最新公衆衛生看護学第3版 各論2 2021年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2021年			参考書等	「標準保健師講座〈1〉地域看護学概論」第5版、標美奈子他著、医学書院、2019 「標準保健師講座〈2〉地域看護技術」第3版、中村裕美子他著、医学書院、2016			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」			評価方法	1. 演習態度および提出物(90%) 2. 講義において提出をを求める記録物(10%)			
備考	公衆衛生看護活動において必要となる地区活動や地域診断の技術について実践的に学習する。演習を効率的に実施するために、夏季休業中に事前学習課題を課す。演習内容は公衆衛生看護実習と連動しており、演習で作成した地域診断資料を実習を通して追加修正して深める。							

授業科目	健康生活支援技術 I	科目責任者	江角 伸吾	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	人々の保健行動の特性と、健康問題の予防や健康の保持増進を図るための個人及び家族を対象とした看護援助方法を理解し、基本的な看護援助技術を習得する。						
	到達目標	1. 人々の保健行動に関連した理論と、保健指導の基本、並びに、その展開方法を理解する。 2. 家族を単位とした看護援助方法について理解する。 3. 健康問題の予防や健康の保持増進を図るための個人及び家族を対象とした看護援助技術の基本を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	保健指導のねらいと基本	[講義] 保健指導の目的・目標、保健指導実施者の姿勢や信頼関係形成技術などの保健指導の基本を学習する。					塚本	
2	行動変容を促す保健指導技術	[講義] Health Belief Model、Transtheoretical Model、自己効力理論等の行動変容にかかわる理論について学習する。 保健指導の展開過程について学習する。					塚本	
3	家族相談援助論	[講義] 家族アセスメントとその基礎となる理論について学習する。健康課題をもつ家族員のいる家族の生活を理解し、看護援助方法について学習する。					江角	
4	保健指導の展開方法	[講義] 個別の保健指導事例、地区活動の一手段として行う健康相談事例、ポピュレーションアプローチと連動した保健指導事業事例等をとおして、保健指導の展開方法を学習する。					塚本	
5・6	保健指導技術演習	[演習] 保健指導技術演習オリエンテーション 模擬事例を用いて予防的意義の高い働きかけの対象（生活習慣病・メタボリックシンドローム予備群）への行動変容を促すための保健指導計画の立案方法を学ぶ。					江角・春山・塚本・島田・青木・舟橋	
7	保健指導技術演習	[演習] 立案した保健指導計画に合わせて、ロールプレイを行い、根拠に基づいた行動変容を促す技術、並びに、関心やタイミングを捉えた働きかけの技術を学ぶ。					江角・春山・塚本・島田・青木・舟橋	
8	保健指導技術演習	[演習] ロールプレイ演習の振り返り及びグループ討議を通して、保健指導において重要となることや予防的看護援助方法、行動変容を促す看護援助方法、セルフケア力を高める看護援助方法について学ぶ。					江角・春山・塚本・島田・青木・舟橋	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 総論 第3版 2020年版」 宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2019年			参考書等	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版」中村裕美子他著、医学書院、2020年 「最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 第4版」村嶋幸代編、メヂカルフレンド社、2015年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」			評価方法	1. 演習記録物及び演習参加態度（90%） 2. 講義中のワークシート（10%）			
備考	生活習慣病やメタボリックシンドロームの疫学・成因・診断・病態・予防法・治療法について予習した上で、授業に臨むこと。「公衆衛生看護実習」への準備となる科目である。受講後の復習をしっかりと行うこと。							

授業科目	健康生活支援技術Ⅱ		科目責任者 島田 裕子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	30	受講 Semester	3年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護の技術を習得する。						
	到達目標	1. 地区活動の一手段としての家庭訪問及び健康教育の意義と展開方法を理解する。 2. 家庭訪問技術を習得する。 3. 集団を対象とした健康教育方法を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	ガイダンス 家庭訪問技術演習	[講義] 家庭訪問技術演習オリエンテーション 地区活動の一手段である家庭訪問の目的と特徴、並びに、家庭訪問に必要な技術について学習する。					島田・春山・ 塚本・青木・ 江角・舟橋	
2	家庭訪問技術演習	[演習] 模擬事例（乳児をもつ家庭）への家庭訪問計画の立案をとおして、家庭訪問計画を立案する方法を学ぶ。					島田・春山・ 塚本・青木・ 江角・舟橋	
3	家庭訪問技術演習	[演習] 立案した家庭訪問計画に合わせて家庭訪問のロールプレイを行うことをとおして、実際に展開する方法を学ぶ。					島田・春山・ 塚本・青木・ 江角・舟橋	
4	家庭訪問技術演習 まとめ	[演習] ロールプレイ演習を振り返り、家庭訪問において重要となることや家族を単位とした看護援助方法、保健医療福祉サービス等の資源の利用を促す看護援助方法等についてグループ討議する。討議内容をグループ毎に発表し、学びを深める。					島田・春山・ 塚本・青木・ 江角・舟橋	
5	地区活動の一手段としての家庭訪問 セルフヘルプ・グループ づくりと支援	[講義] 地区活動の一手段として行う家庭訪問の展開方法について学習する。 セルフヘルプ・グループの特徴とグループ・ダイナミクス、並びに、グループづくりとグループへの支援について学習する。					春山	
6	健康教育の目的と方法 健康教育の企画と評価	[講義] 健康教育のパラダイムシフトとヘルスプロモーションの理念、並びにエンパワメントについて学習する。 健康教育の方法と特徴、教育媒体について学習する。 健康教育の企画書及び指導案の作成方法、並びに、健康教育の評価方法について学習する。					塚本	
7～14	健康教育演習	[演習] 健康教育オリエンテーション 演習フィールド市町における健康教育を企画し、企画書及び指導案を作成する。また、企画した健康教育で用いる教育媒体を検討・作成することをとおして、健康教育の展開方法を学ぶ。					島田・春山・ 塚本・青木・ 江角・舟橋	
15	まとめ	[演習] 企画した健康教育のリハーサルを行い、その結果に基づいて、健康教育内容を精練する。					島田・春山・ 塚本・青木・ 江角・舟橋	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 第3版 総論 2020年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2020年			参考書等	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版」中村裕美子他著、医学書院、2020年 「最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 第4版」村嶋幸代編、メヂカルフレンド社、2015年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」			評価方法	1. 健康教育演習の参加態度と記録物（70%） 2. 家庭訪問技術演習の参加態度と記録物（30%）			
備考	対象の生活の場で行われる看護に必要な技術を学ぶ。後に続く公衆衛生看護実習では、学生の皆さんが実際に家庭訪問や健康教育を行う。演習を効果的に実施するために、夏季休業中に事前学習課題を課す。教科書の該当部分を読んで予習し、授業後は授業資料や教科書を活用して復習し実習に臨むこと。							

授業科目	行政看護管理論	科目責任者	青木 さぎ里	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域生活集団を対象とした看護領域における看護管理に必要な基本的知識と看護職の機能を理解し、その看護管理の活動方法の基本を習得する。						
	到達目標	1. 地方自治体を単位とした行政看護領域における看護管理（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成、人事管理、情報管理）の目的と方法を理解する。 2. 事業化・システム化・施策化のプロセスを理解し、また既存事業の改善や事業化の基本的な方法を習得する。 3. 学校や事業所を単位とした保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	地方自治体を単位とした行政看護領域における看護管理の目的と管理機能、事業化のプロセス	[講義] 行政看護領域における看護管理の目的と管理機能（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成、人事管理、情報管理）を学習する。事業化のプロセスを学習する。					春山	
2	システム化のプロセス	[講義] 地域における個人および家族への支援体制づくりと地域ケアのシステム化の方法について学習する。					春山	
3・4	学校保健システムに関わる看護職の管理的活動	[講義] 学校を単位とした学校保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を学習する。					青木	
5・6	産業保健システムに関わる看護職の管理的活動	[講義] 事業所を単位とした産業保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を学習する。					伊藤	
7	保健事業企画評価演習(1)	[演習] 演習オリエンテーション 演習で取り組む保健事業を選定し、事業の実施方法、成果、課題を整理することを通して、公衆衛生看護実習における保健事業の展開方法を学習する。					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
8	保健事業企画評価演習(2)	[演習] 対象とする事業の必要性を、地域診断、法的根拠、当該自治体の施策における事業の位置づけ、事業開始の契機・理由から検討することを通して、より良い保健事業とするための方法や保健活動の改善方法を学習する。					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
9・10	保健事業企画評価演習(3)	[演習] 住民・他職種を対象とした事業説明を想定して、プレゼンテーションする方法を学習する。					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
11・12	保健事業企画評価演習(4)	[演習] プレゼンテーション、演習まとめ					青木・春山・塚本・島田・江角・舟橋	
13・14	住民グループの育成および支援	[演習] 住民の自主グループづくりの事例を素材として、住民グループの育成および支援の方法と、地域資源として発展させる方法を学習する。					青木・江角・春山・塚本・島田・舟橋	
15	試験						青木	
教科書	「最新公衆衛生看護学第3版 各論2 2020年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2020年			参考書等	「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 第4版」平野かよ子編、メヂカルフレンド社、2015年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「公衆衛生看護実習」			評価方法	1. 筆記試験(50%) 2. 演習態度及び演習の提出物(50%)			
備考	これまでの公衆衛生看護学の講義・演習・実習科目の学びをふまえて、市町村、保健所、学校や事業所における看護管理活動に焦点をあてて学習する。第7回～第12回については、公衆衛生看護実習(市町)における「保健事業の展開方法に関する学習」を素材に学習を深める。公衆衛生看護実習の各フィールドでの学習を振り返り、教科書の該当部分を読んで授業に臨むこと。また、授業後の記録物の提出等をとおり、毎回の授業を復習すること。							

授業科目	地域健康危機管理論	科目責任者	島田 裕子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域の健康危機管理の概念、活動体制と行政看護職の果たす機能・役割、健康危機の種別に応じた活動方法を理解し、地域の健康危機管理における行政看護職の活動方法の基本を習得する。						
	到達目標	1. 地域の健康危機管理の概念、活動体制と行政看護職の果たす機能・役割を理解する。 2. 地域における健康危機の種別（感染症・児童虐待・DV・自然災害、放射線災害など）に応じた、また予防期・発生時・回復期のフェーズに応じた行政看護職の活動方法を理解する。 3. 地域の健康危機管理における行政看護職の活動方法の基本を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	地域の健康危機管理とは	[講義] 健康危機の概念、健康危機管理の概念、地域の健康危機管理体制、地域の健康危機管理における保健所保健師・市町村保健師の機能・役割を学習する。					島田	
2	感染症健康危機管理における行政看護職の役割と活動方法	[講義] 感染症健康危機の特徴、平常時・発生時・終息後の行政看護職の活動について、行政看護職の機能・役割である情報収集・支援活動・倫理的配慮・事業の企画・体制づくり・活動評価の側面から学習する。					春山	
3～6	感染症集団発生時における行政看護職の活動方法	[演習] 演習オリエンテーション ケースメソッドにより感染症集団発生時の保健師活動事例をとおり、平常時・発生時・終息後の行政看護職の活動方法を考える。					島田・春山・塚本・青木・江角・舟橋	
7・8	自然災害健康危機管理における行政看護職の役割と活動方法	[講義] 災害時に対応した看護職の話を聞き、行政看護職の活動方法について考える。 自然災害の種別による特徴、平常時、並びに、発生時フェーズ毎の被災者の支援ニーズと行政看護職の活動について、行政看護職の機能・役割である情報収集・支援活動・倫理的配慮・事業の企画・体制づくり・活動評価の側面から学習する。					春山・島田	
9・10	自然災害発生時における行政看護職の活動方法	[演習] 演習オリエンテーション ケースメソッドにより自然災害発生時の保健師活動事例をとおり、発生時フェーズ毎の行政看護職の活動方法を考える。					島田・春山・塚本・青木・江角・舟橋	
11・12	児童虐待とDVの予防対策と発生時対応に関わる行政看護職の役割と活動方法	[講義] 児童虐待のアセスメント、予防対策と発生時対応にかかわる行政看護職の役割と活動方法について学習する。 DVの予防対策と発生時に関わる行政看護職の役割と活動方法について学習する。					春山・島田	
13・14	放射線災害に関わる行政看護職の活動方法	[講義] 放射線災害にかかわる行政看護職の役割と活動方法について学習する。 [演習] 放射線災害の被災者の話を聞き、放射線災害に関わる行政看護職の活動方法を考える。					島田 島田・春山・塚本・青木・江角・舟橋	
15	試験						島田	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 第3版 各論1/各論2 2020年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2020年			参考書等	「公衆衛生看護学テキスト 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ」岡本玲子編、医歯薬出版株式会社、2014年 「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 第4版」平野かよこ編、メジカルフレンド社、2015年 「新版 保健師業務要覧 第4版 2020年版」井伊久美子、荒木田美香子他編、日本看護協会出版会、2019年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「実践基礎看護学概論Ⅲ」			評価方法	1. 演習の参加態度、記録物（50%） 2. 試験（50%）			
備考	3年次後学期の公衆衛生看護活動論と公衆衛生看護実習で学習した行政看護職の健康危機管理活動について復習しておくこと。講義や演習、演習に関して課される課題遂行や試験をとおり学習目的の達成度を高めることが期待される。授業後は授業資料や教科書を用いて復習すること。							

授業科目	看護倫理学		科目責任者 小原 泉	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講semester	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	医療・看護の現場で直面する倫理的課題と倫理の概念について学習し、看護者として人間の生命・尊厳・生活にかかわる権利を尊重するための基本的能力を養う。						
	到達目標	1. 生命倫理の原則を理解する。 2. 看護の対象となる人間の権利を理解する。 3. 看護実践上に必要な倫理的概念を理解する（インフォームド・コンセント、アドボカシー、アカウントビリティ、協同、ケアリング）。 4. 看護実践の場で直面する倫理的課題を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	倫理と生命倫理	[講義] 倫理および生命倫理とは何か、人間の権利と生命倫理の原則について学習する。					小原	
2	専門職の倫理	[講義] 「ICN 看護師の倫理綱領」や「看護者の倫理綱領」をはじめとする看護職の専門職倫理について学習する。					小原	
3	看護実践上の倫理的概念（1）	[講義] インフォームドコンセントおよび守秘義務・個人情報保護の概念と看護者の役割について学習する。					小原	
4	看護実践上の倫理的概念（2）	[講義] アドボカシー、責務/アカウントビリティおよび協同/協力の概念と看護者の役割について学習する。					小原	
5	ケアの倫理	[講義] ケアとは何か、ケアの倫理について学習する。					加藤	
6	終末期ケアをめぐる倫理的課題	[講義] 終末期ケアにおける倫理的課題について学習する。					加藤	
7	先端医療をめぐる倫理的課題	[講義] 先端医療をめぐる倫理的課題について学習する。					小原	
8	看護実践における倫理的問題へのアプローチ	[講義] 看護実践上の倫理的問題の特徴と、倫理的問題を捉え調整していく方法について学習する。					小原	
9・10	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（1）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（1） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。					加藤・小原	
11・12	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（2）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（2） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。					加藤・小原	
13・14	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（3）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（3） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。					加藤・小原	
15	評価						小原	
教科書	指定なし			参考書等	「医療倫理学のABC 第4版」 服部健司・伊東隆雄編著、メヂカルフレンド社、2019年 「系統看護学講座別巻看護倫理」 宮坂道夫他、医学書院、2018年			
履修条件	なし			評価方法	1. 課題レポート（80%） 2. 学習態度（とくにグループワークやディスカッションの参加態度）（20%）			
備考	看護倫理学は覚える教科ではなく、思ったことを言葉にして自ら考えていくことが求められる。配付資料や参考書等を活用して予習・復習を十分行い、グループワークやディスカッションに積極的に取り組み、自らの考えを深めること。							

授業科目	看護管理学	科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講semester	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	医療の質の向上・効率化を目指した他職種協働による看護ケア提供システムのありかた、看護者としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解し、相談、調整、教育、意思決定などの臨床実践能力を構築するための理論や方法を体系的に習得する。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の基礎概念および基礎的理論を理解する。 2. チーム医療メンバーの一員としてより質の高い看護ケアを提供するための仕組みを理解する。 3. 看護管理の実際を学び、看護部門を構成する看護メンバーシップの責務と役割を理解する。 4. 看護を取り巻く多様な状況から、看護管理の直面する課題とその背景を理解する。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	看護管理学の概念・基礎的理論 (1)	[講義] 看護管理の概念・基礎的理論について学習する。					成田	
2	看護管理学の概念・基礎的理論 (2)	[講義] 多職種協働に必要な組織マネジメントについて学習する。					臨地准教授 福田	
3	看護組織論・看護マネジメント論 (1)	[講義] 質の高い看護を提供するためのしくみとチームマネジメント方法について学習する。					臨地教授 大柴	
4	看護組織論・看護マネジメント論 (2)	[講義] 質の高い看護を提供するためのしくみとチームマネジメント方法について学習する。					臨地教授 石川	
5	看護管理の実際 (1) -看護職のキャリア形成とその支援-	[講義] 専門職としてのキャリア形成と組織におけるキャリア開発について学習する。					臨地准教授 福田	
6	看護管理の実際 (2) -看護における情報の活用と管理-	[講義] 看護における情報の活用と管理について学習する。					臨地講師 下田	
7	看護管理の実際 (3) -看護サービス管理における質保証とリスクマネジメント-	[講義] 看護サービス管理における質保証とリスクマネジメントについて学ぶ。看護実践と看護管理の関係性についての学びを振り返る。					成田	
8	評価						成田	
教科書	「系統看護学講座 看護の統合と実践 (1) 看護管理」上泉和子編、医学書院、2021年			参考書等	適宜呈示する。			
履修条件	なし	評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート (60%) 2. 毎回の講義についての意見の表明の評価 (40%) 					
備考	日々看護を提供する看護職の実践を支えているのは看護管理である。看護・病院管理者として多様な場で活躍している方々を非常勤講師としてお迎えする。役立つと実感するのは、少し遠い将来になるが、先輩の看護への熱い思いから多くを学び、自分なりの看護への夢についてレポートにしてほしいと願っている。それぞれの単元の内容をテキストで予習し、毎回の受講票を活用した復習で、自分の考えを深める。							

授業科目	チーム医療論		科目責任者	村上 礼子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	15	受講セメスター	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	高度医療における医療チームとしての看護活動の実際とチームを維持し、発展させるための機能について理解する。							
	到達目標	1. 高度医療において医療チームとして看護職の果たす機能と役割について理解する。 2. 高度医療における医療チームの構成と多職種 of 果たす機能と役割について理解する。 3. 高度医療における医療チームの維持と発展について理解する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1	チーム医療の特質(1)	[講義] チーム医療の概念、チーム医療の条件・意義、医療を担う多様な専門職種について学習する。						村上	
2	チーム医療の特質(2)	[講義] チーム医療における看護職の役割について学習する。						佐藤	
3	チーム医療の特質(3)	[講義] チーム医療における他・多職種間との協働の現状について学習する。						長谷川	
4	チーム医療の実際(1)	[講義] 健康危機を引き起こしやすい/引きおこしている健康課題をもつ患者に関わる医療チームの機能と看護の役割について学習する。 (急性期・周手術期事例)						村上	
5	チーム医療の実際(2)	[講義] 継続療養上の健康課題をもつ患者に関わる医療チームの機能と看護の役割について学習する。 (退院支援・在宅継続事例)						長谷川	
6	チーム医療の実際(3)	[講義] 長期療養上の健康課題をもつ患者に関わる医療チームの機能と看護の役割について学習する。 (慢性期・外来連携事例)						長谷川	
7	チーム医療の展望	[講義] チーム医療を促進あるいは阻害する因子と今後の在り方について学習する。						村上	
8	評価	これまでの講義を踏まえ、今後のチーム医療と看護の役割について自らの考えをまとめ、課題レポートを提出する。						村上	
教科書	「新しいチーム医療 改訂版 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門」田村由美編著、看護の科学社、2018年			参考書等	「チーム医療論」鷹野和美編著、医歯薬出版、2002年 『「チーム医療」とは何か』細田満和子著、日本看護協会出版会、2012年 「多職種連携の技術」野中猛著、中央法規出版、2014年				
履修条件	なし			評価方法	課題レポート (100%)				
備考	これまでの授業や実習の知識・経験を本科目の学習内容と照らし合わせ想起しつつ、教科書の各回に関連する内容を事前に読んで授業に臨むこと。事後では、チーム医療について自らの考えを深められるよう復習をすること。								

授業科目	看護政策学		科目責任者 春山 早苗	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講 Semester	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	政策決定過程を理解するとともに、わが国の保健医療福祉政策に関わる現状と課題、看護やケアに関連した経済的・政策的課題を理解し、その課題を解決していくための視野をもてる。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> わが国の保健医療福祉政策の現状と課題、並びに、保健医療福祉サービスと経済との関連を理解する。 政策決定過程を理解する。 国及び都道府県の保健医療福祉政策及び看護政策の現状と課題を理解する。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	政策とは わが国の保健医療福祉政策の現状と課題 保健医療福祉サービスと経済	[講義] 政策とは何か、について学習する。 わが国の保健医療福祉政策に関わる社会経済的背景、組織運営等の現状と課題を理解する。 社会保障費や国民医療費の現状と課題を理解し、保健医療福祉サービスと経済との関連を学習する。また、費用効果、費用効用、費用便益について学習する。					春山	
2	看護制度 政策決定過程	[講義] 看護制度の変遷と看護に求められる社会的責務を理解する。 政策決定過程について学習する。					春山	
3	保健師助産師看護師法 看護政策の現状と課題 1	[講義] 保健師助産師看護師法とそれに関連する法令について学習する。また、政策決定過程の実際を学習する。 看護基礎教育の充実に向けた検討等とおして現在の看護に関する政策の現状と課題を学習し、看護における政策の必要性と重要性について考える。					春山	
4	看護師等の人材確保の 促進に関する法律	[講義] 看護師等人材確保の促進に関する法律、並びに、看護職員確保対策等の政策決定過程の実際を学習する。					春山	
5	看護政策の現状と課題 2 政策策定過程への参画	[講義] 看護職員の需給見通しに関する検討や新人看護職員研修、チーム医療の推進に関する検討等とおして、現在の看護に関する政策の現状と課題を学習し、政策策定過程への看護職の参画の重要性 について考える。					春山	
6・7	都道府県における保健医療福祉政策と看護政策	[講義] 都道府県における保健医療福祉政策の現状と課題、並びに、公衆衛生活動や医療法などと看護政策との関連を考える。					櫻山	
8	試験						春山	
教科書	指定なし	参考書等	「看護法令要覧 平成30年版」日本看護協会出版会、2018年 「看護六法 令和3年版」新日本法規、2021年 「令和3年 看護関係統計資料集」日本看護協会出版会、2021年 「保健師助産師看護師法60年史」日本看護協会出版会、2009年					
履修条件	なし	評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 筆記試験 (80%) 授業中に提出を求める記録物 (20%) 					
備考	「保健医療福祉システム論」で学習したわが国のヘルスケアシステム、並びに、「看護学概論」で学習した看護の変遷と役割について、よく復習して臨むこと。また、看護あるいは看護職にかかわる政策について、マス・メディア等から最近の動向に関心をもって授業に臨むとともに、授業で学んだことを結び付けて復習しながら学習を進めていくこと。							

授業科目	国際看護論	科目責任者	江角 伸吾	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講semester	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	国際的な看護に関する組織について理解し、看護学の発展に関する課題や国際貢献、看護の国際化に関する現状と課題について理解する。						
	到達目標	1. 国際的な看護職能組織について理解する。 2. 国際的な看護学に関する教育の現状と学術団体について理解する。 3. 看護の国際貢献について理解する。 4. 看護の国際化に関する現状と課題について理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	世界の健康問題 国際看護に関わる主要 概念 国際協力 国際看護の目的	[講義] 世界の健康問題及び途上国の保健医療問題の現状、開発・プライマリヘルスケア・人間の安全保障と持続可能な開発目標、国際協力諸機関と協力の仕組み等について学習する。 以上を踏まえ、国際看護の目的について考える。					江角	
2	国際協力活動の実際 1	[講義] COVID-19 感染の中で、日本で作られた母子手帳が世界にどのように活用されているのか、グローバルヘルスの在り方・魅力について考える。					中村	
3	在日外国人の現状と看護 国際的な看護職能組織 世界の看護学教育の現状と国際的学術団体	[講義] 在日外国人の現状と国際化に対応した看護のあり方や活動方法を考える。 国際看護師協会(ICN)、日本および世界における看護学教育の概要、看護の国際学術団体および学術集会について理解し、看護学の発展に関する課題を考える。					江角	
4	国際協力活動の実際 2	[講義] 途上国における感染症対策支援事例から国際看護活動のあり方や方法を考える。					江角	
5	国際協力活動の実際 3	[講義] 途上国におけるヘルスプロモーション支援事例から国際看護活動のあり方や方法を考える。					江角	
6	看護の国際化に関する 現状と課題	[講義] 先進国における看護職の高齢化と途上国の看護労働力の輸出の現状などから看護における国際的な人材活用・人材育成の課題を考える。					志賀	
7	世界の感染症の動向と 対策	[講義] 世界の感染症の動向と国際保健における感染症対策の重要性とその実際を理解する。					春山	
8	評価						江角	
教科書	「改訂版 国際看護学 看護の統合と実践」 柳澤理子編、ピラールプレス、2017			参考書等	「国際看護学ーグローバル・ナーシングに向けての展開ー」南裕子監修、新川加奈子他編、中山書店、2013 「国際保健医療学 第3版」日本国際保健医療学会編、杏林書店、2013 「いのち・開発・NGO」デヴィッド・ワナー他著、新評論、1998			
履修条件	なし			評価方法	1. 課題レポート(60%) 2. 授業中に提出を求める記録物(40%)			
備考	公衆衛生看護活動の展開方法(PDCAサイクル)の復習は、本科目の理解に役立つものである。教科書や配付資料で復習しながら学習を進めていくこと。グローバルな視点から、看護が対応する問題と看護の役割を考え、看護専門職としての視野と可能性を広げることにつながる科目である。							

看護学分野

発達過程に焦点をあてた看護実践

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅰ (周産期)	科目責任者	成田 伸	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期にある母子とその家族への母性看護の必要性とその役割を理解する。 ・妊産褥婦と胎児・新生児の特徴を総合的に理解する。 						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の機能と役割を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥（胎児・新生児）期の母子について、身体的・心理的特性について理解する。 3. 家族形成期にある母子と家族について理解する。 4. 周産期・生殖医療と法的・倫理的な問題について理解する。 5. 周産期・育児期の保健・医療・福祉の動向とその支援のシステム化と連携について理解する。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	周産期における母性看護の必要性とその役割 周産期の母子に対する看護の展開	[講義] 周産期における母性看護の必要性とその役割について学ぶ。 周産期の母子に対する看護の展開の基礎的考え方を学ぶ。					成田	
2	家族形成期の母子と家族	[講義] 家族形成期の母子と家族の変化とその促進・阻害要因について学ぶ。					成田	
3・4	周産期・育児期の保健・医療・福祉の動向とその支援のシステム化と連携	[講義] 周産期・育児期の保健・医療・福祉の動向とその支援のシステム化と連携について学ぶ。					成田	
5	妊娠・分娩・産褥の基礎となる女性の身体的状況	[講義] 妊娠・分娩・産褥の基礎となる女性の身体的状況について学ぶ。					成田	
6・7	妊娠期の母子（妊婦と胎児）の身体的・心理的变化	[講義] 妊娠の成立、妊婦の身体的・心理的变化、胎児の成長・発達について学ぶ。					成田	
8・9	分娩期の母子の身体的・心理的变化	[講義] 分娩期の母子の身体的・心理的变化と胎児から新生児への適応について学ぶ。					成田	
10・11	産褥・新生児期の母子の身体的・心理的变化	[講義] 産褥・新生児期の母子の身体的・心理的变化について学ぶ。					成田	
12～14	周産期・生殖医療と法的・倫理的な課題	[講義・演習] 周産期・生殖医療と法的・倫理的な課題について、演習を通して学ぶ。					成田 谷田部・ 高嶋	
15	評価						成田	
教科書	「母性看護学Ⅰ（概論）」「母性看護学Ⅱ（周産期各論）」有森直子編、医歯薬出版、2021年			参考書等	適宜指定する。			
履修条件	なし			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験（60%） 2. 講義時の小テスト（Moodle、5～11回）（28%） 3. 講義・演習への参加状況（事後課題の提出等）（8%） 4. 課題レポート（4%） 			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱ、周産期看護実習の履修へとつながる、基盤となる科目である。 ・基礎となる知識（妊娠・分娩等についての身体的変化等）については、復習にあたる事後課題の提出、小テストの実施等で、知識が獲得できていることを確認しながら進めていく。 ・小テストに対する予習および事後学習を通じた復習をしっかり行い、自ら積極的に学ぶことを望む。 							

授業科目	周産期実践看護学Ⅰ		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講semester	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	周産期（妊娠・分娩期）の母子とその家族の健康について理解し、必要な看護を学ぶ。							
	到達目標	1. 妊娠・分娩期の母子の生理的変化とセルフケア支援の必要性について理解し、その期にある母子と家族への看護の方法を学ぶ。 2. 妊娠・分娩期のハイリスク状態について理解し、その状態にある母子と家族への看護の方法を学ぶ。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法						担当教員	
1・2	妊娠期にある母子の生理的変化とセルフケアの必要性	[講義] 妊娠の進行に伴う全身の変化と胎児の成長、妊娠各期に生ずる身体的、心理社会的変化を学び、この時期に起こりやすい健康課題に対する看護の援助方法を学ぶ（事後課題①）						成田	
3	妊娠期からの乳房の変化と母乳育児の基本	[講義] 母乳の成分、乳房の形態・機能と乳汁分泌の仕組みを学び、妊娠期からの母乳育児支援に関する基礎的知識を学ぶ（事後課題②）						成田	
4・5	分娩期にある母子と家族への支援	[講義] 分娩経過に影響を及ぼす因子と、分娩が母体と胎児に及ぼす影響を学ぶ。また、産婦とその家族に対する分娩期の支援について学ぶ（事後課題③）						成田	
6～8	妊婦・産婦（胎児）のアセスメントと支援の方法	[演習] 妊産婦と胎児の健康状態をアセスメントするための観察項目とその方法について、実践的に学ぶ						成田、角川、谷田部、高嶋、臨床教員教育支援者	
9	出生直後の新生児の生理的な適応と蘇生	[講義] 出生直後の新生児蘇生のための基礎的知識を理解し、出生直後からの胎外生活適応安定化に向けたケアについて学ぶ（出生直後から生後24時間まで）（事後課題④）						谷田部	
10・11	ハイリスク状態にある妊産婦と家族についての理解	[講義] 妊娠期・分娩期に起こるうる正常からの逸脱について理解し、その治療や看護について学ぶ（事後課題⑤）						成田	
12	周産期の喪失体験とその支援	[講義] 流産・死産・新生児死という周産期の喪失を体験した両親の理解とその支援について学ぶ						角川	
13	新生児の家庭での養育とその支援	[演習] 乳児（新生児）の家庭での養育の実際を学ぶ						成田、藤川（非常勤）、教育支援者	
14	妊娠期にある母子と家族への看護の展開	[演習] 切迫早産で入院している妊婦（胎児）と家族への看護について、事例に基づいて展開し、実践的に学ぶ（事後課題⑥）						成田、谷田部、助教、TA	
15	試験								
教科書	「母性看護学Ⅱ周産期各論」有森直子編者 医歯薬出版株式会社、2021年			参考書	「改訂第3版日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト」細野茂春監修、メジカルビュー、2015年（最新版）				
履修条件	単位を取得していることが必要な科目「生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）」			評価方法	1. 筆記試験（60%） 2. 事後課題（30%） 3. 演習への参加状況（演習態度も含む）（10%）				
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）で学んだことを復習し、また毎回の講義、演習で学んだことを復習して次回の講義、演習に臨むこと。周産期看護実習の履修には、本科目の単位取得が履修条件となっている。								

授業科目	周産期実践看護学Ⅱ		科目責任者 角川 志穂	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	周産期（産褥期・新生児期）の母子とその家族の健康について理解し、必要な看護を学ぶ。						
	到達目標	1. 産褥・新生児期の母子の生理的変化を理解し、生理的変化を促進する看護の方法を学ぶ。 2. 産褥・新生児期のハイリスク状態について理解し、その状態にある母子と家族への看護の方法を学ぶ。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	産褥期にある母親のアセスメントの方法と支援	[講義] 産褥早期の母体の正常な身体的・心理的な変化について理解し、その時期の女性が抱えやすい健康問題や不安とそれに対する看護について学ぶ。					角川	
2	産褥期にある母親の母乳育児支援	[講義・演習] 母乳分泌の時期を理解し、母乳分泌促進や乳房のセルフケアについて理解し、母乳育児確立に向けた支援について学ぶ。					角川	
3	新生児期のアセスメントの方法と支援①	[講義] 早期新生児期の正常な生理的・身体的変化を理解し、正常からの逸脱の予防や早期対処としての看護の援助方法を学ぶ。					角川	
4	新生児期のアセスメントの方法と支援②	[講義] 早期新生児期のフィジカルアセスメントの根拠となる知識を理解し、その内容と方法を学ぶ。					角川	
5	ハイリスク状態にある褥婦のアセスメント方法と支援	[講義] 産褥期の代表的な異常について学ぶ。また、帝王切開で出産した褥婦の看護について学ぶ。					角川	
6	ハイリスク状態にある新生児と家族への支援	[講義] NICUに入院している新生児とその家族に対する看護について学ぶ。					NICU 臨地教員	
7-9	早期産褥・新生児期（施設入院中）のアセスメントに必要な看護技術と支援方法	[演習] 褥婦と新生児の健康状態をアセスメントするための観察項目とその方法や、産褥入院中の看護について、実践的に学ぶ。					角川、成田、 谷田部、高嶋	
10-15	産褥・新生児期にある母子と家族への看護過程の展開	[演習] 産褥・新生児期にある母子とその家族の事例を通して看護計画立案をおこない、褥婦・新生児のアセスメントを実践的に学ぶ。(看護過程展開レポート)					角川 谷田部、高嶋	
16	試験						角川	
教科書	「新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス」平澤美恵子他監修、インターメディアカ、2020年 「母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得」有森直子編者、医歯薬出版株式会社、2020年			参考書等	「病気が見える Vol. 10産科」医療情報科学研究所編、メディックメディア、2018年 「新生児学入門第5版」仁志田博司編、医学書院、2018年 「赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドアドバンスコース」医学書院、2011年			
条件 履修	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）」			方 評価	1. 筆記試験（85%） 2. 看護過程展開レポート（10%） 3. 演習への参加状況（演習態度も含む）（5%）			
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）、周産期実践看護学Ⅰで学んだことを復習した上で講義・演習に臨むこと。講義で提示された事後課題をもとに講義の復習をして、次回の講義、演習に臨むこと。事後課題の提出については、講義の時に指定する。 演習の予習として事前課題が提示される。事前課題の提出については演習時に指定する。 本科目の1～4回で学んだことを踏まえて、5～10回の看護過程の展開を行う。看護過程の展開には、生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）、周産期実践看護学Ⅰで学んだ知識、本科目の1～4時限で学んだ知識も必要となる。十分に復習して臨むこと。 周産期看護実習の履修には、本科目の単位取得が履修条件となっている。							

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅱ (小児期)	科目責任者	横山 由美	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし	
				時間数	30	受講 Semester	1年次 後学期		
学習目的と 到達目標	目的	子ども（出生から成人に達するまでの人）を総合的に理解し、小児看護の役割を学習する。							
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象としての子どもを理解する。 2. 小児医療や小児看護の変遷について理解する。 3. 子どもの権利を理解する。 4. 子どもを取り巻く環境および子どもの生活について理解する。 5. 小児期（乳児・幼児・学童期・思春期）の成長発達を生活の側面から理解する。 6. 子どもと親・家族の相互作用が子どもの健康に及ぼす影響を理解する。 7. 子どもの健康を支えるための看護の役割について理解する。 							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員		
1	小児看護の理念と対象 小児医療と小児看護の 変遷	[講義] 小児看護の理念と対象としての子どもの捉え方、および、小児保健医療・小児看護の変遷を理解する。					横山		
2	小児看護における倫理 と子どもの権利	[講義] 子どもの権利について理解し、小児看護を行う上での倫理について学習する。					横山		
3～9	子どもの成長発達と生活 (1)	[講義] 乳幼児期から学童・思春期における成長発達や生活を子どもを取り巻く環境および生活行動の側面から学習する。(大きさ・重さ、恒常性を維持するもの、息をする、動く、排泄する、身だしなみを整える、遺伝子を伝える、見る・聞く・話す、感じる・考える、他人と関わる、遊ぶ・学習する)					横山		
10	子どもの成長発達と生活 (2)	[講義] 乳幼児期から学童・思春期における成長発達や生活を子どもを取り巻く環境および生活行動の側面から学習する。(眠る、食べる)					小西		
11	子どもの食の発達	[演習] 乳幼児期の子どもの食の発達を離乳食の試食を通して学習する。					小西		
12	子どもの成長発達の評価	[演習] 子どもの成長発達についての評価方法を学習する。					横山		
13	子どもと親・家族の相互作用が子どもの健康や成長発達に及ぼす影響	[講義] 子どもと親・家族および関わる大人との相互作用が子どもの健康や成長発達に及ぼす影響を学習する。					横山		
14	小児看護の役割と活動	[講義] 小児看護の役割と看護活動の特徴を学習する。					横山		
15	試験						横山		
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①」 奈良間美保他著、医学書院、最新版			参考書等	「国民衛生の動向2021/2022年版」 厚生統計協会編集、厚生統計協会、2021年				
履修条件	なし			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 (75%) 2. 課題レポート (25%) 				
備考	生涯発達看護論の小児期における成長発達の見方を用いながら進めていく。生涯発達看護学概論Ⅱは、小児看護学の導入であり基礎となる科目である。学生自身の成長発達を振り返りながらグループディスカッションなどを用いて行います。各授業で課題を出し、次の授業で確認をする。								

授業科目	小児実践看護学Ⅰ	科目責任者	横山 由美	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	子どもの最良の健康状態を保持・増進するための援助および日常的な健康問題に対するの援助を学習する。						
	到達目標	1. 子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理のあり方や看護援助について政策などの観点も踏まえて理解する。 2. 親・家族の育児上の問題について学習する。 3. 小児期の日常的な健康問題と看護援助を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	子どもの健康の保持・促進(1)	[講義] 子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護援助について政策を踏まえて学習する。(予防接種と小児感染症)					横山	
2	子どもの健康の保持・促進(2)	[講義] 子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護援助について政策を踏まえて学習する。(乳幼児健診と学校健診)					横山	
3	子どもの健康の保持・促進(3)	[講義] 子どもにとっての最良の健康状態を保持・促進するための健康管理の在り方や看護援助について政策を踏まえて学習する。(学童・思春期に起こりやすい問題)					小西	
4	親・家族への育児支援(乳幼児虐待予防)	[講義] 乳幼児虐待の定義や現状について理解し、予防と政策等の観点を踏まえて学習する。					朝野	
5	子どもに特徴的な健康問題と看護援助(1)	[講義] 子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。(発熱・下痢・嘔吐・脱水)					横山	
6	子どもに特徴的な健康問題と看護援助(2)	[講義] 子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。(アレルギー疾患)					横山	
7	子どもに特徴的な健康問題と看護援助(3)	[講義] 子どもに特徴的な健康問題を理解し、その看護援助について学習する。(事故と応急処置)					小西	
8	試験						横山	
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①」奈良間美保他著、医学書院、最新版 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院、最新版			参考書等	「子どもの保健 第7版」巷野悟郎編著、診断と治療社、2017年 「日本子ども資料年鑑(2021)」日本子ども家庭総合研究所編、KTC中央出版、2021年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ(小児期)」			評価方法	1. 筆記試験			
備考	生涯発達看護論および生涯発達看護学概論Ⅱにおける小児の成長発達の考え方をいながら進めていく。また、この後の小児実践看護学Ⅱ・Ⅲの基本となっていく科目である。グループディスカッションを含めた教育方法を用いて授業を展開します。授業の中で課題を出し、次の授業で確認をしながら進めていく。							

授業科目	小児実践看護学Ⅱ	科目責任者	田村 敦子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	子どもに対する特徴的な生活の援助の方法を学習する。また、日常的な健康問題や日常起こりうる生命の危機状態にある子どもや家族への援助を学習する。						
	到達目標	1. 小児各期（乳児・幼児・学童期・思春期）における特徴的な生活援助の方法を学習する。 2. 小児各期の特徴を理解し、子どもと親・家族との関わり方について学習する。 3. 生命の危機状態にある子どもへの的確な心肺蘇生を実施する方法を学習する。 4. 小児各期によく見られる健康問題の症状を理解し、援助について学習する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	小児各期における特徴的な生活援助の技術(1)	[講義・演習] 小児各期の発達特性を踏まえた子どもや親・家族とのコミュニケーション方法について学習する。					田村(敦) 小児看護学教員	
2	小児各期における特徴的な生活援助の技術(2)	[講義・演習] 小児各期の発達特性を踏まえた子どもや家族への説明方法について学習する(プレパレーションなど)。					田村(敦) 小児看護学教員	
3	健康課題をもつ子どもと家族の看護(1)	[講義・演習] 小児期特有の急性状況の子どもと家族の看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。					小西	
4	小児期特有の疾患(1)	[講義] 小児期特有の精神疾患について学習する。					阿部	
5 6	小児看護特有の生活援助技術(3)	[講義・演習] 小児救急における子どもと家族の看護について、小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。(小児の心肺蘇生・異物除去)					小西 小児看護学教員 臨地教員	
7	小児期特有の疾患(2)	[講義] 小児期特有の慢性疾患(先天性心疾患、腎疾患、川崎病、I型糖尿病、小児がんなど)について学習する。					田村(大)	
8	健康課題をもつ子どもと家族の看護(2)	[講義・演習] 小児期特有の慢性疾患をもつ子どもと家族の看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。					田村(敦)	
9	健康課題をもつ子どもと家族の看護(3)	[講義・演習] 小児がんをもつ子どもと家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。					田村(敦)	
10	健康課題をもつ子どもと家族の看護(4)	[講義・演習] 移植を必要とする子どもと家族への看護ケアについて、小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。					田村 臨地教員・吉田	
11 12	小児看護特有の生活援助技術(4)	[演習] 小児看護特有の生活援助技術について、小児各期の発達の特徴を踏まえて理解し習得する。(V/S測定、身体計測、おむつ交換)					田村(敦) 小児看護学教員 臨地教員	
13 14	小児看護特有の生活援助技術(5)	[演習] 小児看護特有の生活援助技術について、小児各期の発達の特徴を踏まえて理解し習得する。(安全・安静の確保、経管栄養、輸液の管理)					田村(敦) 小児看護学教員 臨地教員	
15	試験						田村(敦)	
教科書	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学2、小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院、2020年 「看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術」添田啓子他、メヂカルフレンド社、2016年			参考書等	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学1、小児看護学概論 小児臨床看護学総論」奈良間美保他著、医学書院、2019年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ(小児期)」			評価方法	1. 筆記試験(50%) 2. 演習態度・演習課題レポート(50%)			
備考	生涯発達看護学概論Ⅱ・小児実践看護学Ⅰの学びを踏まえ、小児期特有の健康課題の特徴を理解し、子どもと家族に対する看護を学ぶ。また臨床教員の協力を得ながらより実践的な小児看護の技術について学習する。演習を行うための事前学習・事後学習が必要である。							

授業科目	小児実践看護学Ⅲ		科目責任者 小西 克恵	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	健康課題を持ち、さまざまな状況にある子どもの看護を学習する。						
	到達目標	1. 小児期に特徴的な診療（治療・処置・検査・診察）上の看護援助を理解する。 2. 小児各期における特徴的なヘルスアセスメントの技術について学習する。 3. 健康課題が子どもの成長発達および生活に与える影響を理解する。 4. 健康課題をもつ子どもの日常生活の援助を理解する。 5. 子どもの健康課題が親・家族に与える影響を理解する。 6. 健康課題をもち、さまざまな状況にある子どもの看護について、倫理的側面および部門間、他職種・他機関との連携を踏まえて学習し、小児看護のあり方について理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	健康障害をもつ子どもと家族への看護（1）	[講義・演習] 小児期特有の慢性疾患をもつ子どもと家族の看護を小児各期の発達の特徴を踏まえて学習する。					小西	
2	健康障害をもつ子どもと家族への看護（2）	疾患や障がいをもつ子どもの家族援助について学習する。					田村	
3	健康障害をもつ子どもと家族への看護（3）	[講義・演習] 小児期に特有な健康課題をもつ子どもと家族の外来における継続看護について、他職種・他機関との連携を踏まえて理解し、その援助方法を学習する。					田村	
4	小児期と手術	[講義] 小児期に手術を必要とする疾患の特徴と小児の手術の特徴を学習する。					小野	
5	健康障害をもつ子どもと家族への看護（4）	[講義・演習] 周手術期に特徴的な健康障害をもつ子どもと家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。					田村	
6	小児期と神経・筋疾患	[講義] 小児期に特徴的な神経・筋疾患を学習する。					村松	
7	健康障害をもつ子どもと家族への看護（5）	[講義・演習] 神経・筋疾患をもつ子どもおよび重症心身障害児とその家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。					田村	
8	健康障害をもつ子どもと家族への看護（6）	[講義・演習] 予後不良な状態にある子どもと家族への看護について、発達特性および倫理的側面を踏まえた援助方法を学習する。					田村	
9	試験						小西	
10～15	ヘルスアセスメントの技術（1）～（6）	[演習] 小児看護における看護過程の展開について、小児各期の発達特性や個性を踏まえ、事例を用いてヘルスアセスメントの方法を学習する。					小西 小児看護学教員	
教科書	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学2、小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院、2020年 「看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術」添田啓子他、メヂカルフレンド社、2016年			参考書等	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学1、小児看護学概論 小児臨床看護学総論」奈良間美保他著、医学書院、2019年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」			評価方法	1. 筆記試験（60%） 2. 演習態度、演習課題レポート（40%）			
備考	小児期の発達課題やその健康特性・健康障害を理解し、看護支援に関する方法を講義で教示し、演習を通じて実践力を培う。生涯発達看護学概論Ⅱおよび小児実践看護学Ⅰ、小児実践看護学Ⅱでの学びをさらに発展させ、小児期看護実習での実践への準備となる科目である。演習を行うための事前学習・事後学習が必要である。							

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅲ (成人期)	科目責任者	村上 礼子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	1年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	生涯発達という観点から成人期にある対象を深く広く理解し、成人看護に有用な理論ならびに概念を学び、看護観を養う。						
	到達目標	1. 成人期にある対象の生活を理解し、看護の役割を学習する。 2. 成人期にある人のさまざまな健康課題を理解し、看護に必要な知識を学習する。 3. 成人期にある人に有用な理論や概念を理解し、看護への応用について学習する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	成人期にある人の理解① 成人の成長と発達	[講義] 成人期にある人の身体的、心理社会的特性と成長・発達について理解し、看護の役割を学習する。					村上	
2	成人期にある人の理解② 成人の発達課題と発達危機	[講義] 成人期にある人の発達課題と発達危機について理解し、看護の役割を学習する。					村上	
3	成人期にある人の理解③ 成人期にみられる多様な健康課題と適応	[講義] 成人の生活および、その生活を把握する観点と方法、ならびに成人に生じやすい多様な健康課題と適応について理解し看護への応用について学習する。					村上	
4	意思決定	[講義] さまざまな状況における成人と家族の主體的な意思決定を支援するために必要な看護の知識と役割を学習する。					村上	
5	危機理論	[講義] 危機理論を理解し、危機的状況にある成人、ならびに家族への看護への応用について学習する。					村上	
6	成人教育の特徴とアンドラゴジー	[講義] 成人教育の特徴について理解し、成人看護への応用を学習する。					長谷川	
7	変化のステージモデルと健康信念モデル	[講義] 成人の保健行動に有用な変化ステージモデルと健康信念モデルとその活用法を学習する。					長谷川	
8	自己効力理論	[講義] 自己効力理論を理解し、成人看護への応用を学習する。					村上	
9	セルフマネジメントと保健行動	[講義] セルフマネジメント理論を理解し、さまざまな状況にある成人の保健行動と看護への応用について学習する。					長谷川	
10	セルフケアの再獲得(リハビリテーションを含む)	[講義] さまざまな喪失をした成人がその人らしく自立して生きるためのセルフケアの再獲得と看護の役割を学習する。					佐藤	
11	ストレスコーピングとソーシャルサポート	[講義] ストレスコーピングとソーシャルサポートを理解し、成人看護への応用を学習する。					長谷川	
12	病みの軌跡	[講義] 慢性疾患をもつ成人に有用な病みの軌跡の理論を理解し、看護への応用について学習する。					佐藤	
13	成人期にある人の看護実践の倫理	[講義] 成人・家族を看護するうえで直面しやすい倫理問題とその背景について理解し、最善策を検討する方法を学習する。					佐藤	
14	成人を取り巻く家族への支援	[講義] さまざまな健康問題をもつ成人を取り巻く家族への支援について理解し、看護への応用を学習する。					村上	
15	試験						村上	
教科書	「ナーシンググラフィカ(1)、成人看護学概論(第4版)」安酸史子・鈴木純恵・吉田澄恵編集、メディカ出版、2021年			参考書等	その都度、関連する書籍・文献、視聴覚教材を紹介する。			
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (70%) 2. レポート (30%)			
備考	成人実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳならびに成人期継続療養看護実習、成人期健康危機看護実習、成人期長期療養看護実習の基盤となる科目である。各理論の理解を深めるには、事前には教科書、事後では講義資料や資料に提示してある参考文献を読み解き、授業内容を予習・復習すること。							

授業科目	成人実践看護学Ⅰ	科目責任者	村上 礼子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するための知識を学習する。						
	到達目標	1. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害における主に外科的治療・検査に伴う看護を理解する。 2. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族の特徴を理解する。 3. 健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族が安全・安楽な療養生活を過ごすために必要な看護を理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 機能障害をもつ成人とその家族の特徴を把握するための視点と方法について理解する。					村上	
2・3	循環機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 循環機能障害とその影響、ならびに治療(手術療法を含む)・検査を踏まえ、循環機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と視点について学習する。					古島	
4・5	呼吸機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 呼吸機能障害とその影響、ならびに治療(手術療法を含む)・検査を踏まえ、呼吸機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					長谷川	
6・7	消化・吸収機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 消化・吸収機能障害とその影響、ならびに治療(手術療法を含む)・検査を踏まえ、消化・吸収機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					渡邊	
8・9	栄養代謝機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 栄養代謝機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、栄養代謝機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					長谷川	
10・11	身体防御機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 身体防御機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、身体防御機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					佐藤	
12・13	性・生殖機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 性・生殖機能障害とその影響、ならびに治療(手術療法を含む)・検査を踏まえ、性・生殖機能障害をもつ成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					古島	
14	看護過程展開の実際	[講義] 看護過程の基礎的知識について理解し、機能障害における看護実践を学ぶ。					佐藤	
15	試験						村上	
教科書	「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学1 呼吸機能障害/循環機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2006年 「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学2 消化・吸収機能障害/栄養代謝機能障害(第3版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学3 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学5 運動機能障害/性・生殖機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年					参考書等	その都度、関連のある書籍・文献を紹介する。	
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ(成人期)」					評価方法	筆記試験(100%)	
備考	成人期継続療養看護実習、成人期健康危機看護実習、成人期長期療養看護実習の基盤となる実践的な内容である。特に、成人実践看護学Ⅱとは関連性が強い講義科目である。教科書の該当する内容を事前に読み、授業に臨むこと。事後では、授業内容の理解を深められるように講義資料や参考資料に目を通し、復習すること。履修順序は変更する可能性がある。							

授業科目	成人実践看護学Ⅱ	科目責任者	古島 幸江	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講 Semester	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するために、必要な看護を学習する。						
	到達目標	健康危機を引き起こしやすい各機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護方法について、演習を通して習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	呼吸機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 健康危機を引き起こしやすい呼吸機能障害をもつ成人とその家族を理解し、具体的な看護実践を学習する。					佐藤	
2～3	手術療法を受ける成人とその家族の看護	[講義] 手術療法を受ける成人とその家族の体験ならびに手術療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、先見性のある看護実践を学習する。					古島	
4～7	健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族の看護過程	[演習] 健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族の健康危機状況の回避と早期回復を目指した看護実践の思考過程(情報収集から計画立案)を学習する。					村上/古島 成人看護学 学科目教員	
8	手術療法を受ける成人とその家族の看護	[講義] 手術療法を受ける成人とその家族の体験ならびに手術療法によって引き起こされる様々な機能障害を理解し、先見性のある看護実践を学習する。					古島	
9～11	健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族の看護過程	[演習] 健康危機を引き起こしやすい機能障害をもつ成人とその家族の健康危機状況の回避と早期回復を目指して立案した看護実践の実際および評価の過程を学習する。					古島/村上 成人看護学 学科目教員	
12	生命の危機状況にある成人とその家族の看護	[講義] 重度の急性機能障害に陥っている成人とその家族を理解し、重症化の回避と生命の危機状況からの早期回復を目指した看護実践を学習する。					古島	
13	循環機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 健康危機を引き起こしやすい循環機能障害をもつ成人とその家族を理解し、具体的な看護実践を学習する。					古島	
14	循環機能障害をもつ成人とその家族の看護	[演習] 健康危機を引き起こしやすい循環機能障害をもつ成人とその家族の健康危機状況の回避と早期回復を目指した看護実践を学習する。					古島/ 成人看護学 学科目教員	
15	試験						古島	
教科書	「新体系看護学全書 機能障害からみた成人看護学① 呼吸機能障害/循環機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2006年 「成人看護学 周手術期看護論(第3版)」雄西智恵美他編集、ヌーヴェルヒロカワ、2014年			参考書等	関連する文献・書籍をその都度紹介する。			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ(成人期)」			方評価	1. 筆記試験 (50%) 2. 課題レポート (50%)			
備考	成人実践看護学Ⅰと関連ある演習科目で、成人期健康危機看護実習に先立つ実践的な内容である。授業内容の理解を深めるには、講義資料に提示してある文献を読み解き、授業内容の予習・復習を要する。看護過程演習や機能障害別演習は提示された課題について、各自準備して演習に臨むこと。演習への主体的・積極的な参加姿勢を期待する。なお、履修順序は変更する可能性がある。							

授業科目	成人実践看護学Ⅲ	科目責任者	佐藤 幹代	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり	
				時間数	15	受講 Semester	2年次後学期		
学習目的と到達目標	目的	長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するために、必要な知識を学習する。							
	到達目標	1. 長期的な療養生活が必要となる各機能障害における主に内科的治療・検査に伴う看護を理解する。 2. 長期的な療養生活が必要となる各機能障害をもつ成人とその家族の特徴を理解する。 3. 長期的な療養生活が必要となる各機能障害をもつ成人とその家族が安全・安楽に療養生活を過ごすために必要な看護を理解する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	運動機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 運動機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、長期的な療養に向き合う成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					渡邊		
2-3	内部環境調節機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 内部環境調節機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、長期的な療養生活と向き合う成人とその家族の把握方法と看護の視点について学習する。					長谷川		
4-5	脳・神経機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 脳・神経機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、長期的な療養生活と向き合う成人とその家族の把握方法と看護の視点を学習する。					佐藤		
6-7	感覚機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 感覚機能障害とその影響、ならびに治療・検査を踏まえ、長期的な療養生活と向き合う成人とその家族の把握方法と看護の視点を学習する。					佐藤		
8	試験						佐藤		
教科書	「機能障害からみた成人看護学4 脳・神経機能障害/感覚機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学5 運動機能障害/性・生殖機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学3 内部環境調節機能障害/身体防御機能障害(第2版)」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年					参考書等	その都度、関連のある書籍・文献を紹介する。		
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ(成人期)」					評価方法	1. 筆記試験 (100%)		
備考	機能障害別看護の実際について、特に長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に焦点をあてて学ぶ科目である。成人実践看護学Ⅳとともに、成人期長期療養看護実習の基盤となる講義科目である。授業内容の理解を深めるため、教科書を用いた予習を経て講義に臨み、講義後は講義資料に提示してある文献を読み解き、授業内容を復習する。履修順序は変更する可能性がある。								

授業科目	成人実践看護学Ⅳ	科目責任者	長谷川 直人	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり	
				時間数	30	受講セメスター	2年次後学期		
学習目的と到達目標	目的	長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に看護を実践するために、必要な看護援助を学習する。							
	到達目標	長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護方法について、演習を通して習得する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員		
1	長期的な療養生活が必要となる成人とその家族の看護	[講義] 長期的な療養生活を要する機能障害をもつ成人とその家族への看護実践について、対象を把握する視点と患者教育に関する具体的な実践技術を学習する。					長谷川		
2	消化・吸収機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 消化・吸収機能障害をもちながら長期的な療養に取り組む成人とその家族を捉える視点と看護実践の具体的方法を学習する。					渡邊		
3	運動機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 運動機能障害をもちながら長期的な療養に取り組む成人とその家族を捉える視点と看護実践の具体的方法を学習する。					渡邊		
4	身体防御機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 身体防御機能障害をもちながら長期的な療養に取り組む成人とその家族を捉える視点と看護実践の具体的方法を学習する。					古島		
5	内部環境調節機能障害をもつ成人とその家族の看護	[講義] 内部環境調節機能障害をもちながら長期的な療養に取り組む成人とその家族を捉える視点と看護実践の具体的方法を学習する。					長谷川		
6	運動機能障害をもつ成人とその家族の看護	[演習] 運動機能障害をもつ成人（とその家族）の長期的な療養生活を支援する方法を学習する。					渡邊 成人看護学教員		
7	感覚機能障害をもつ成人とその家族の看護	[演習] 感覚機能障害をもつ成人（とその家族）の長期的な療養生活を支援する方法を学習する。					佐藤 成人看護学教員		
8～14	長期的な療養生活が必要となる成人とその家族の看護過程	[演習] 長期的な療養生活を要する機能障害をもつ成人とその家族の事例に基づいて、看護過程を学習する（情報収集、患者教育の実践演習を含む）。					長谷川・佐藤・渡邊 成人看護学教員		
15	試験						長谷川		
教科書	「機能障害からみた成人看護学2 消化・吸収機能障害／栄養代謝機能障害（第3版）」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学3 内部環境調節機能障害／身体防御機能障害（第2版）」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学4 脳・神経機能障害／感覚機能障害（第2版）」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年 「機能障害からみた成人看護学5 運動機能障害／性・生殖機能障害（第2版）」野口美和子他編集、メヂカルフレンド社、2007年					参考書等	その都度、関連する文献・書籍を紹介する。		
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）」					評価方法	1. 筆記試験（50%） 2. 課題レポート（50%）		
備考	機能障害別看護の実際について、特に長期的な療養生活が必要となる機能障害をもつ成人とその家族に焦点をあてて学ぶ科目である。成人実践看護学Ⅲとともに、成人期長期療養看護実習の基盤となる演習科目である。授業内容の理解を深めるため、教科書を用いた予習を経て講義に臨み、講義後は講義資料に提示してある文献を読み解き、授業内容を復習する。履修順序は変更する可能性がある。								

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅳ (老年期)		科目責任者	浜端 賢次	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
	時間数	30			受講セメスター	1年次 後学期			
学習目的と 到達目標	目的	高齢者看護学の概念及び対象を理解し、高齢者看護学の役割を学習する。							
	到達目標	1. 高齢者看護学の概念と歴史について理解する。 2. 高齢期にある人の身体的・精神的・社会的側面の特徴を理解する。 3. 高齢者の健康問題と高齢者看護の役割について理解する。 4. 高齢看護学の理論的背景について理解する。							
回数 (1回90分)	学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1	高齢者看護学の社会的背景と定義①		[講義] 高齢者を取り巻く社会を概観し、高齢者看護学の理念と実践の特徴を学習する。					浜端	
2	高齢者看護学の社会的背景と定義②		[講義] 地域包括ケアシステムとチームケアを学び、高齢者と在宅看護を取り巻く社会を学習する。					上野 (ま)	
3	高齢期にある人を支える家族と看護		[講義] 高齢者と家族との関係性を概観し、介護家族の介護負担ならびに家族の力等について学習する。					上野 (ま)	
4	高齢期にある人のライフヒストリーと看護		[講義] 高齢期にある人のライフヒストリーの特徴と高齢者看護の役割について学習する。					上野 (ま)	
5	加齢による身体的変化と看護		[講義] 加齢による身体変化とそれによる健康課題や生活機能への影響と看護の概要を学習する。					浜端	
6	加齢に伴う精神・心理的側面と社会的側面の変化と看護		[講義] 加齢による精神的・心理的特徴と社会的特徴、それに応じた看護の概要を学習する。					浜端	
7	高齢者看護学の理論的背景		[講義] 高齢者看護学に活用できる理論を学び、老年期の発達課題や自立した生き方を支援する看護を学習する。					浜端	
8	高齢者の健康課題と高齢社会における倫理的課題と看護		[講義] 高齢者の健康課題と倫理的課題の概要を学び、高齢者の倫理的課題と看護について学習する。					浜端	
9	高齢者の健康課題と病院における看護の役割		[講義] 高齢者の健康課題と病院の看護ならびにリハビリテーションと看護について学習する。					浜端・船田	
10	高齢者の健康課題と施設における看護の役割		[講義] 高齢者の健康課題と施設における看護の役割について学習する。					浜端	
11	高齢者の健康課題と多様な生活の場における看護		[講義] 高齢者の健康課題と地域包括ケアシステムで活用できる場における看護の役割について学習する。					小此木	
12	高齢者看護学における福祉用具の開発と活用		[講義] 高齢期にある人の生活を支える様々な用具の活用と自立支援について学習する。					川上	
13	高齢期にある人の在宅療養における看護の役割		[講義] 高齢者の健康課題と在宅における看護の役割について学習する。					上野 (ま)	
14	高齢者に対するリスクマネジメントと看護		[講義] 高齢者に生じる事故や救急時の対応、災害における避難・誘導方法および避難所での看護を学習する。					上野 (ま)	
15	試験							浜端	
教科書	「老年看護学① 高齢者の健康と障害」、堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編、メディカ出版、2021年 「在宅看護論」改訂第2版、石垣和子・上野まり編、南江堂、2020年			参考書等	なし				
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験 (80%) 2. 課題レポート (20%) 3. 学習態度 (減点方式)				
備考	本科目は、老年実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎となる内容を学ぶ。高齢期にある人を取り巻く社会の状況や保健医療福祉に関する出来事に広く興味をもち、授業に臨むこと。また、授業での学びや気付きは必ず整理し、疑問点があれば解決するよう心掛けること。定期試験後に、成績開示期間を掲示板に提示する。								

授業科目	老年実践看護学Ⅰ	科目責任者	上野 まり	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	高齢者の生活、および高齢者ケアシステムと保健問題に関わる看護の役割について学習する。						
	到達目標	1. 高齢者の生活習慣とセルフケアについて学習する。 2. 高齢者の保健・医療・福祉施策について理解する。 3. 高齢者の健康保持増進と看護の役割を理解する。 4. 高齢者におけるケアマネジメントについて理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	高齢者の健康特性と家族の機能・役割	[講義] 指標・保健統計からみた高齢者の健康特性と高齢者の生活や介護を支える家族の機能・役割について学習する。					上野(ま)	
2・3	高齢者の健康生活を支える看護	[講義] 高齢者と家族の安全・安心な日常生活のために必要なセルフケアの支援方法について学習する。 (在宅人工呼吸療法・在宅酸素療法・経管栄養法・褥瘡管理・在宅輸液管理)					上野(ま)	
4	高齢者を支える社会資源とその活用	[講義] 社会資源の種類と活用方法について学ぶ。また、在宅や施設における情報通信技術(ICT)や人工知能(AI)・ロボットなどの活用を学習する。					川上	
5	高齢者の健康評価	[講義] 高齢者の生活習慣に見られる特徴的な疾患と健康評価、高齢者総合機能評価(CGA)や日常生活動作の指標(FIM、BI)などを学習する。					浜端	
6	高齢者を支える保健医療福祉施策	[講義] 保健医療福祉ならびに地域包括ケアシステムに関連する法や制度と支援の実際を学習する。					上野(ま)	
7	高齢者の在宅療養とケアマネジメント・ケースマネジメント	[講義] 在宅看護の事例を通じて、在宅療養とケアマネジメント・ケースマネジメントの実際を学ぶ。					上野(ま)・鮎澤	
8	試験						上野(ま)	
教科書	「在宅看護論(改訂第2版) 自分らしい生活の継続をめざして」石垣和子、上野まり編、南江堂、2020年			参考書等	適宜提示する			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ(老年期)」			評価方法	1. 筆記試験(90%) 2. 学習態度・参加度(10%)			
備考	生涯発達看護学概論Ⅳで学んだ内容を復習し、高齢者の特徴を理解して講義に臨む。また、本講義の重要箇所については必ず復習し、身近な高齢者と照らし合わせて学んだことを考える。 試験結果の開示期間については、掲示にて周知する。							

授業科目	老年実践看護学Ⅱ		科目責任者	浜端 賢次	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
	時間数	30			受講semester	2年次後学期			
学習目的と到達目標	目的	加齢のプロセスにより生じる様々な健康段階を理解し、生活・療養の場に応じた高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助の方法について学習する。							
	到達目標	1. 高齢者の生活機能レベルの変化とその看護活動について理解する。 2. 高齢者の健康障害や特有な疾患とその看護について理解する。 3. 高齢者のQOLを高める看護活動について理解する。 4. 老年看護をめぐる倫理的課題を理解する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1～2	高齢者看護の基本的アプローチ①	[講義・演習] 高齢者によくみられる疾患、老年症候群やフレイルを予防する視点、高齢者のエンパワメントを生み出す看護について学習する。また、事例を通して高齢者の倫理的課題を検討する。						浜端	
3	高齢者看護の基本的アプローチ②	[講義] 高齢者に対するフィジカルアセスメントの特徴を学び、バイタルサインの特性をふまえた高齢者看護を学習する。						小此木	
4	障害・疾病を有する高齢者の看護①	[講義] 高齢者によくみられる疾患（脳・神経系・皮膚等）の特徴を学び、高齢者の生活を支える看護を学習する。						浜端	
5	障害・疾病を有する高齢者の看護②	[講義] 加齢に伴う骨・関節疾患の特徴、ならびに症状や障害を学び、高齢者の生活を支える看護を学習する。						浜端	
6	障害・疾病を有する高齢者の看護③	[講義] 加齢に伴う呼吸・循環機能障害の特徴、ならびに症状や障害を学び、高齢者の生活を支える看護を学習する。						小此木	
7	障害・疾病を有する高齢者の看護④	[講義] 加齢に伴う疾患・症状（呼吸器、泌尿器、整形外科）と障害を学び、機能障害を有する高齢者看護と在宅支援を学習する。						工藤・大畑 弘田・浜端	
8	障害・疾病を有する高齢者の看護⑤	[講義] 加齢に伴う疾患・症状（皮膚、脳神経・脳血管）と障害を学び、機能障害を有する高齢者看護と在宅支援を学習する。						湯沢・太田 浜端	
9	老年看護過程の展開①	[講義・演習] 健康障害や疾病を有する高齢者にエンパワメントアプローチ等を活用し、高齢者のQOLを高める看護を学習する。						浜端・上野 (ま)・小此木	
10	老年看護過程の展開②	[講義・演習] 健康障害や疾病を有する事例を用いてグループワークを行い、エンパワメントを生み出す老年看護過程の展開の実際を学ぶ。						浜端・上野 (ま)・小此木	
11～12	老年看護過程の展開③	[講義・演習] 老年看護過程の基本を基に、アセスメントの4側面を展開する。アセスメントした内容を統合し、本人と家族の思いを明らかにする看護過程を展開する。						上野(ま)・ 浜端・小此木	
13	治療を受ける高齢者の看護	[講義] 薬物療法や手術療法などを受ける高齢者の看護について学習する。						小此木	
14	終末期における看護	[講義] 終末期における高齢者の死生観や死亡場所などを概観し、看取りや臨死時の援助について学習する。						上野(ま)	
15	試験							浜端	
教科書	「老年看護学② 高齢者看護の実践」、堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編、メディカ出版、2021年				参考書等	「在宅看護論」改訂第2版、石垣和子・上野まり編、南江堂、2018年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）」				評価方法	1. 筆記試験（80%） 2. 課題レポート（看護過程の提出物含む）（20%） 3. 学習態度（減点法）			
備考	本科目は、生涯発達看護学概論Ⅳで学んだ高齢者の特徴（加齢現象等）を基盤としている。必ず、生涯発達看護学概論Ⅳの学習内容を見直し、高齢者の特徴を復習した上で講義・演習に臨む。また、学習内容に記載している障害・疾病に関する予習や講義中に配布した資料等の復習を行い、高齢者の看護実践を考えながら講義・演習に臨む。なお、定期試験については成績開示期間を提示する。								

授業科目	老年実践看護学Ⅲ		科目責任者 上野 まり	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	老年看護学の理論、知識、技術を踏まえ、健康の段階に応じた老年看護技術を習得する。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のヘルスアセスメントのための技術や評価の方法を理解する。 2. 高齢者の生活機能レベルに応じた看護を理解する。 3. 高齢患者の健康の段階を考慮した日常生活援助技術を習得する。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～8	高齢者の健康課題や生活の場に応じた看護実践	<p>[講義]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の活動と休息、移動のアセスメントと看護実践について学ぶ。 ・ 高齢者の食事と栄養のアセスメントと看護実践について学ぶ。 ・ 高齢者の排泄機能のアセスメントと看護実践について学ぶ。 ・ 高齢者の皮膚機能のアセスメントと看護実践について学ぶ。 ・ 在宅における高齢者の日常生活支援について学ぶ。 <p>[演習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 咀嚼・嚥下障害のある高齢者への食事援助および口腔ケアについて学ぶ。 ・ 排泄障害のある高齢者への排泄ケアについて学ぶ。 ・ 皮膚障害のある高齢者への皮膚保護ケアについて学ぶ。 ・ 運動障害のある高齢者の安全確保について学ぶ。 ・ 在宅における高齢者の日常生活支援の方法について学ぶ。 					上野 (ま) 浜端 小此木 川上	
9・10	急性期および周手術期にある高齢患者への看護	[講義・演習] 急性期および周手術期にある高齢患者への看護について学ぶ。					川上	
11・12	認知症高齢者への看護	[講義・演習] 認知症高齢者の理解と看護について学ぶ。					浜端	
13・14	終末期にある高齢者への看護	[講義・演習] 終末期にある高齢者の理解と看護について学ぶ。					上野 (ま) 小此木	
15	試験						上野 (ま)	
教科書	・「老年看護学 概論と看護の実践 第6版」 奥野茂代・大西和子監 監修、 ヌーヴェルヒロカワ、2019年 ・「在宅看護論 (改訂第2版) 自分らしい生活の 継続をめざして」石垣和子、上野まり編、南江堂、 2019年			参考書等	必要時提示する。			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ (老年期)」			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 (70%) 2. 課題レポート (30%) 			
備考	既習事項を基盤に、老年臨床看護実習及び老年在宅看護実習での看護実践に関連する内容を学ぶ。教科書や配布資料などを用い、学習内容を予習・復習すること。また、演習が効率よく展開できるよう時間を意識して行動すること。さらに、援助技術の習得のため、演習室を活用し主体的に学ぶこと。試験結果の開示期間は掲示にて周知する。							

授業科目	生涯発達看護学概論V (リプロダクティブヘルス)		科目責任者 成田 伸	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
	時間数	15		受講 Semester	4年次 前学期			
学習目的と 到達目標	目的	リプロダクティブヘルス・ライツおよび女性特有の健康問題に対する看護・支援を学ぶ。						
	到達目標	1. リプロダクティブヘルス・ライツの概念を理解する。 2. ライフサイクルの各期に応じたリプロダクティブヘルス・ライツに関する健康問題と看護を学ぶ。 3. ライフサイクルにおける女性の健康問題と看護・支援を学ぶ。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	リプロダクティブヘルス・ライツの概念	[講義] リプロダクティブヘルス・ライツの概念および、女性の健康支援の必要性・あり方を考える。 (事後課題①)					成田	
2	思春期女性の健康問題と看護	[講義] 思春期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。 (事後課題②)					成田	
3	成熟期女性の健康問題と看護	[講義] 成熟期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。 (事後課題③)					成田	
4	更年期女性の健康問題と看護	[講義] 更年期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。 (事後課題④)					成田	
5	妊娠の意思決定および、望まない妊娠による健康問題	[講義] ・受胎調節と避妊法の基本について学ぶ。 ・望まない妊娠による健康問題について学ぶ。 ・妊娠の意志決定の支援について学ぶ。 (事後課題⑤)					成田	
6	不妊とその看護	[講義] 不妊および、本人と家族の看護について学ぶ。 (事後課題⑥)					成田	
7	性感染症とその予防	[講義] ・性感染症による健康問題について学ぶ。 ・性感染症予防の支援について学ぶ。 (事後課題⑦)					成田	
8	試験						成田	
教科書	指定しない			参考書等	「母性看護学I(概論)」有森直子編、医歯薬出版、2018年 適宜提示する			
履修条件	なし			評価方法	1. 事後課題 (35%) 2. 筆記試験 (35%) 3. 小テスト (Moodle、事後課題②～⑦、6回30%)			
備考	3年生までの学習内容が基礎になっているため、解剖・病態・発達段階とホルモン変化の復習をしてから望むこと。1回ごとに学習課題が異なるため、講義内容および指定した内容を復習すること。							

授業科目	助産学概論		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講 Semester	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	助産および助産師活動の概要について学習する。							
	目標	1. 助産師および助産師活動の概念を理解する。 2. 母子保健と助産の変遷について理解する。 3. 性・生殖と人権について理解する。 4. 生命倫理について理解する。 5. 助産師の国際活動と海外の母子保健の課題を理解する。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法						担当教員	
1	助産の概念、助産師とは	〔講義〕助産の概念、助産師の業務範囲、助産師の役割など、助産学の基本的概念について理解する。						成田	
2	助産師活動の概要、母子保健と助産の変遷	〔講義〕分娩の歴史と助産の変遷、保健医療の推移について学ぶ。						角川	
3	性・生殖の健康と人権	〔講義〕助産実践との関連で、性と生殖の健康と人権について理解する。						成田	
4	助産師の国際活動と海外の母子保健	〔講義〕助産師の国際活動と海外の母子保健について学ぶ。						谷田部	
5～7	助産に関わる生命倫理	〔講義・演習〕助産に関連する倫理、助産師の倫理綱領、助産実践に関連する生命倫理について理解する。						成田	
8	試験							成田	
教科書	指定しない				参考書等	「助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論」 日本看護協会出版会、2021年 「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」日本看護協会出版会、2021年 他 適宜提示する			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目「周産期看護実習」				評価方法	1. 筆記試験 (50%) 2. 事後課題 (30%) 3. 演習への参加状況 (20%)			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 保健師およびNICU就職希望者など、助産師希望学生以外の就職の場合も役立つ内容である。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 各自で資料を収集し、積極的に講義・演習に参加すること。毎回の講義資料に基づいて復習し、次回の講義に備えること。								

授業科目	基礎助産学 I		科目責任者 角川 志穂	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 あり
				時間数	15	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	妊娠期・分娩期の生理と病態について学習する。						
	到達目標	1. 妊娠期の生理的变化と母体の適応について学ぶ。 2. 妊娠経過および妊娠期の正常からの逸脱について学ぶ。 3. 胎児の成長・発達および胎児付属物の機能について学ぶ。 4. 胎児および胎児付属物の正常からの逸脱について学ぶ。 5. 分娩の生理を学ぶ。 6. 分娩期の正常からの逸脱について学ぶ。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	妊娠期の生理的变化	[講義] 妊娠の生理、妊娠の診断、妊娠期の心身の変化について学ぶ。					角川	
2	妊娠期の正常からの逸脱と対応	[講義] 妊娠経過の診断、妊娠期の各種検査、正常からの逸脱の予防、妊娠経過中に起こる異常と対応、妊娠の合併する異常と対応について学ぶ。					角川	
3	胎児の成長と発育 胎児・胎児期の正常からの逸脱 胎児付属物の構造・機能と異常	[講義] 胎児の成長と発育について学ぶ。胎児の正常からの逸脱、胎児付属物の構造・機能・役割、胎児付属物に関する異常と診断方法について学ぶ。					角川	
4・5	分娩の生理	[講義] 分娩の概念、分娩経過、分娩の3要素、分娩機序について学ぶ。					角川	
6・7	分娩期の正常からの逸脱と対応	[講義] 分娩経過の診断、分娩経過の異常（分娩停止・分娩遷延）、娩出力の異常（微弱陣痛・過強陣痛）、産道の異常（骨産道・軟産道）、分娩期の正常からの逸脱の予防と異常への対応について学ぶ。					角川	
8	評価						角川	
教科書	「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2013年 「助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ（分娩期・産褥期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2013年 「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ（新生児期・乳幼児期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2013年			参考書等	「病態・治療論 [13] 産科婦人科疾患」百枝幹雄他、南江堂、2019年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」			評価方法	1. 筆記試験（85%） 2. 課題レポート（15%）			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 保健師およびNICU就職希望者など、助産師希望学生以外の就職の場合も役立つ内容であり、受講を歓迎する。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 毎回の講義で学んだことを復習して、次回の講義に臨むこと。							

授業科目	基礎助産学Ⅱ		科目責任者 成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	産褥期・新生児期の生理と病態について学習する。						
	到達目標	1. 産褥期の生理的变化・経過について学ぶ。 2. 産褥期の正常からの逸脱について学ぶ。 3. 新生児の生理的变化について学ぶ。 4. 新生児および新生児期の正常からの逸脱について学ぶ。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	産褥期の生理的变化、 産褥期の局所的变化	[講義] 産褥期の身体的変化、心理・社会的変化について理解し、 進行性変化と退行性変化および、正常な変化を促進する要因について学ぶ。					成田	
3・4	産褥期の正常からの逸脱と対応	[講義] 産褥期の正常からの逸脱の予防、産褥期に起こりやすい異常と対応について学ぶ。					成田	
5～7	新生児の生理的变化 新生児・新生児期の正常からの逸脱と対応、 ハイリスク新生児・低出生体重児のケア	[講義] 周産期にある胎児・新生児の生理的变化、子宮外生活への適応について学ぶ。 新生児の異常徴候、新生児期の正常からの逸脱と観察、ハイリスク新生児・低出生体重児と家族のケア					成田	
8	試験						成田	
教科書	「助産学講座7助産診断・技術学Ⅲ(分娩期・産褥期)」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年 「助産学講座8助産診断・技術学Ⅲ(新生児期・乳幼児期)」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年			参考書等	「病態・治療論[13]産科婦人科疾患」百枝幹雄他、南山堂、2019年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」			評価方法	1. 筆記試験(60%) 2. 各回の小テスト・事後課題の提出(40%)			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 保健師およびNICU就職希望者など、助産師希望学生以外の就職の場合も役立つ内容であり、受講を歓迎する。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 毎回の講義で学んだことを復習して、次回の講義に臨むこと。							

授業科目	基礎助産学Ⅲ		科目責任者 成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	母子と家族の健康、母子と家族の心理的側面および、妊娠・出産に関わる社会文化的側面について学習する。						
	到達目標	1. 母性・父性の発達と家族役割の変化について理解する。 2. 周産期女性の心理について理解する。 3. 母子の健康に影響を与える要因について理解する。 4. 母子の心理および、社会的側面に影響を与える要因について理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2	母子の健康と生活に影響を与える要因	〔講義〕 母子の健康と栄養、母子と免疫、妊娠中の薬剤の影響、遺伝性疾患、妊娠中の感染症・性感染症など、母子の健康に影響を与える要因について学ぶ。					成田	
3	母子と家族の心理的・社会文化的側面に影響を与える要因	〔講義〕 リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーと出産、女性への暴力、児童虐待など、母子の心理および社会文化的側面に影響を与える要因について学ぶ。					成田	
4	母性・父性とは、妊娠・出産による家族の変化、バースプランとバースレビュー	〔講義〕 女性と家族にとっての妊娠・出産・育児体験と、生活の変化について学習する。 バースプラン、バースレビューについて学ぶ。					成田	
5～7	母子の健康と生活への支援（小集団指導）	〔演習〕 母子の健康生活を支援するための小集団指導の方法について実践的に学ぶ。					成田	
8	評価							
教科書	指定しない			参考書等	「助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期）」 我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、最新版 「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅲ（分娩期・産褥期）」 医学書院、最新版 「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅳ（新生児期・乳幼児期）」 横尾京子編集、医学書院、最新版			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」			評価方法	1. 各回の小テスト・事後課題の提出（80%） 2. 課題レポート（20%）			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 この科目の予習として、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の心理・社会的側面の範囲を復習してから受講し、講義内容を復習し、理解して試験に臨むこと。							

授業科目	実践助産学Ⅰ	科目責任者 角川 志穂	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
			時間数	15	受講semester	4学年前学期	
学習目的と目標	目的	妊娠期の助産実践に必要な知識を理解し、アセスメントと支援の基礎的技術を習得する。					
	到達目標	1. 妊娠の診断について学ぶ。 2. 妊婦、胎児および家族の健康状態のアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 3. 妊婦、胎児および家族に必要な健康教育について理解する。 4. 妊婦と家族への健康教育に必要な基礎的技術を習得する。					
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法				担当教員	
1	妊娠の診断 妊婦のフィジカルアセスメントと助産診断	[講義] 妊娠の確定診断、妊娠各期の経過を診断するためのフィジカルアセスメント、妊娠各期の助産診断に必要な項目について学ぶ。				角川	
2	妊婦のフィジカルアセスメントの実践	[講義・演習] 妊婦のフィジカルアセスメントについて学ぶ。 (妊娠の診断、健康診査、妊婦のフィジカルアセスメント)				角川	
3・4	妊娠期の異常と妊娠合併症の診断と対応	[講義] 妊娠期の異常や合併症の診断(妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病など)と対応について学ぶ。				高橋	
5	妊娠期の助産過程の展開	[演習] 正常経過にある妊婦とその家族の支援方法および、妊娠各期の助産過程の展開について学ぶ。				角川	
6・7	妊婦と家族への健康教育	[演習] 妊婦と家族への健康教育の意義および実践について学ぶ。				角川	
8	試験					角川	
教科書	「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」 我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、 2013年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・ 実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、 2019年 「産婦人科診療ガイドライン 産科編2020」 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、 日本産科婦人科学会事務局、2020年		参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、 2019年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」		評価方法	1. 筆記試験(85%) 2. 課題レポート(15%)			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産学実習選択学生選抜合格者のみが受講できる。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、 実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。						

授業科目	実践助産学Ⅱ		科目責任者 角川 志穂	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	4学年前学期	
学習目的と目標	目的	分娩期および出生直後の新生児に対する助産実践に必要な知識を理解し、アセスメントと支援の基礎的技術を習得する。						
	到達目標	1. 分娩進行に伴う身体・心理的变化について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。 2. 胎児のウェルネスの指標について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。 3. 妊娠期・分娩期の助産過程に必要な知識と技術を習得する。 4. 分娩経過中の産婦と家族への支援について理解する。 5. 分娩介助に必要な基礎的技術を習得する。 6. 出生直後の新生児の生理的变化と胎外生活への適応について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	分娩進行に伴う身体・心理的变化のアセスメント	[講義] 分娩各期の分娩経過に伴う身体・心理的变化のアセスメントとケアについて学ぶ。 ハイリスク分娩の予防・支援について学ぶ。					角川	
2	分娩経過中の産婦と家族の支援	[講義] 分娩経過中の産婦と家族へのアセスメントと支援について学ぶ。					角川	
3・4	母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメント (超音波断層法・胎児心拍モニタリング)	[講義] 母体と胎児のウェルネスの指標として、超音波検査法と胎児心拍モニタリングを学び、母体および胎児の評価について学ぶ。					桑田	
5・6	母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメント	[講義] 分娩経過中の母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメントについて学ぶ。					角川	
7～9	分娩期の助産過程の展開	[講義・演習] 分娩期の母体と胎児のウェルネスの評価、産婦と家族への支援について、事例をもとに助産過程を展開し学ぶ。					角川	
10～13	分娩介助に必要な基礎的技術とその実践	[講義・演習] 分娩介助に必要な基礎的技術について学ぶ。					角川・谷田部高嶋	
14	出生直後の新生児のアセスメントとケア	[講義・演習] 出生直後の新生児の成長・発達・成熟度の診断と胎外生活への適応の診断を含む分娩介助に必要な基礎的な基礎技術を習得する。					小林角川	
15	試験						角川	
教科書	「助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2013年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、2019年 「産婦人科診療ガイドライン 産科編2020」日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、日本産科婦人科学会事務局、2020年			参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、2019年 「分娩のしくみと介助法」竹田省、高橋眞理編集、メジカルビュー社、2016年 「図説CTGテキスト アドバンス」中井章人、メジカルビュー社、2017年 「分娩介助学 第2版」進純郎、医学書院、2014年 「正常分娩の助産術」進純郎・堀内成子、医学書院、2010年			
条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」			方 評 法 価	1. 筆記試験 (85%) 2. 課題レポート (15%)			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産学実習選択学生選抜合格者のみが受講できる。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。							

授業科目	実践助産学Ⅲ		科目責任者 角川 志穂	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 あり
				時間数	30	受講セメスター	4学年 前学期	
学習目的と目標	目的	早期産褥・新生児期の母子と家族について理解し、そのアセスメントと支援の基礎的技術を習得する						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 早期産褥期の身体・心理的变化とその支援について理解し、アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 2. 産褥と新生児および家族の心理・社会的変化とその支援について理解する。 3. 早期産褥期の正常からの逸脱の早期発見・治療・予防・支援について理解する。 4. 新生児期の生理的变化と胎外生活への適応について理解し、アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 5. 新生児期の正常からの逸脱の早期発見・治療・予防・支援について理解する。 6. 母子分離の際の母子と家族の理解とその支援について考える。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	分娩直後の産褥の正常からの逸脱のアセスメントとケア	[講義] 分娩直後の産褥のアセスメントとケアについて学ぶ。					角川	
2	産褥早期の身体的変化、心理・社会的変化	[講義] 産褥早期の産褥の身体的変化、心理・社会的変化について学ぶ。(マタニティブルーや産褥精神障害を含む)					角川	
3・4	分娩直後から産褥早期に起こる異常の診断と対応	[講義] 分娩直後から産褥早期に起こる異常の診断と対応について学ぶ。					角川	
5	母子分離された母子と家族の理解とその支援	[講義] 母子分離となった母子と家族の理解とその支援について学ぶ。					角川	
6	母乳育児支援と授乳中に起こりうるトラブル	[講義] 母乳育児支援と授乳中に起こりやすいトラブルとケアについて学ぶ。					角川	
7	産褥期進行性変化のフィジカルアセスメント	[演習] 産褥期の進行性変化のフィジカルアセスメントについて学ぶ。					角川	
8	産褥期退行性変化のフィジカルアセスメント	[演習] 産褥期の退行性変化のフィジカルアセスメントについて学ぶ。					角川	
9・10	新生児の生理的变化と胎外生活への適応	[講義] 早期新生児期の生理的变化、胎外生活への適応について学ぶ。					角川	
11・12	新生児期の正常からの逸脱を踏まえた新生児のフィジカルイグザミネーション	[演習] 新生児期の正常からの逸脱を踏まえ、早期新生児期の正常経過のアセスメントに必要なフィジカルイグザミネーションの基本的技術を習得する。					角川	
13・14	出生直後に起こる新生児の異常の診断と対応	[講義] 出生直後に起こる新生児の異常の診断と対応について学ぶ。					矢田	
15	試験						角川	
教科書	「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期」横尾京子編集、医学書院、2013年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川真理子編集、南山堂、2019年			参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、2019年 「母乳育児支援スタンダード第2版」日本ラクテーションコンサルタント協会、医学書院、2015年 「新生児学入門第5版」仁志田博司、医学書院、2018年			
条件 履修	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」			方法 評価	1. 筆記試験(85%) 2. 課題レポート(15%)			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産学実習選択学生選抜合格者のみが受講できる。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。							

授業科目	実践地域助産学	科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域における母子保健活動の意義と実践について理解し、地域につなげるケアの基本的技術を習得する。						
	到達目標	1. 地域における母子保健活動の意義と活動の場について理解する。 2. 助産師による地域の子育て支援について理解する。 3. 退院後の母子の生活の支援について学ぶ。 4. 育児期の健康教育・保健指導に必要な基礎的技術を習得する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	地域における母子保健活動の意義と実際	[講義] 地域母子保健の概念と意義および、地域母子保健活動の歴史、法的基盤、助産師による様々な場での母子保健活動の実際について学ぶ。					成田	
2	退院後に向けた母子の生活の支援	[講義] 医療的ケアの必要な児の退院後に向けた退院調整および退院後の母子と家族への支援について学ぶ。					臨地講師 黒田	
3・4	助産師による地域の子育て支援とその課題	[講義・演習] 助産師による地域の子育て支援の実際、必要性と課題について学ぶ。					藤川	
5～7	育児期の健康教育・保健指導の実践	[演習] 育児期にある母子の健康教育・保健指導について、実践的に学ぶ。					成田	
8	評価						成田	
教科書	「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」成田伸編、日本看護協会出版会、2021年			参考書等	適宜提示する。			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「助産学概論」			評価方法	1. 課題レポート (50%) 2. 事後課題 (50%)			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産学実習選択学生選抜合格者のみが受講できる。選抜方法は別途提示する。 周産期看護実習での体験を振り返り、毎回の講義・演習に積極的に参加すること。							

授業科目	助産管理学	科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
				時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	助産師の活動に関わる管理の概念とその実際について理解し、助産師活動の場と責任について学ぶ。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産管理の概要について理解する。 2. 母子に対する社会保障について理解する。 3. 助産所と病産院の助産管理の役割について理解する。 4. 災害時の助産師の役割と活動について理解する。 5. 医療事故と助産師業務について理解する。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	助産管理の概要 医療保険制度と母子に対する社会保障制度	[講義]・助産管理の目的と概要を学習する。 ・日本の医療保険制度と母子に対する社会保障制度について学ぶ。					成田	
2	助産所の業務と管理	[講義]・助産所での妊娠・分娩管理、その役割と課題について学ぶ。 ・助産所の業務と管理および、助産業務ガイドラインについて学ぶ。					武藤	
3	産科外来と助産師外来	[講義]・助産師外来における助産師の主体的な妊婦・褥婦支援について学ぶ。					武藤	
4	病院での助産管理	[講義]・病棟における助産管理について学ぶ。 ・産科病棟、分娩棟、MFICU それぞれの機能と役割、その中での助産実践について学ぶ。					塚田	
5～7	助産実践におけるリスクマネジメント (災害時の助産師の役割と活動/助産業務と医療事故)	[講義]・助産実践におけるリスクマネジメントの概要を学ぶ。 ・災害時の助産師の役割と母子ケアについて学ぶ。 ・助産業務に関連する医療事故と助産師の業務責任について学ぶ。					成田 TA	
8	試験						成田	
教科書	「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」成田伸編、日本看護協会出版会、2021年 「助産業務ガイドライン2019」日本助産師会編集、2019年			参考書等	適宜提示する。			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「助産学概論」			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事後課題 (60%) 2. 課題レポート (40%) 			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 周産期に関連する法律・制度・看護管理を復習してから受講し、講義内容を理解して試験に臨むこと。							

看 護 学 分 野

各 看 護 実 習

授業科目	対象の理解実習	科目責任者	湯山 美杉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	45	受講セメスター	1年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	保健・医療・福祉の連携を視野に入れ、その関連施設などで、生活する看護の対象である人々の理解とその場に働く看護職者との職種との協働・連携を学び、健康や環境および看護について看護学を学習する上での基礎とする。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場で働く人々との協働・連携を学び、それぞれの施設での看護職の役割を学ぶ。 2. 看護活動の場で看護の対象である人々と接し、健康や環境および看護について学ぶ。 						
学習内容ならびに方法								
実習期間	実習場所及び学内実習を合わせて、5日間（※実習オリエンテーションは別日に実施する）							
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーションは、実習の概要及び実習の進め方の説明を行う。 2. 学生の配置は、対象の理解実習学生配置表に基づきグループに分かれて実習を行う。 3. 病棟、外来部門、他関連部門の実習は、ローテーションにより行う。 4. 病棟、外来部門実習の日々のカンファレンスは、グループ毎に実習目標にそって行う。 5. 実習最終日にまとめと発表を行う。 							
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟看護師長または臨地実習指導者から病棟オリエンテーションを受ける。 2) 看護の対象である人々の立場に立ち、病棟の療養環境を見学する。 3) 看護ケアの場面を見学し、病棟看護職者の役割を学ぶ 4) 様々なライフステージにある看護の対象である人とコミュニケーションをし、対象の健康、環境、看護を考える。 2. 外来部門実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外来看護師長から外来部門のオリエンテーションを受ける。 2) 看護の対象である人々の立場に立ち、外来部門の環境を見学する。 3) 看護ケアの場面を見学し、外来看護職者の役割を学ぶ。 4) 外来を受診している対象や家族の受診場面を見学し、対象の健康、環境、看護を考える。 3. 他関連部門実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 他関連部門責任者から該当部門のオリエンテーションを受ける。 2) 看護の対象である人々の立場に立ち、他部門の環境を見学する。 3) 関連部門の他職種者と看護職者との協働を通して、対象の健康、環境、看護を考える。 							
担当教員	基礎看護学教員 小原、里光、内堀、湯山、石井（容）、井上、甲賀 看護基礎科学教員 大塚、平尾、倉科、関山、鹿野							
実習場所	自治医科大学附属病院							
履修条件	・単位取得見込みが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅰ」			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的・目標に対する達成度 2. 日々の記録物 3. 実習課題レポート 4. 実習態度 詳細は実習要項に記載する。			
備考	入学後のはじめての実習科目であることから、自治医科大学の学生として基本的な身だしなみを整え、責任ある実習態度で臨むこと。病棟・外来・他関連部門の実習ごとにタイムスケジュールが異なるため、実習要項を熟読し時間管理および健康管理に努めること。事前・事後学習は、実習ごとのテーマを提示するののでしっかりと取り組むこと。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。							

授業科目	日常生活援助実習	科目責任者	小原 泉	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講 Semester	2年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	1. 入院中の患者1人を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護援助を実施する。 2. 実習を通して患者-援助者関係を築き、望ましい相互作用について考察する。						
	到達目標	1. ヘンダーソンの看護理論を活用し、看護過程を展開できる。 2. 看護過程の展開から患者に必要な看護援助を立案できる。 3. 立案した看護援助を実施し、評価できる。 4. 患者-援助者関係を築き、望ましい相互作用について考察できる。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	本実習の目的は、基礎看護学科目を全て終了した学生が、その専門的知識と技術を用いて、健康を逸脱した状態、機能障害のある対象者に必要な日常生活の援助について実践を通して学ぶことである。 ※実習目標、実習方法、実習内容、実習評価など詳細は、日常生活援助実習要項に記載する。 実習場所及び学内実習を合わせて、10日間							
実習方法	1. 実習オリエンテーションおよび技術確認テストは別日程で行う。 2. 実習は、前半・後半グループに分かれて実習を行う。 3. 実習病棟は、7病棟を使用し、学生配置は、1病棟7～8名で編成する。 4. 1人以上の患者を受け持ち、看護過程を展開する。							
実習内容	1. 病棟実習の初日は、学内および病棟オリエンテーションを行う。 2. 病棟実習2日目以後は、1人以上の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 3. 日々のカンファレンス、中間カンファレンス・最終カンファレンスは、学生主体で各テーマを決め主体的に行う。 4. 学内実習では、事前面接、最終面接などを行う。							
担当教員	小原、里光、内堀、湯山、石井(容)、井上、甲賀							
実習場所	自治医科大学附属病院							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「看護技術論Ⅰ」「看護技術演習Ⅰ」 「対象の理解実習」 「看護技術論Ⅱ」「看護技術演習Ⅱ」 「ヘルスアセスメント」 「看護技術論Ⅲ」「看護技術演習Ⅲ」 「看護過程演習」			評価方法	1. 事前学習課題 2. 実習目標に対する達成度 3. 実習記録物 4. 実習態度 詳細は、日常生活援助実習要項に記載する。			
備考	実習に際して、事前学習課題は、看護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程演習科目、ヘルスアセスメント科目、人体の構造と機能で既習内容について提示する。また各病棟の主な疾患に関連する病態生理、アセスメント等も提示するので、しっかりと事前学習をすること。夏季休暇後の実習となるため、自己の健康管理を十分におこなって臨むこと。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。							

授業科目	周産期看護実習	科目責任者	成田 伸	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ周産期における母子とその家族への看護について学ぶ。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・出産・育児期にある母子とその家族の生活を理解する。 2. 入院している母子に対する基礎的援助について理解する。 3. 受持ち母子をアセスメントし、必要な看護援助を考え、看護過程を展開する。 4. 地域での看護職による母子への支援の必要性とその実際を理解する。 5. 妊娠・出産・育児期にある母子とその家族に対する支援に必要な他職種との連携と看護職の役割について考える。 						
学習内容並びに方法								
実習期間	3年次前学期 1クール2週間で、全5クール							
実習方法	学生は自治医科大学附属病院または附属さいたま医療センターの産科病棟にて母子1組を受け持ち、ケース受け持ち実習を1週間行う。もう1週間は、機能別実習として、自治医科大学附属病院または附属さいたま医療センターのNICUや産科病棟・産科外来にて妊娠期・分娩期・新生児期の母子とその家族への支援実習を行うとともに、地域での育児支援実習を行う。							
実習内容	<p>初日は、自治医科大学附属病院や附属さいたま医療センター、地域での育児支援施設での実習について、全体およびグループ毎にオリエンテーションを行う。また、周産期の母子への看護に関する技術と知識の確認を行う。さらに、本院で実習する学生は、自治医科大学附属病院での病棟オリエンテーションを臨地実習指導者より受ける。</p> <p>詳しい実習内容は「周産期看護実習要項」を参照。</p> <p>ケース受け持ち実習では、母子をケースとして受け持ち看護を展開すると共に、適宜ショートカンファレンスを行い、健康課題を持つ周産期における母子と家族への看護について理解を深める。</p> <p>機能別実習では、様々なリスクを持つ、妊娠期・分娩期・新生児期にある母子と家族への看護について、地域での育児支援を含んで、多様な側面から学ぶ。</p> <p>最終日は各自が作成したレポートをもとにカンファレンスを行い、実習における学びの統合を図る。</p>							
担当教員	<p>母性看護学教員</p> <p>自治医科大学附属病院および自治医科大学附属さいたま医療センター 臨地実習指導者</p> <p>一般社団法人栃木県助産師会（下野市を中心とした活動）担当助産師</p>							
実習場所	自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター 一般社団法人栃木県助産師会（下野市を中心とした活動、助産所での実習含む）、もりあね助産院							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「周産期実践看護学Ⅰ」 「周産期実践看護学Ⅱ」 			評価方法	周産期看護実習実習評価票に基づき、評価する（全体を通じた実習状況、ケース受け持ち実習、実習態度） （100%）			
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）および周産期実践看護学ⅠⅡでの学びを統合し、周産期における母子とその家族への看護について、実践を通して看護展開を学んでいく。さらに、周産期にある母子とその家族に対する支援に必要な他職種との連携と看護職の役割について、さまざまな病棟や地域での実習およびショートカンファレンス等を通して学ぶ。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。							

授業科目	小児期看護実習		科目責任者 横山 由美	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	90	受講 Semester	3年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	健康課題をもつ子どもの看護の展開を学ぶ。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院している子どもの生活を理解する。 2. 入院している子どもおよび親・家族についてアセスメントし、必要な援助を明らかにする。 3. 入院している子どもおよび親・家族への援助を計画し実践を試みる。 4. 行った実践を評価し、さらなる看護の展開を試みる。 5. 医療チームの一員として健康課題をもつ子どもおよび親・家族に対する看護職の役割を理解する。 						
学習内容並びに方法								
実習期間	2週間							
実習方法	学生は1グループ2～7名程度で、入院および外来に通院する子どもを対象に実習を行う。							
実習内容	<p>初日は、自治医科大学とちぎ子ども医療センターでの実習について、全体およびグループ毎に実習オリエンテーション、病棟オリエンテーションおよび患者選定を行う。</p> <p>各実習場所における実習内容と実習方法は、「小児期看護実習要項」を参照。</p> <p>最終日は、カンファレンスをもち、実習全体の振り返りを通して学びを統合する。</p>							
担当教員	<p>小児看護学の全教員</p> <p>自治医科大学とちぎ子ども医療センター 臨地講師</p> <p>自治医科大学総合周産期母子医療センター 臨地講師</p>							
実習場所	<p>自治医科大学とちぎ子ども医療センター 2A病棟、3A病棟、4A病棟、外来</p> <p>自治医科大学総合周産期母子医療センター GCU</p> <p>栃木県立岡本特別支援学校 おおるり分教室</p>							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「小児実践看護学Ⅰ」 「小児実践看護学Ⅱ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「小児実践看護学Ⅲ」 			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習態度 2. 実習記録物、実習課題レポート 			
備考	<p>生涯発達看護学概論Ⅱおよび小児実践看護学Ⅰ～Ⅲでの学びを統合し、健康障害や入院によってさまざまな状況にある子どもと親・家族に対する看護について実践を通して看護展開を学ぶ。さらに、子どもと親・家族を取り巻く保健・教育・福祉などの各組織の機能と組織間の連携・調整についてカンファレンスなどを用いて学ぶことで、医療チームの一員として健康課題をもつ子どもおよび親・家族に対する看護職の役割について学ぶ。</p> <p>本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。</p>							

授業科目	成人期継続療養 看護実習	科目 責任者	佐藤 幹代	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	90	受講セメスター	2年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族を多面的に捉え、看護師－患者関係を築く基礎的能力を養う。						
	到達目標	1. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族の特性を把握し、多面的に捉える。 2. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護について、実践を通して理解する。 3. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族を看護する者としてふさわしい態度、責任感、倫理観を養い、看護師－患者関係を築く資質を養う。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	2週間							
実習方法	主に、継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族を1名以上受け持ち、看護過程を基盤に実習を行う。また、実習期間中は各種カンファレンスを通して、相互に学習を深める。							
実習内容	1. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族の特性を批判的な解釈をしつつ把握し、受け持つ成人とその家族を多角的な視点で捉える。 2. 実習経験や、カンファレンスでの学びを共有することを通して、継続療養上の健康課題をもつ成人と家族に必要な看護を検討する。 3. 継続療養上の健康課題をもつ成人ならびにその家族との実習経験や、カンファレンスでの学びを共有することを通して、看護師－患者の援助関係の成立・発展を体験する。 4. 継続療養上の健康課題をもつ成人とその家族への看護過程を展開し、看護する者としてふさわしい態度、責任感、倫理観を養う。 *詳細は成人期継続療養看護実習要項を参照する。							
担当教員	成人看護学 学科目教員 自治医科大学附属病院 臨地講師 他							
実習場所	自治医科大学附属病院における主に成人系の病棟							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「対象の理解実習」 「成人実践看護学Ⅰ」			評価方法	1. 実習内容、態度、目標の達成度 2. 実習記録 3. 各種カンファレンスへの参加状況及び発言内容 上記を総合的に評価する。			
備考	看護師－患者の援助関係を築きながら、成人期にある人とその家族の特性ならびに継続療養上の健康課題の把握を通して、看護過程を展開する科目である。生涯発達看護学概論Ⅲ、成人実践看護学Ⅰの学びを活用するとともに、成人期健康危機看護実習、成人期長期療養看護実習の基盤となる実習科目である。 生涯発達看護学概論Ⅲ、成人実践看護学Ⅰの既習事項を復習の上で実習に臨み、実習期間中は自身の健康管理に留意しながら、安全・安楽・安寧を配慮した行動、倫理的態度ならびに日々の学習課題に主体的・自律的に取り組む姿勢を育成するために、日々の実習に向けた十分な予習と復習を求める。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。							

授業科目	成人期健康危機 看護実習	科目責任者	村上 礼子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	90	受講 Semester	3年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培う。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人の健康の回復と生活への適応を支援する。 看護師-患者関係を形成し、自らの実践を常に問いながら看護を展開する。 チーム医療を担う一員として、看護実践上の倫理的問題に対する気づきや考え、態度を育む。 看護専門職として、先見性をもつ看護を提供するための探究的姿勢を磨く。 						
学習内容ならびに方法								
実習期間	2週間							
実習方法	主に、健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族を1名以上受けもち、看護過程を活用して実習を行う。1グループは7名程度の構成とする。実習中は各種カンファレンスに参加し、相互に学習を深める。 また、高度医療を行なっている検査・治療部門で実習を展開することもある。							
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族の特性、およびおかれている背景を理解する。 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族を対象として看護を行うために必要な情報を集め、アセスメントを行い、看護上の問題を明確にし、看護計画を立案する。 立案した看護計画に基づいて、チーム医療を担う一員として看護実践を行う。 成人とその家族の反応をもとに、看護計画の評価をし、立案した看護計画を修正する。 各種カンファレンス（ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、まとめのカンファレンス、チーム医療に関するカンファレンス）を行い、相互に学習を深める。 <p>*詳細は成人期健康危機看護実習要項を参照する。</p>							
担当教員	成人看護学 学科目教員 自治医科大学附属病院 臨地講師 他							
実習場所	自治医科大学附属病院における健康危機に関する主に成人系の病棟							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 「成人実践看護学Ⅱ」 「成人実践看護学Ⅲ」 「成人実践看護学Ⅳ」 			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 実習内容、態度、目標の達成度 実習記録 各種カンファレンスへの参加状況及び発言内容 <p>上記を総合的に評価する。</p>			
備考	<p>本科目は、成人実践看護学Ⅰ、成人実践看護学Ⅱを基盤に展開する実習科目である。科目履修に向け、上記の履修条件科目に加え、特に生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）、チーム医療論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学、臨床検査学、病態学概論、病態学各論、栄養学など、基礎科学分野の知識を十分復習した上で臨むこと。実習中は、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ成人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢を持てるよう、指導教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的に学習をしていくこと。</p> <p>本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。</p>							

授業科目	成人期長期療養 看護実習		科目責任者 長谷川 直人	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	90	受講セメスター	3年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培う。						
	到達目標	1. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人の健康の回復と生活への適応を支援する。 2. 看護師-患者関係を築き、自分の実践を常に問いながら看護を展開する。 3. 看護実践上の倫理的問題に対する考えや態度を育む。 4. 看護専門職として、成人のセルフケア能力を高めるための支援をするうえでの探究的姿勢を磨く。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	2週間							
実習方法	主に、長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族を1名以上受け持ち、看護過程を活用して実習を行う。1グループは7名程度の構成とする。実習中は各種カンファレンスに参加し、相互に学習を深める。また、患者の長期療養の支援に関わる外来・検査・治療部門で実習を展開することもある。							
実習内容	1. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族の特性を理解する。 2. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族への看護を行うために、看護師-患者関係を構築しながら必要な情報を集め、アセスメントを行い、看護上の問題を明確にし、看護計画を立案する。 3. 立案した看護計画に基づいて、成人とその家族が健康課題と向き合い、健康の回復と生活への適応に取り組めるよう支援する。 4. 成人とその家族の反応をもとに、看護計画の評価をし、立案した看護計画を修正する。 5. 各種カンファレンス(ショートカンファレンス、倫理的問題に関するカンファレンス、ケースカンファレンス、まとめのカンファレンス)に参加し、相互に学習を深める。 *詳細は成人期長期療養看護実習要項を参照する。							
担当教員	成人看護学 学科目教員 自治医科大学附属病院 臨地講師 他							
実習場所	自治医科大学附属病院における長期療養に関する主に成人系の病棟							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 「成人実践看護学Ⅱ」 「成人実践看護学Ⅲ」 「成人実践看護学Ⅳ」			評価方法	1. 実習内容、態度、目標の達成度 2. 実習記録 3. 各種カンファレンスへの参加状況及び発言内容 上記を総合的に評価する。			
備考	本科目は、成人実践看護学Ⅲ、成人実践看護学Ⅳを基盤に展開する科目である。科目履修に向け、上記の履修条件科目に加え、特に生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）、チーム医療論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学、臨床検査学、病態学概論、病態学各論、栄養学ほか、基礎科学分野の知識を十分に復習した上で臨む。実習では、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ成人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢をもてるよう、指導教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的な学習活動と、実習に向けた十分な予習と復習を求める。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。							

授業科目	老年臨床看護実習	科目責任者	浜端 賢次	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講 Semester	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ老年期にある人の看護の展開を学ぶ。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病や治療、ケアが老年期にある人にどのような影響を与えているかを理解する。 2. 老年期にある人の発達段階、健康状態、生活史・背景、価値観などを考慮した援助の必要性がわかる。 3. 退院後の生活に向けての援助の必要性がわかり、高齢者やその家族が安心して家庭に戻れるような援助ができる。 4. 高齢者が退院後も必要な医療が継続されるように、他部門・他機関との協働の必要性を理解する。 5. 援助を実施する時には、倫理的な配慮を行う。 						
学習内容並びに方法								
実習期間	実習場所及び学内での演習を合わせて10日間							
実習方法	<p>病院実習では、疾病や治療および加齢現象が、高齢者の生活にどのような影響を与えているかを理解し、在宅療養に向けて必要な支援の実践を学ぶ。施設実習では、認知症や加齢・疾患に伴う生活機能障害を理解し、在宅療養に向けてその人らしい生活が送れるよう、維持期のリハビリの実践や、多職種連携の実践を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険施設では、介護ユニットで実習を行う。 ・自治医科大学附属病院では、高齢者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 							
実習内容	<p><介護保険施設></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入所者の特徴、疾病や治療、認知症・加齢現象から生じる生活機能障害を踏まえ、エンパワーメントに着目した支援方法について検討する。 2 多職種によるチームアプローチの実践から、介護保険施設の看護師の役割について考察する。 <p><自治医科大学附属病院></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受け持ち患者の加齢に伴う変化、疾病や治療、心身機能、身体構造の障害レベル、生活史、入院前の生活状況、家族関係を把握し、退院後の療養生活を推察する。 2 上記を踏まえてアセスメントを行い、看護課題を特定し、エンパワーメントに着目した看護計画を立案し、意図的・体系的な看護を実践し、評価する。 3 適宜カンファレンスを行い、指導者・教員と看護方針を確認しながら実施する。また学生相互の学びを深める。 							
担当教員	老年看護学全教員							
実習場所	<p>介護保険施設（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人保健施設 晃南 ・介護老人保健施設 ひまわり荘 ・介護老人福祉施設 キラリの舎 ・介護老人福祉施設 春わらう舎 <p>自治医科大学附属病院</p>							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「老年実践看護学Ⅰ」 「老年実践看護学Ⅱ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「老年実践看護学Ⅲ」 			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習態度 2. 実習記録物 3. 実習課題レポート 			
備考	<p>これまでの講義・実習で学んだ知識・技術を想起し、高齢者の尊厳を守り、指導者・教員とともに学習内容を確認しながら、自律的・主体的に取り組むことを重視する。 実習前に事前学習として課題レポートを課す。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。</p>							

授業科目	老年在宅看護実習	科目責任者	上野 まり	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ老年期にある人の在宅における生活に及ぼす影響を理解する。						
	到達目標	1. 老年期の多様な健康課題について理解し、在宅での生活をおくるうえでの健康障害について理解する。 2. 健康上の課題および健康障害を抱えながら自宅で生活している高齢者とその家族への支援方法を理解する。 3. 健康障害を抱えながら自宅で療養生活をしている高齢者とその家族を支援する保健医療福祉体制とその資源を活用した看護職の役割・機能及び援助方法を理解する。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	実習場所および学内での演習を合わせて、10日間							
実習方法	健康障害が在宅療養生活に及ぼす影響と支援方法を理解するために、訪問看護ステーションでは在宅療養者宅に訪問看護師と訪問し、看護観察と看護実践を提供する。また、介護保険関連施設（通所リハビリテーション施設）では、在宅療養生活を支える回復期・維持期のリハビリの実際や多職種連携の実際を学ぶ。さらに、看護職を中心としたケアスタッフと共に在宅療養者の生活を踏まえた支援を行う。							
実習内容	1. 訪問看護ステーション 1) 同一の在宅療養者宅（継続事例）を複数回訪問し、在宅療養者が抱える健康障害をアセスメントする。さらに、健康障害が在宅療養者の療養生活に与える影響と家族機能をアセスメントする。 2) 訪問看護ステーションの看護活動の現状から、看護の役割と必要な看護実践について検討する。 3) 在宅療養者と家族を取り巻く現状を把握し、介護保険制度と社会資源等から今後の課題を考察する。 2. 介護保険関連施設（通所リハビリテーション施設） 1) 在宅療養者が通所部門を利用している姿を見学し、在宅で継続して生活していくためにどのような看護援助が必要か検討する。 2) 在宅療養者に行われている援助に実際に参加し、在宅療養生活に看護師がどのような役割を果たしているか考察する。 3. 学内での演習 中間カンファレンスは、アセスメント（継続事例の療養環境や家族、健康障害の程度、ニーズや支援など）した内容をグループで発表・共有し、2回目の訪問看護活動における看護計画等に活かす。 また、継続事例発表会では、継続事例の健康障害・ニーズのアセスメント、ならびに立案した看護計画と実践した援助等の学びを振り返りながら発表する。							
担当教員	老年看護学教員・地域看護学教員 ほか。							
実習場所	・訪問看護ステーション（県内12ヶ所） ・通所リハビリテーション施設（県内2ヶ所）							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「老年実践看護学Ⅰ」 「老年実践看護学Ⅱ」 「老年実践看護学Ⅲ」			評価方法	1. 実習態度 2. 実習記録物 3. 実習課題レポート			
備考	これまでの講義・実習で学んだ知識・技術を想起し、在宅療養を継続するために必要な看護について検討する。その際、在宅療養生活を継続するための訪問看護や法律や制度、社会資源等についても予習する。さらに、継続事例発表会で学んだ内容の復習を行い、今後の在宅看護に繋がる継続学習を行う。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。							

授業科目	精神保健看護実習	科目責任者	永井 優子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講 Semester	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	精神疾患および精神障害をもちながら生活している人とその家族を全人的に理解し、地域資源を活用して支援する方法を理解する。						
	到達目標	1. 精神障害者を生活者として理解し、精神障害が生活に及ぼす影響を理解する。 2. 精神の健康上の課題および精神障害をもちながら生活していく人およびその家族を支援する方法を理解する。 3. 精神障害を持つ人が地域資源を活用できるように援助する方法を理解する。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	2週間							
実習方法	1) 複数のグループを編成し、実習施設の特性を考慮して、学生が自由に考え、自分の判断で工夫して、組織内外の多職種と協働する。 2) 地域で療養生活を営む精神障害をもつ人と家族を対象として担当し、対象者の状態と生活に即し、集団力動を考慮して個別および施設利用者集団の看護を実践する。							
実習内容	1) 精神および身体的な健康課題について、病態および心理社会的な環境要因についてアセスメントし、精神障害をもつ人とその家族への援助を計画・実施・評価する。 2) 精神障害をもつ人およびその家族の生活歴、それぞれの希望、そして生活上の困難と工夫を踏まえ、回復過程に応じた基本的な看護援助を計画・実施・評価する。 3) 精神障害をもつ人自身およびその家族について、生活者という視点から、利用可能な社会資源・制度等の利用と組織内外の人的資源と協働することも含めた看護計画を立案・実施・評価する。 4) 精神障害をもつ人やその家族、そして当事者組織を含めたつながりを持つ人々の精神的・身体的・社会的な健康を維持・増進する看護援助について、計画・実施・評価する。							
担当教員	永井、半澤、石井(慎)、富川							
実習場所	県内の複数の精神科デイケア施設および精神障害者が利用する通所型福祉施設							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 ・単位取得見込みが必要な科目 「精神看護方法」 「地域精神看護方法」			評価方法	評価項目に従って、学生の自己評価を参考にし、担当教員と科目責任者が協議して目的・目標の到達度を総合的に評価する。 1. 実習の参加状況と学習態度 2. 対象者とのかかわり 3. 実習記録および報告の内容および提出状況			
備考	「地域精神看護方法」で行う本実習の記録用紙を活用した事例演習と講義内容は、本実習の準備となるため、同一年度に履修する必要がある。「生涯発達看護論」、「グループアプローチ」、「実践基礎看護学概論Ⅱ」、「精神看護方法」の復習を十分にし、実習の前および期間内に e-learning による課題を行う必要がある。本実習では、身体上の課題を併せもつ青年期から老年期にわたる幅広い年齢層の対象者を受け持つため、基礎看護学、成人看護学、老年看護学等で学んだ知識と技術を活用することになる。また、公衆衛生看護学に関する知識と技術、「老年在宅看護実習」で学ぶ内容と本実習科目の内容は関連が深く、活用することで本実習を円滑に展開することができる。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。							

授業科目	公衆衛生看護実習	科目責任者	春山 早苗	単位数	4	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	180		3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生看護活動の実際をとおして、看護職の役割、並びに、生活集団のヘルスニーズの把握方法とその充足のための公衆衛生の理念に基づく看護活動方法及びヘルスケアシステムづくりのための看護活動方法の理解を深め、公衆衛生看護の活動方法の基本を習得する。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・学校・職場の生活集団のヘルスニーズの把握方法とその充足のための個人・家族への援助方法の基本を習得する。 2. 地域・学校・職場の生活集団のヘルスニーズを充足するための看護活動の展開方法について理解を深め、その基本を習得する。 3. ヘルスケアシステムを整え機能させるための行政分野・学校保健分野・産業保健分野における看護職としての機能・役割や活動方法の理解を深める。 4. 行政分野・学校保健分野・産業保健分野における看護職との関わりをとおして、特定生活集団の健康生活を守るということに責任を持つ看護職のあり方の理解を深める。 5. 現在行われている看護活動から、地域・学校・職場の生活集団の健康レベルや生活の質をより向上させるための看護の課題を考える。 						
学習内容ならびに方法								
実習期間	4週間							
実習方法	学生をグループに分け、栃木県内の保健所（健康福祉センター）で4日間、市町村で10日間（事前訪問実習1日間を含む）、小中学校で2日間、事業所で1日間の実習をする。 詳細は「公衆衛生看護実習要項」に示す。							
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習オリエンテーション 学内において全体オリエンテーション、並びに、実習保健所（健康福祉センター）毎、実習市町村毎、実習小中学校毎、実習事業所毎のオリエンテーションを行う。また、保健所（健康福祉センター）、市町村については実習初日に実習施設においてもオリエンテーションを行う。 2. 行政分野における看護実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健所（健康福祉センター）実習 <ol style="list-style-type: none"> ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習保健所毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者及び教員の指導により実習する。 ③最終日には、各実習施設において4日間の実習を通したまとめのカンファレンスを実習指導者と共に行う。 2) 市町村実習 <ol style="list-style-type: none"> ①「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護方法論」「健康生活支援技術Ⅱ」と連動して学生各々が実習に関わる事前学習や実習のための準備を行い、実習に臨む。 ②実習期間中に各実習施設で予定されている事業や保健師活動を参考に、実習計画及び行動計画を立てる。 ③学生自身が立てた実習計画及び行動計画に沿って、実習指導者及び教員の指導により実習する。 ④最終日にはカンファレンスを行い、実習目標に対する学びを発表する。 3. 学校保健分野における看護実習 <ol style="list-style-type: none"> ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習小中学校毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者（養護教諭）及び教員の指導により実習する。 ③最終日には、各実習施設において2日間の実習を通したまとめのカンファレンスを実習指導者と共に行う。 ④学内演習において、事前学習や実習後の学習内容の整理、課題レポートの作成等を行う。 4. 産業保健分野における看護実習 <ol style="list-style-type: none"> ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習事業所毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者（産業看護職）及び教員の指導により実習する。 ③学内演習において、事前学習や実習後の学習内容の整理、課題レポートの作成等を行う。 5. 統合カンファレンス 行政分野における看護実習、学校保健分野における看護実習、産業保健分野における看護実習の全ての実習終了後、学内で統合カンファレンスを行う。学生は小グループに分かれ、保健所実習における学びを共有するとともに各分野で現在行われている看護活動に共通する課題及びその課題を改善するための方法について討議する。 6. 実習統合レポートの作成 統合カンファレンスでの学びを基に、「地域・学校・職場の各フィールドで現在行われている看護活動に共通する課題、及び、その課題を改善するための方法」について考察し、実習統合レポートを作成する。 							

<p>担当教員</p> <p>実習場所</p>	<p>地域看護学科目担当教員全員、看護基礎科学科目教員全員</p> <ul style="list-style-type: none"> 各実習グループ（実習保健所毎、実習市町村毎、実習小中学校毎、実習事業所毎）に担当教員を置く。 看護基礎科学科目教員は産業分野における看護実習のみ担当する。 <p>1. 行政分野における看護実習</p> <p>1) 保健所（健康福祉センター）実習 県西健康福祉センター、県東健康福祉センター、県南健康福祉センター、県北健康福祉センター、安足健康福祉センター、栃木健康福祉センター、今市健康福祉センター、烏山健康福祉センター、矢板健康福祉センター</p> <p>2) 市町村実習 宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、日光市（今市保健福祉センター）、小山市、真岡市、大田原市、那須塩原市（黒磯保健センター）、さくら市（氏家保健センター）、下野市、上三川町、益子町、茂木町、芳賀町、壬生町、野木町</p> <p>2. 学校保健分野における看護実習 下野市立小中学校（薬師寺小学校、祇園小学校、緑小学校、吉田西小学校、石橋小学校、古山小学校、細谷小学校、石橋北小学校、国分寺小学校、吉田東小学校、国分寺東小学校、南河内中学校、南河内第二中学校、石橋中学校、国分寺中学校）</p> <p>3. 産業保健分野における看護実習 (株) キヤノンメディカルシステムズ、(株) 沖電気工業 本庄工場、(株) 沖電気工業 富岡工場、(株) TKC、(株) キヤノン 宇都宮事業所光学技術研究所、(株) 小松製作所 栃木工場</p>		
<p>履修条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」 「日常生活援助実習」 「健康生活支援技術Ⅰ」 単位取得見込みが必要な科目 「健康生活支援技術Ⅱ」 「公衆衛生看護活動論」 「公衆衛生看護方法論」 	<p>評価方法</p>	<p>出席状況を前提に、実習担当教員が、実習態度、実習記録物の提出状況、自己評価の実施状況、実習目標の到達度を総合的に評価する。その後、科目責任者が確認し最終評価する。詳細は「公衆衛生看護実習要項」のとおり。</p>
<p>備考</p>	<p>「実践基礎看護学概論Ⅲ」で学習した公衆衛生看護の目的と原則等、並びに、「健康生活支援技術Ⅰ」で学習した保健指導技術及び家族相談援助論を、よく復習して臨むこと。直前の「公衆衛生看護活動論」と「健康生活支援技術Ⅱ」の学習内容、並びに、実習市町をフィールドとして演習する「公衆衛生看護方法論」も、本実習をする上で非常に重要である。「公衆衛生看護実習要項」に記載されている事前学習に取り組んだ上で実習に臨み、本実習による学びを復習しながら、4年次の「行政看護管理論」及び「地域健康危機管理論」において、さらに学びを深める。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。</p>		

授業科目	助産学実習	科目責任者	成田 伸	単位数	8	必修選択別	選択	履修条件あり
				時間数	360	受講セメスター	4年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	周産期の母子と家族を支援するための助産実践の基礎的技術を習得し、助産業務について理解する。						
	到達目標	1. 出産・育児に向けた妊娠中の健康教育・保健指導について学ぶ（集団指導・個別指導）。 2. 出産に向けた一般外来・助産師外来での妊婦管理について学ぶ。 3. 分娩進行中の産婦・胎児および出生直後の新生児のアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 4. 分娩期に必要な看護・助産技術および基礎的な分娩介助技術を習得する。 5. 早期産褥期・早期新生児期の母子と家族アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。						
学習内容並びに方法								
実習期間	8週間							
実習方法	1. 妊娠期実習 1) 妊娠期外来実習（一部助産師外来）…妊婦健診に参加し、妊婦のアセスメントの基礎的技術を学ぶと共に、妊婦とのかかわりについての実際や必要な支援について考える。 2) 妊婦健康教育実習（出産準備教室）…妊娠週数に応じた集団指導での健康教育を見学し、その支援について考える。 2. 分娩・育児期実習 1) 分娩期実習…分娩入院した産婦を受け持ち、分娩期にある母子とその家族に必要な基礎的助産活動を展開する。直接介助を行う受け持ちは9ケース以上とする。うち1ケースは産褥・新生児期までの継続ケースとする。 2) 新生児期実習…間接介助として出生直後の新生児ケアを行う。そのケースについては、できるかぎり、出生後2時間および出生後24時間の観察・評価を行う。 3) 母子の継続実習（継続ケース） ①入院中の母子受け持ち実習…「分娩期助産実習」で受け持ったケース（褥婦、新生児）のうち1ケースを継続して受け持ち、入院中の母子に必要な基礎的援助活動を展開する。 ②退院後の母子受け持ち実習…「入院中の母子受け持ち実習」で受け持ったケース（褥婦、新生児）を継続して受け持ち、退院後1～2週間の時点での外来での支援あるいは家庭訪問、産後1ヶ月健診（可能ならば新生児1ヶ月健診も）の実習を行い、新生児・乳児を養育する家庭における母子とその家族に必要な基礎的援助活動を展開する。 4) 帝王切開術およびその前後の母子のケア実習…帝王切開術を受ける母子に行われるケアを見学し、その状況を理解すると共に、母子とその家族に必要な支援について考える。 3. 地域を中心とした実習の概略 助産所実習…地域で開業する助産師の活動を見学し、その実際を学ぶ。							
実習内容	周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）の助産師の役割、ケア・健康教育の意義と方法、助産過程の展開について学び、助産技術の基本的実践を習得する。							
担当教員	母性看護学教員							
実習場所	自治医科大学附属病院産科病棟・外来、自治医科大学附属さいたま医療センター、大野医院 ことり助産院、マザーズヘイブン佐藤助産院							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「基礎助産学Ⅲ」 「実践助産学Ⅰ」「実践助産学Ⅱ」「実践助産学Ⅲ」 「実践地域助産学」「助産管理学」			評価方法	助産学実習最終評価票に基づき、評価する（全体を通した実習状況、ケース受け持ち実習、実習態度） （100%）			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産学実習選択学生選抜合格者のみが受講できる。選抜方法は別途提示する。 分娩介助実習の進行状況により、延長実習があり得る。長期間の実習で負担も大きい、高い知識と技術を獲得できる。これまでの学びを総括する実習であり、関連する科目の復習を同時進行で行う。教員、臨床教員、臨床実習指導者、臨床スタッフ等の支援があつて成り立っており、適時助言・指導を得ながら、進めていくようにする。 実習開始にあたっては、分娩介助の技術チェックを学内で行う。							

総 合 分 野

授業科目	看護基礎セミナー		科目責任者	浜端 賢次	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
	時間数	30			受講セメスター	1年次 前学期			
学習目的と 到達目標	目的	大学で看護学を学ぶ基本を理解する							
	到達目標	1. 多様な年代の様々な立場にある人々の生き方について理解できる。 2. 大学で学ぶことの基礎となるスタディ・スキルを身につける。							
回数 (1回90分)	学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1	大学での学び方①		[講義] オリエンテーション 大学生活をどのように過ごすのか、高校と大学での学びの違い、大学で何を学ぶのか					浜端・横山(由)	
2	大学での学び方②		[講義] 大学で学ぶための健康管理を考える 健康とは、健康づくりに関する要因、看護職が働く環境の特徴、看護職としての健康管理について学ぶ					永井	
3	レポートの書き方を学ぶ①		[講義] 適切なレポートの書き方 レポート作成の基本と留意点、レポートの例示を踏まえた適切なレポート作成方法を学習する					川上	
4	大学での学び方③		[演習] セミナー担当教員と学生同士のディスカッション 自己紹介ならびにグループメンバーの状況を理解し、大学での学び方や大学生活で大切なことを共有する					セミナー 担当教員	
5	図書館の活用方法を学ぶ		[演習] 大学図書館の機能と資料検索方法 オリエンテーションを受け、蔵書の分類方法と看護関連書籍の位置を確認する。また、情報メディアに触れ、資料検索方法のスキルを学習する					図書館 (担当者)	
6	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る①		[演習] テーマ設定とグループディスカッションの運営方法 グループで話し合う内容を焦点化して、グループディスカッションに関連した書籍やDVD等を検討する					セミナー 担当教員	
7～12	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る②		[演習] グループディスカッション 選択した書籍やDVDを用いて、プレゼンテーションとグループディスカッションの計画を立案し実施する。プレゼンテーションでは資料を作成し、紹介したい内容について自己の考えを発表する。プレゼンテーション後は質疑応答と討論を行い、他者の考え方や学びを共有する					セミナー 担当教員	
13	自分の意見や考え方をまとめる		[演習] グループでの学びと自己の考え方 グループの学びを通して感じ考えたことを、自分の意見や考え方にまとめる					セミナー 担当教員	
14	レポートの書き方を学ぶ②		[演習] 作成したレポートの確認 GDでこれまで学んできた成果や大切な箇所等がレポートに活かされているか事故で確認する。さらに、教員からの助言や指導を活かしているか、再度レポートを点検する					セミナー 担当教員	
15	評価							浜端	
教科書	なし			参考書等	「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」前原澄子、金芳堂、2018年				
履修条件	なし			評価方法	・グループディスカッション (50%) ・レポート(50%)				
備考	大学でさまざまな知識や経験を持つ人たちと関わり、スタディ・スキルを通じて看護学を学ぶ基本を理解する。また、書籍やDVD等を活用してグループディスカッションを行い、自己と他者の考え方や価値観等を学ぶ。グループごとで提示された教材の予習をしてセミナーに臨み、スタディ・スキルで学んだ内容については復習を行う。								

授業科目	文献講読セミナー		科目責任者 佐藤 幹代	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	2年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	看護の充実にかわる研究成果の収集とその応用のための基本的な方法を修得する。						
	到達目標	1. 看護における課題や疑問の解決に向けて文献・情報を収集する。 2. 特定の看護実践課題の改善・充実に向けて研究成果を確認し、看護実践方法の改善課題を整理する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	看護と文献	[講義] コースオリエンテーション 文献の定義と役割、文献検討の必要性を学習する					佐藤	
2	看護に役立つ参考資料 と情報源	[講義] 看護情報の発生と流通、看護に役立つ参考資料(辞典、 法令・通達、社会状況や行政の取りくみ、統計デー タ、薬品)等と単行書、学術雑誌の構成について学習する					佐藤	
3	一次資料・二次資料 と参考文献、文献検索	[講義] 資料の種類と構造、ならびに参考文献の調べ方について 学習する					佐藤	
4	興味・関心のあるテー マ	[演習] 各学生の興味・関心のある看護に関連するテーマを持ち寄 り、グループで検討する					担当教員	
5	看護の文献の講読方法	[講義] 看護に関する和洋文献の講読方法について学習する					佐藤	
6	収集した文献整理と発 表方法	[講義] 収集した文献の整理方法とレポートの記述と口頭発表の 方法について学習する					古島	
7	図書館の効果的活用 と文献検索の実際Ⅰ	[演習] 医中誌Web、J-STAGE、OPAC など主に和文献の検索方 法について、パソコンを操作し、体験的に学習する					担当教員 図書館司書	
8	図書館の効果的活用 と文献検索の実際Ⅱ	[演習] Pub Med、MEDLINE、CINAHL など主に洋文献の検索 方法について、パソコンを操作し、体験的に学習する					担当教員 図書館司書	
9	テーマについて検索	[演習] 自分が調べたいテーマについて検索する					担当教員	
10～14	調べたテーマに関する グループ討議	[演習] 各自が関心あるテーマに関して調べた文献をもとに、 文献検索方法や解釈について、発表資料を作成し討議す る。ウェブ上に提出した資料を各自、熟読し、グルー プワークに臨む。討議を踏まえて、洗練したレポートを作 成する。					担当教員	
15	評価						佐藤	
教科書	「看護研究のための文献検索ガイド(第4版)」 山崎茂明・六本木淑恵、日本看護協会出版会、 2010年			参考 書等	その都度、関連する文献・書籍を紹介する。 グループ別学習では、各学生の興味や関心にそって検索 した参考書を使用する。			
履修 条件	なし			評価 方法	1. レポート(50%) 2. プレゼンテーション(30%) 3. 参加態度(20%)			
備考	研究セミナー、看護総合セミナー、総合実習などを学習するための基盤となる科目である。指定教科書を含め、関連する書籍や検索した文献を精読することまた、ウェブを用いた学習環境を積極的に活用し事前課題に取り組み、講義や演習に臨む。講義後は講義資料に提示してある文献を読み解き、授業内容を復習するとともに、グループ討議を含む演習を通して、レポートを整理する。							

授業科目	研究セミナー	科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講セメスター	3年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	看護実践を積み重ねる過程で専門性を深めていくための基本的な方法を理解する。						
	到達目標	1. 看護研究の目的と意義を理解する。 2. 看護研究方法の基本を理解する。 3. 看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問いを検討する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	研究とは	[講義] オリエンテーション 研究とは何か、研究の目的、研究者・研究対象者・研究協力者等研究に関わる人々について学習する。					成田 春山	
2	看護研究とは何か	[講義] 看護研究とは何か、看護研究の目的と意義、研究の問いの源について学習する。					春山	
3	研究の問いと研究方法	[講義] 研究の問いと、それに応じた研究方法選択の重要性を学習する。					春山	
4	研究のプロセス	[講義] 研究のプロセスを学習する。					春山	
5	看護研究と倫理 研究計画の立案 研究成果のまとめ方	[講義] 看護研究における倫理とは何か、研究を進めていくために不可欠な倫理的配慮について学習する。また、研究計画書の内容、論文の構成と書き方、報告・公表の方法を学習する。					成田	
6～8	文献検討による看護実践課題の整理と研究の問いの検討	[演習] これまでの講義・演習・実習から生じた疑問や自分自身の課題に関する文献検討を行い、研究成果を確認するとともに、看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問いを検討し、レポートにまとめる。					成田・角川・ 谷田部・高嶋 横山・ 田村・小西	
教科書	「看護における研究 第2版」南裕子編、日本看護協会出版会、2021年		参考書等	第1回目の授業において複数の文献を紹介する。				
履修条件	なし		評価方法	1. 最終レポート（85%）。但し、レポートに取り組む際はルーブリック（授業時配付）を参照すること。 2. 講義において提出を求める記録物（15%）				
備考	「看護基礎セミナー」や「文献講読セミナー」等で習得した、文献や情報を収集・検討する力を活かし、看護実践の改善・充実に向け創造的に探求するための能力を養う。「総合セミナー」の基盤となる科目である。受講前に文献検索方法について復習しておくこと、および教科書の該当箇所の予習・復習をしながら学習することが求められる。学生には、各自の研究課題を追求するために、考えを文章化する能力および、自分で学習する姿勢が求められる。							

授業科目	看護総合セミナー		科目責任者	塚本 友栄	単位数	4	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	120	受講 Semester	4年次 通年	
学習目的と到達目標	目的	自己の看護実践を客観的事実として把握でき、社会の変革の方向を理解した看護学の発展を追求するための姿勢を習得する。							
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における課題や疑問の解決に向けて文献・情報を収集する。 2. 特定の看護実践課題の改善・充実に合わせて研究成果を応用する。 3. 自己の看護実施過程を客観的事実として把握する。 4. 看護実践方法の改善課題を整理し、解決するための方法を考える。 							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1	オリエンテーション	[演習] <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習方法 学生は8つのグループに分かれて学習する。 						全教員	
2～15 (前学期)	看護実践における課題に関する文献等、情報を収集する。	<ol style="list-style-type: none"> 2. 演習時期・演習内容 【前学期】(30時間) <ol style="list-style-type: none"> ① 学生はこれまでの学習を振り返り、看護実践における課題を明確化する。 ② 課題に関連する文献等を広く閲覧し、医療や看護を取り巻く社会情勢の変化やその方向性を踏まえながら、得られた情報を整理し、看護実践課題の位置づけを明確化する。 ③ 配置された実習場所で可能な実習計画を作成する。 						全教員	
16～60 (後学期)	研究成果を用いて、課題を明確化し、改善に向けて方法を検討する。 配置された場において、可能な目標及び方法を明確にする。 展開した自己の実践内容を踏まえ、課題を整理し、改善・解決するための方法を考える。	【後学期】(90時間) <ol style="list-style-type: none"> ④ 展開した自己の実践内容を踏まえ、対象者にとって必要とされる看護実践を発展させるための方策について、文献を用いて考察を深め、研究レポートを完成させる。 ⑤ 研究レポートにまとめた内容に基づき、グループ別の発表会において発表する。 						全教員	
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない				
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を取得していることが必要な科目 「文献講読セミナー」「研究セミナー」 「小児期看護実習」「周産期看護実習」 「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」 「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」 「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」 ・単位取得見込みが必要な科目 「総合実習」 			評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究レポート 2. セミナー参加態度 上記を総合的に評価する。				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、「総合実習」と連動しながら学習を展開する。予習として、「文献講読セミナー」「研究セミナー」で得た知識を復習し、これまでの既修の学習を振り返り、自己の『看護実践における課題』について考えておくこと。 ・研究レポート作成にあたっては、自ら行動計画を立案して取り組む姿勢が求められる。 								

授業科目	看護トピックス	科目責任者	里光 やよい	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ。						
	到達目標	1. 現在の看護実践における課題を理解できる。 2. 将来の看護実践のあり方を考えることができる。 3. 卒業を前に、自己の看護職としての心構えと将来展望をもつことができる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～6	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解①	[講義・演習] 高度医療の場における看護、へき地看護、その他医療・看護の現場で注目すべきトピックスや教員の専門領域にかかわるテーマから、現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・7テーマ程度を設定し、学生はいずれか一つのテーマを選択し、学習する。					全教員	
7・8	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解②	[演習] ・学内や学外で行われる学会、講演会、公開講座等に参加し、医療・看護の現場で注目すべきトピックスや現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・学生は自己の関心に応じて主体的に参加し、学習する。					全教員	
9～15	4年間の学習の振り返りと将来展望を踏まえた自己の学習課題の明確化	[講義・演習] これまでの学習を振り返り、また将来展望を踏まえて、自己の課題を明確にし、課題克服のために学習する。					全教員	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1) 1～6回 テーマ毎に、学習態度、記録物などで評価する。(60%) 2) 7・8回 レポートで評価する。(20%) 3) 9～15回 学習態度などで評価する。(20%)			
備考	これまでの学習を踏まえて、高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ科目である。各回に対して出された課題について、予習・復習して学習を進めること。 1～6回は、各看護学科目における授業、7・8回は、学会、講演会、公開講座などへの参加、9～15回は、前期・後期に分けて全体講義を実施する。最高学年に相応しい学習態度で臨むこと。							

授業科目	がん看護学	科目責任者	石井 容子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	15	受講 Semester	2・4年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	対象ががんを患う意味と、生命・生活への支障・影響を理解し、対象とその家族に必要な看護を学習する。						
	到達目標	1. がんの特徴・がん治療の特徴と看護を理解する。 2. がん治療を受ける対象に必要な看護を理解する。 3. がん体験者・がんと共に生きる対象の生活と必要な看護を理解する。 4. がんと共に生きる対象とその家族に必要な緩和ケアを理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	がんおよびがん治療の特徴と看護	[講義] がんの診断やがん治療が対象に与える影響と、緩和ケアの意義および必要な看護について学習する					石井	
2	がん治療を受ける対象に必要な看護	[講義] がん化学療法・放射線療法を受ける対象に必要な看護について学習する					小原	
3	がん体験者・がんと共に生きる患者の生活の理解と看護(1)	[講義] 乳がんと共に生きる対象の生活を理解し、必要な看護について学習する					軽部	
4	がん体験者・がんと共に生きる患者の生活の理解と看護(2)	[講義] がんと共に生きる患者の在宅療養の特徴と必要な看護について学習する					鮎澤	
5	がんと共に生きる患者・家族に必要な緩和ケア(1): 症状緩和	[講義] がんに伴う症状(痛み、リンパ浮腫、倦怠感など)が患者の生命・生活に与える影響と必要な緩和ケア看護について学習する。					皆川	
6	がんと共に生きる患者・家族に必要な緩和ケア(2): エンドオブライフ・ケア	[講義] 死の予期が患者・家族に与える影響、生き抜くことを支える看護、死別後の家族への看護について学習する。					小松崎	
7	がんと共に生きる患者・家族に必要な緩和ケア(3): 意思決定支援まとめ	[講義] 病状の変化や患者・家族の意向に応じた療養環境の選択・調整と必要な緩和ケアについて学習する。					岩永	
8	評価	レポート					石井	
教科書	指定なし			参考書等	「がんサバイバーシップーがんとともに生きる人びとへの看護ケア 第2版」 近藤まゆみ・久保五月編著、医歯薬出版、2019年 「系統看護学講座別巻 緩和ケア 第3版」 恒藤暁・田村恵子編、医学書院、2020年			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート(80%) 2. 学習態度(20%)			
備考	臨地実習や卒後の看護実践の場で、がん患者を担当することが多いため、本科目を選択履修することは大変有意義である。配付資料や参考書等を活用した事前学習・事後学習ならびに授業中の積極的なディスカッションにより、がんと共に生きる患者・家族に必要な看護について学習を深めること。レポートテーマは後日提示する。							

授業科目	へき地の生活と看護		科目責任者 半澤 節子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	1～4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	へき地に住む人々の生活と看護の特徴を理解する。						
	到達目標	1. へき地に住む人々の生活を理解し、人々の健康との関連を考えることができる。 2. へき地における看護活動の現状と地域の社会資源の整備状況を捉え、看護の機能・役割を考えることができる。 3. 1と2からへき地における看護の特徴を考えることができる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義] オリエンテーション 学習目的、学習目標、学習方法、研修施設の概要、 科目の進め方、評価について					青木・半澤	
2	へき地と地域住民の生活の 理解 (1)	[演習] へき地の意味を知り、地域特性と生活との関連について 情報収集およびグループワークを通して考える。					青木・半澤	
3	へき地と地域住民の生活の 理解 (2)	[演習] 研修施設やその地域に関する情報収集および調べ学習 を通して、各自の興味関心をもとに学習目標を設定する。					半澤・上野(お)・田村・ 青木・古島・湯山・ 小原・江角・鹿野・ 八木・佐々木・谷田部 (以下、担当教員)	
4	へき地と地域住民の生活の 理解 (3)	[講義] へき地で行われている医療や看護について理解する。 さまざまな看護活動と人々の生活のかかわりについて 理解する。					青木・半澤	
5～14	臨地における研修 ①へき地における看護活動 ②保健医療福祉活動の見学・ 体験	[演習] 臨地研修施設において、学習課題の達成と自己の学習目 標の達成を目指して研修する。 (おもな研修内容) 出張診療 巡回診療 訪問診療 訪問看護 居宅介護支援 施設見学 デイケア 訪問リハビリテーション レクリエーション 等					担当教員	
15	へき地の看護活動の実際と 住民の生活との関連	[演習] ・研修での学びを報告し、へき地での看護の特徴や機能・ 役割について討議する。 ・討議をもとに研修の学びを整理し、今後の自己の学習 課題を考える。					担当教員	
教科書	指定なし			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 課題レポート 2. 研修前に提出を求める記録物 3. 学習態度 上記を総合的に評価する。			
備考	受講する学生自らが、学習進度に合わせて本授業科目の目的・目標を達成するための自己目標を立てる。 へき地等の看護に興味を持っている学生の受講を望みます。1～4、15回は学内、5～14回は、臨地にて実施する。 事前に研修施設一覧により各研修施設の所在地や研修内容を把握して臨むこと。課題レポートの作成が復習となる。							

授業科目	多職種連携論	科目責任者	塚本 友栄	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講 Semester	4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	保健医療および福祉における看護の役割を理解し、人々の健康生活を支えるために多職種と連携・協働する実践力の基礎を習得する。						
	到達目標	1. さまざまな組織・機関に所属する職種との連携・協働に必要な基礎知識および方法論を理解する。 2. 人々の健康生活にかかわる課題の解決を支える多職種の役割を理解し、連携・協働のあり方を考える。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	最近のわが国の保健医療福祉における多職種連携	[講義] わが国の保健医療福祉の動向と多職種連携との関連について理解する。 多職種連携の概念およびコミュニケーションと合意形成、効果的なカンファレンス、地域資源の活用、ネットワーク等の連携・協働に関する基礎知識を理解する。 第5回～第8回の演習の概要を理解する。					塚本	
2	退院支援と多職種連携	[講義] 退院支援の方法および多職種連携・協働の必要性と課題について、事例をとおして理解する。					塚本	
3	地域移行支援・地域定着支援と多職種連携	[講義] 障害者の地域移行支援・地域定着支援の方法および多職種連携・協働の必要性と課題について、単身の精神障害者の事例をとおして理解する。					半澤	
4	地域包括ケアシステムと多職種連携	[講義] 地域包括ケアシステムの実践および多職種連携・協働の必要性と課題について理解する。					春山	
5～8	多職種連携演習 (医学部6年生との合同演習)	[演習] 療養場所移行に向けた患者・家族の課題解決を目指すことを目的とした多職種および家族とのカンファレンスのロールプレイをとおして、多職種の役割を理解し、連携・協働のあり方を考える。 演習オリエンテーション グループワーク (ロールプレイ準備) グループワーク (ロールプレイ発表) グループワーク (まとめと整理)					塚本・春山 島田・青木	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 演習後の記録物の提出 (70%) 2. 演習前の記録物の提出 (30%)			
備考	病院から地域への移行期支援を中心に取り上げる。対象者にとって必要なケア提供に向けた多職種との連携・協働のあり方を深く追求する学習姿勢が求められる。保健医療福祉に関わる多職種の役割、地域包括ケアの概念、介護保険制度、障害者総合支援法等について予め復習して臨む。ロールプレイを用いた多職種連携演習終了後に、学びを整理しレポートとして提出する。							

授業科目	総合実習	科目責任者	春山 早苗	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講semester	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護の対象者及び看護実践現場の特性を踏まえて、対象者にとって必要な看護を展開するための総合的能力を養う。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人々の権利を考え、人権を護ることができる。 2. 理論的知識や先行研究の成果を活用し、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる。 3. 看護実践の場の特性に応じた看護を実践できる。 4. 看護職間、他職種、他機関との連携・協働の方法、必要な地域ケア体制について検討し、実習施設の地域における機能と役割について説明できる。 5. 現在行われている看護実践における課題を明らかにし、看護専門職として将来展望を持ち、必要な改善について説明できる。 						
学習内容ならびに方法								
実習期間	10日間							
実習場所	<ol style="list-style-type: none"> (1) 高度医療の場（自治医科大学附属病院、とちぎ子ども医療センター、さいたま医療センターなど） (2) へき地を含む地域、その他のフィールド（市町村保健福祉センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、社会復帰施設、グループホーム、事業場、診療所、助産所など） 							
担当教員	看護系全教員							
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) 原則、所定の期間に臨地で実習する。実習日程は各グループにおいて調整可能であるが、必ず前学期で実習を終える。 (2) 学生自らが実習目標及び実習方法を計画立案し、臨地の指導者等と調整しながら看護を展開し、その評価を行う。 (3) 対象者にとって必要な支援を提供するために、看護職として必要な他職種との協働（調整や連携）、チームアプローチについて検討する。 							
実習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月初旬の全体オリエンテーションにおいて、要項を配付し概要を示す。「看護実践における課題に関するアンケート」を指定の日時までに提出する。 ・ 各学生の看護実践における課題に基づきグループ分けを行い、グループ毎に学習する。 ・ これまでの学習を踏まえながら、自己の看護実践における課題を見出す。 ・ 「看護総合セミナー」において検討する自己の看護実践における課題を深めながら、実習施設の特性、受け持つ対象者の特性などを踏まえて、実施可能な実習計画を立案して看護を展開する。 ・ 実習最終日には、グループ毎に到達目標に沿って討議し、実習全体の学びを統合して実習のまとめを行う。 ・ 各実習場所における実習方法の詳細については、グループ別のオリエンテーション時に説明をする。 							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位を取得していることが必要な科目：「小児期看護実習」「周産期看護実習」「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」 			評価方法	実習内容、実習態度、実習記録物、各種カンファレンスの参加状況から総合的に評価する。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文献講読セミナー」及び「研究セミナー」における学習内容をよく復習しながら、本科目の学習に臨む。また、予習として、自己の看護実践における課題に関連する資料や文献等について、日頃から広く情報収集しておく。 ・ 自己の看護実践における課題を明確にしつつ、自ら行動計画を立案し、主体的に実習を行う。 ・ 「看護総合セミナー」と連動しながら学習を展開し、本科目の学習を踏まえて「看護総合セミナー」の学習を深められるようにする。 ・ 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 							